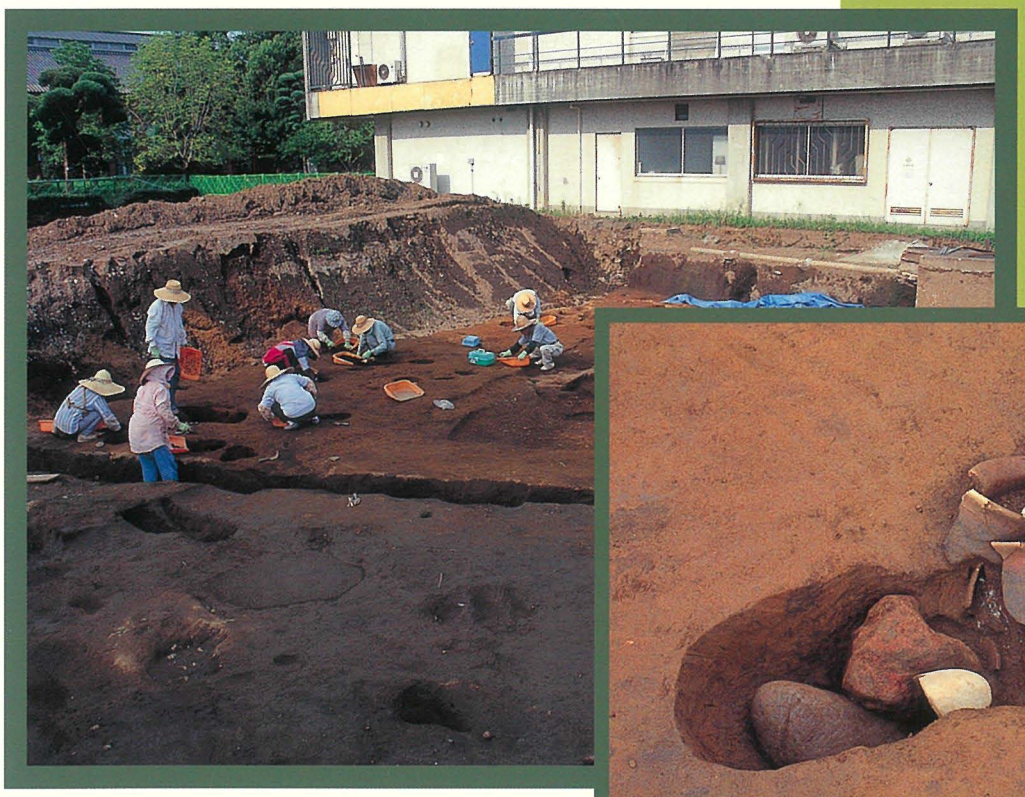
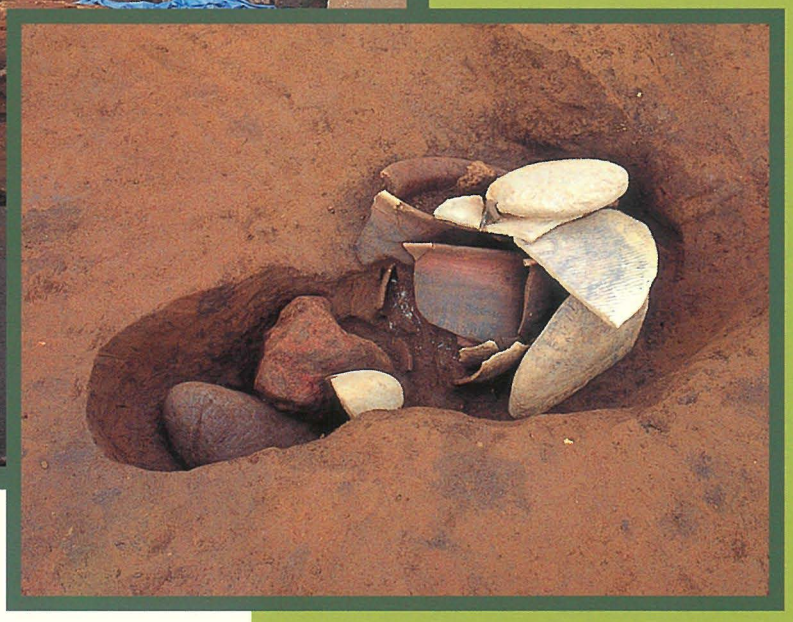
THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES KUMAMOTO UNIVERSITY/2002

9

熊本大学埋蔵文化財調査室年報　2002年度





2003　熊本大学埋蔵文化財調査室

THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES

KUMAMOTO UNIVERSITY/2002

9

熊本大学埋蔵文化財調査室年報　2002年度

2003　熊本大学埋蔵文化財調査室

序　文

熊本大学は、明治にさかのぼるいくつかの前身の学校を統合再編して設置された経緯からそのキャンパスは熊本市内外の８地区に点在している。そして、これらのキャンパスのすべてが埋蔵文化財包蔵地に指定されている。

一方、本学は、現地再開発を進めてきており、耐用年数を超え老朽化した建物の更新や新築に際して、埋蔵文化財の調査が不可欠である。

本学では、埋蔵文化財を発掘調査し、文化財を保存すると共に、調査の結果を研究に資することを目的とした埋蔵文化財調査室と埋蔵文化財調査委員会を設置し、年度ごとに鋭意調査研究を展開してきた。本年報は、平成14年度内に実施された調査研究の成果を取りまとめたものである。

本年度実施した発掘調査は、黒髪南地区で実施された熊本大学（黒髪）総合研究棟建設に伴うものと隣接のインキュベーション施設建設に伴うものが主なものであり、今後の考古学研究にも貴重な資料となりうる数々の成果が得られた。調査研究の成果は本年報に詳述されているが、調査地点は延書式にみる「蚕養（こかい）駅」および官道推定地の中核をなす部分であり古代の方形区画敷地址の広がりと古代道路の位置の確認という点で重要な位置に相当し、興味深い結果が期待された。調査の結果、古代官道の側溝と思われる溝２条を確認し、ほぼこの位置に官道が通ることが明らかになった。また、時期的にこれらに先行する竪穴住居址群も調査区東側を中心として存在することが明らかになり、黒髪南地区一帯に古墳時代末から古代にかけて集落や官衛関連施設が存在したことが明らかになった。加えて、調査された他地点からも弥生時代中期後半の甕棺が発見されるなど数々の貴重な調査結果が得られている。

本調査は熊本大学のキャンパスのすべてが埋蔵文化財包蔵地に指定されているが故に義務付けられたものではあるが、埋蔵文化財調査室及び同調査委員会は学術的な立場から真摯に調査研究を展開し、考古学上高く評価され得る成果を収めた。埋蔵文化財調査室長、甲元眞之文学部教授及び同調査委員会委員長、北野隆工学部教授をはじめ調査に当たられた教職員、大学院生、協力者各位のご努力に深く敬服し感謝すると共に、本調査結果が今後の考古学研究に十分活用されることを期待する。

2003年４月

熊本大学

学　長　﨑元達郎

例　言

1. 本書は熊本大学構内において，2002年４月１日から2003年３月31日まで行われた埋蔵文化財の調査および熊本大学埋蔵文化財調査室の活動内容に関する年次報告書である．
2. 構内遺跡の調査は，昨年度に引き続き，年次と調査順を表す調査番号で表すこととし，出土遺物や記録類もこの番号で整理・管理している．
3. 遺跡略号は，地区ごとにローマ字３文字で以下のように表記した．黒髪町遺跡黒髪南地区（KKS），同北地区（KKN），本庄遺跡医学部構内（HJM），同病院構内（HJH），同医療技術短期大学部構内（KHJ），京町台遺跡教育学部附属小中学校構内（KMS），大江遺跡群薬学部構内（HJP）．
4. 遺物への注記は，遺跡略号＋調査番号＋出土遺構（位置）の順で行った．
5. 本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査室にて保管している．
6. 本書で使用した遺構実測図は，小畑弘己・大坪志子をはじめとする調査参加者が，遺物実測は小畑・大坪・古賀敬子・溜渕俊子・林田恵子・早田咲百合，製図は小畑・大坪が行った．
7. なお，遺構実測には手書きによる記録とともに遺跡調査汎用システム（カタタ Ver. 3―アーケオテクノ社）を使用した．
8. 本書の執筆は，表１・2，付篇および抄録を坂元が，Ⅰ章・Ⅱ－２・Ⅱ－４章を小畑が，Ⅱ－１・Ⅱ－３章を大坪が、Ⅲ章・英文サマリーを小畑・大坪が，ハングル文については小畑が行なった．
9. 本書の編集は大坪が行った．

目　次

<本文目次>

第Ⅰ章　本年度の調査概要 ―― 1
第Ⅱ章　発掘調査 ―― 5
Ⅱ－1　0203調査地点 ―― 5
1. 遺跡の立地と周辺地形 ―― 5
2. 調査の概要 ―― 5
3. 調査の結果 ―― 5
a　基本層序 ―― 5
b　検出遺構と遺物 ―― 5
4. 成果と問題点 ―― 5
Ⅱ－2　0204調査地点 ―― 9
1. 遺跡の立地と周辺地形 ―― 9
2. 調査の概要 ―― 9
3. 調査の結果 ―― 9
a　基本層序 ―― 9
b　検出遺構と遺物 ―― 9
<溝> ―― 9
<竪穴住居址> ―― 13
<その他の遺構> ―― 13
<弥生時代の遺物> ―― 13
<縄文時代の遺物> ―― 13
4. 成果と問題点 ―― 24
Ⅱ－3　0206調査地点 ―― 25
1. 遺跡の立地と周辺地形 ―― 25
2. 調査の概要 ―― 25
3. 調査の結果 ―― 25
a　基本層序 ―― 25
b　検出遺構と遺物 ―― 25
4. 成果と問題点 ―― 25
Ⅱ－4　0210調査地点 ―― 27
1. 遺跡の立地と周辺地形 ―― 27
2. 調査の概要 ―― 27
3. 調査の結果 ―― 27
a　基本層序 ―― 27
b　検出遺構と遺物 ―― 27
<トレンチ17> ―― 27
<トレンチ19> ―― 27
<トレンチ20> ―― 27
<トレンチ21> ―― 27
4. 成果と問題点 ―― 27
第Ⅲ章　立会・試掘調査 ―― 37
Ⅲ－1　黒髪北地区 ―― 37
1. 黒髪団地北地区大学教育研究センターC棟空調機取設工事給排水および室外機基礎工事に伴う立会調査（0201）―― 37
2. 黒髪団地北地区外灯設備工事に伴う立会調査（0202）―― 37
3. 黒髪団地北地区図書館南側学生部駐車場拡張工事に伴う立会調査（0208）―― 41
4. 黒髪団地北地区外灯設備工事に伴う立会調査（0216）―― 42
5. 黒髪団地北地区外灯設備工事に伴う立会調査（0218）―― 42
Ⅲ－2　黒髪南地区 ―― 43
1. 黒髪団地南地区インキュベーション施設新営工事に伴う試掘調査（0203）―― 43
2. 黒髪団地南地区総合研究棟新営工事に伴う試掘調査（0204）―― 43
3. 黒髪団地南地区食堂裏エコクリーンソイル工事に伴う試掘調査 ―― 43
4. 黒髪団地南地区総合研究棟新営一次掘削に伴う電気工事に伴う立会調査（0207）―― 44
5. 黒髪団地南地区通用門拡幅工事に伴う立会調査（0212）―― 44
Ⅲ－3　本荘北地区 ―― 45
1. 本荘団地北地区（医病）総合研究棟新営（渡り廊下部分）工事に伴う立会調査（0211）―― 45
2. 本荘団地北地区（医病）総合研究棟新営電気設備工事に伴う立会調査（0213）―― 46
3. 本荘団地北地区（医病）基幹環境整備（外灯設備）工事に伴う立会調査（0214）―― 46
4. 本荘団地北地区（医病）中央診療棟建設工事に伴う試掘調査 ―― 46
Ⅲ－4　京町地区 ―― 48
1. 京町団地附属小学校スロープ取設工事に伴う

立会調査（0209）―― 48
Ⅲ－5　九品寺地区 ―― 48
1. 九品寺地区体育部室（プレハブ）新設工事に伴う立会調査（0217）―― 48
2. 九品寺地区塀新設工事に伴う立会調査(0219) ―― 48
Ⅲ－6　薬学部地区 ―― 49
1. 薬学部地区実験動物慰霊碑建立工事に伴う立会調査（0215）―― 49
2. 大江総合研究棟建設に伴う試掘調査 ―― 49
跋文 ―― 51
Summary ―― 52
付篇1 ―― 53
付篇2 ―― 55
報告書抄録 ―― 57

＜挿図目次＞

図1　黒髪町遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000） ―― 2
図2　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000） ―― 6
図3　0203調査地点遺構配置図（1/200）・調査区西壁土層断面図（1/100）・出土遺物実測図（1/4） ― 7
図4　0204調査地点遺構配置図（1/200） ―― 10
図5　各遺構土層断面図（1/100・1/50）―― 12
図6　1号竪穴住居址・2号竪穴住居址実測図（1/50） ―― 14
図7　3号竪穴住居址実測図（1/50）―― 15
図8　4号竪穴住居址実測図（1/50）―― 16
図9　21号火葬墓・出土遺物実測図（1/40・1/4）―― 17
図10　0204調査地点出土遺物実測図1（1/4） ―― 18
図11　0204調査地点出土遺物実測図2（1/4・1/3） ― 19
図12　0206調査地点遺構配置図・南壁土層断面図・遺物出土状況・出土遺物実測図（1/100・1/40・1/12・1/3） ―― 26
図13　トレンチ17・19遺物出土状況（1/40）―― 28
図14　トレンチ20・21遺物出土状況（1/40）―― 29
図15　各トレンチ出土遺物実測図（1/3・1/4・2/3） ― 30
図16　黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000） ―― 38
図17　黒髪北地区東半における調査地点配置図（1/2000） ―― 39
図18　0218調査地点遺構配置図・南壁土層断面図・出土遺物実測図（1/20・1/4）―― 42
図19　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000） ―― 47
図20　京町地区における調査地点配置図（1/3000）― 48
図21　九品寺地区における調査地点配置図（1/2000） ―― 49
図22　薬学部地区における調査地点配置図（1/2000） ―― 50

＜写真目次＞

写真1　調査区全景（東より）―― 8
写真2　調査区畑址（東より）―― 8
写真3　調査区全景（東より）―― 8
写真4　西壁土層（東より）―― 8
写真5　西側トレンチ西壁（東より）―― 8
写真6　調査風景（南東より）―― 8
写真7　焼骨 ―― 17
写真8　調査区南側全景（西より）―― 20
写真9　調査区北側全景（西より）―― 20
写真10　調査区南側（南西より）―― 20
写真11　調査区南側（東より）―― 20
写真12　調査区北側（東南より）―― 20
写真13　調査区北壁土層断面・5・6号溝（南より）― 20
写真14　調査区北壁土層断面（南西より）―― 21
写真15　1・2号竪穴住居址（南より）―― 21
写真16　2号竪穴住居址竈（南より）―― 21
写真17　1号竪穴住居址（南より）―― 21
写真18　1号竪穴住居址竈完掘状況（南より）―― 21
写真19　1号竪穴住居址竈（東より）―― 21
写真20　2号竪穴住居址（南より）―― 22
写真21　2号竪穴住居址完掘状況（南より）―― 22
写真22　2号竪穴住居址遺物出土状況（西より）―― 22
写真23　3号竪穴住居址（南より）―― 22
写真24　3号竪穴住居址竈完掘状況（南より）―― 22
写真25　4号竪穴住居址東西土層壁面（北より）―― 22
写真26　4号竪穴住居址（南西より）―― 23
写真27　4号竪穴住居址竈横土器出土状況（南より） ―― 23
写真28　4号竪穴住居址竈（南西より）―― 23

写真29　4号竪穴住居址竈土器出土状況（南より）― 23
写真30　21号火葬墓（西より）――― 23
写真31　9号溝土層断面（南より）――― 23
写真32　樹木移植地調査区西側（北より）――― 24
写真33　樹木移植地調査区南側（西より）――― 24
写真34　樹木移植地調査区南側（南より）――― 24
写真35　遺物出土状況（東より）――― 25
写真36　調査区全景（北より）――― 25
写真37　樹木③調査地点周囲掘削風景（西より）―― 27
写真38　樹木⑬トレンチ掘削状況（東より）――― 31
写真39　Ⅱ区トレンチ5掘削状況（東より）――― 31
写真40　Ⅱ区トレンチ6掘削状況（東より）――― 31
写真41　Ⅱ区トレンチ8掘削状況（北より）――― 31
写真42　Ⅱ区トレンチ7掘削状況（西より）――― 31
写真43　Ⅱ区トレンチ9掘削状況（北より）――― 31
写真44　Ⅱ区トレンチ10掘削状況（北より）――― 32
写真45　Ⅱ区トレンチ11掘削状況（西より）――― 32
写真46　Ⅱ区トレンチ12掘削状況（北より）――― 32
写真47　Ⅱ区トレンチ13掘削状況（東より）――― 32
写真48　Ⅱ区トレンチ1掘削状況（西より）――― 32
写真49　Ⅱ区トレンチ15掘削状況（東より）――― 32
写真50　Ⅱ区トレンチ14掘削状況（東より）――― 33
写真51　Ⅱ区調査地点全景（西より）――― 33
写真52　Ⅲ区調査地点全景（北東より）――― 33
写真53　Ⅳ区調査地点全景（南東より）――― 33
写真54　Ⅳ区トレンチ20調査風景（南東より）――― 33
写真55　Ⅳ区トレンチ21硬化面検出状況（東より）― 33
写真56　Ⅲ区トレンチ16全景（東より）――― 34
写真57　Ⅲ区トレンチ17全景（東より）――― 34
写真58　Ⅳ区トレンチ20第2硬化面検出状況（北より）
――― 34
写真59　Ⅳ区トレンチ20遺物出土状況（東より）―― 34
写真60　Ⅳ区トレンチ20磨石ほか出土状況（西より）
――― 34
写真61　Ⅳ区トレンチ20包含層下面遺物出土状況
（東より）――― 34
写真62　Ⅳ区トレンチ21包含層遺物出土状況
（東より）――― 35
写真63　Ⅲ区トレンチ19・1号住居址（北より）―― 35
写真64　樹木①調査地点トレンチ土層（南より）―― 35
写真65　樹木①調査地点近景（西より）――― 35
写真66　樹木②調査地点トレンチ土層（東より）―― 35
写真67　トレンチ18位置換え掘削風景（北より）―― 35
写真68　掘削風景（南西より）――― 37
写真69　掘削状況（南より）――― 37
写真70　掘削風景（南西より）――― 37
写真71　トレンチ2掘削風景（南より）――― 40
写真72　トレンチ1土層断面（東より）――― 40
写真73　トレンチ3掘削風景（北西より）――― 40
写真74　トレンチ3南壁土層断面（北より）――― 40
写真75　トレンチ6掘削風景（西より）――― 40
写真76　トレンチ6掘削状況（東より）――― 40
写真77　トレンチ7掘削風景（西より）――― 41
写真78　トレンチ7掘削状況（北より）――― 41
写真79　トレンチ8掘削状況（西より）――― 41
写真80　掘削風景（北より）――― 41
写真81　掘削状況（北より）――― 41
写真82　掘削風景（西より）――― 43
写真83　トレンチ1掘削状況（北より）――― 43
写真84　トレンチ2掘削状況（北より）――― 43
写真85　掘削風景（南より）――― 44
写真86　トレンチ掘削状況（南より）――― 44
写真87　電気工事部掘削風景（南より）――― 44
写真88　電気工事部掘削状況（北より）――― 44
写真89　石垣撤去部作業風景（西より）――― 45
写真90　石垣撤去部掘削状況（西より）――― 45
写真91　西側門柱撤去状況（西より）――― 45
写真92　作業風景（北西より）――― 45
写真93　掘削状況（北西より）――― 45
写真94　掘削状況（南西より）――― 46

＜表目次＞

表1　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧 ―― 1
表2　2002年度調査一覧 ――― 3

第Ⅰ章　本年度の調査概要

本年度は表２のとおり，発掘調査４件，立会調査14件，試掘調査２件を実施した．

協議の結果，本年途上より試掘調査は熊本県文化課が担当することになり，県文化課によって３件の試掘調査が熊本大学敷地内で実施された．

本年度実施した発掘調査は，黒髪南地区で実施された熊本大学（黒髪）総合研究棟建設に伴う発掘調査（0204調査地点）とインキュベーション施設建設に伴う発掘調査（0203調査地点）とそれらの付帯工事および樹木移植などに伴うものが主なものであった．

0204調査地点は延喜式にみる「蚕養（こかい）駅」および官道推定地の中核をなす部分であり，既往の調査（9603・9704調査地点）で明かにされた古代の方形区画敷地址の広がりと古代道路の位置の確認という点で重要な位置に相当し，調査の進展が期待された．結果的に遺存状態は悪いものの古代官道の側溝と思われる溝２条を確認し，ほぼこの位置に官道が通ることが明らかになった．残念ながら方形区画の詳細な性格や規模は明らかにできなかったが，この一帯が蚕養駅関連のきわめて重要な施設であることは，道路に併設するという位置関係から容易に想像される．また，時期的にこれらに先行する竪穴住居址群も調査区東側を中心として存在することが明かになり，この総合研究棟建設に伴う樹木移植工事に伴う調査（0210調査地点）においても，部分的ではあるが本地点の北側および東側に竪穴住居群が広がることが確認でき，黒髪南地区一帯に古墳時代末～古代にかけての集落や官衙関連施設が存在したことが明らかになった．

さらに0206調査地点では削平は受けていたものの弥生時代中期後半の甕棺が発見され，隣接地である9704調査地点で確認した段丘崖縁辺の弥生時代甕棺墓地の広がりを確認した．同時期の遺物はさきの0204調査地点でも破片であるが出土しており，墓地もしくは集落址がさらに広がりをみせる気配である．

0204調査地点やそれに隣接する0210調査地点トレンチ20・21の調査結果によって，縄文時代の遺物も後期・晩期前半を中心としたものが基盤土としている暗褐色土層上部を中心に包含されることが再確認された．石鏃・砥石・磨石などの石器類もわずかではあるが伴っている．縄文時代早期から晩期にかけての縄文時代集落の分布に関しても今後より精査に努めなければならないであろう．

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧（アミ部分は本年度調査した地区を示す）

No.	地区名（学部名）	所在地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備　考
1	黒髪北地区（法・文・教・大教センター） 黒髪北地区（教育学部附属養護学校）	熊本市黒髪２丁目40－1 熊本市黒髪５丁目17－1	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
2	黒髪南地区（工・理）	熊本市黒髪２丁目39－1	黒髪町遺跡	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
3	京町地区（教育学部附属小・中学校）	熊本市京町本丁5－12	京町台遺跡	集落址	弥生・近世	
4	城東地区（教育学部附属幼稚園）	熊本市城東5－9	熊本城址	城館址・熊本城関連遺構	近世	
5	教育学部新南部農場	熊本市新南部居屋敷240－1	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
6	理学部臨海実験所	天草郡松島町大字会津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査によって貝塚でないことが判明
7	本荘南地区（医）	熊本市本荘２丁目2－1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	
8	本荘北地区（医学部附属病院）	熊本市本荘１丁目1－1	本庄遺跡（熊大病院敷地遺跡）	散布地・集落址・墓地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近代	
9	九品寺地区（医療技術短期大学部）	熊本市九品寺４丁目24－1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	周辺遺跡
10	薬学部（薬）	熊本市大江本町5－1	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
11	大江地区	熊本市渡鹿４丁目1－1	大江遺跡	集落址	奈良・平安	

図１　黒髪町遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）

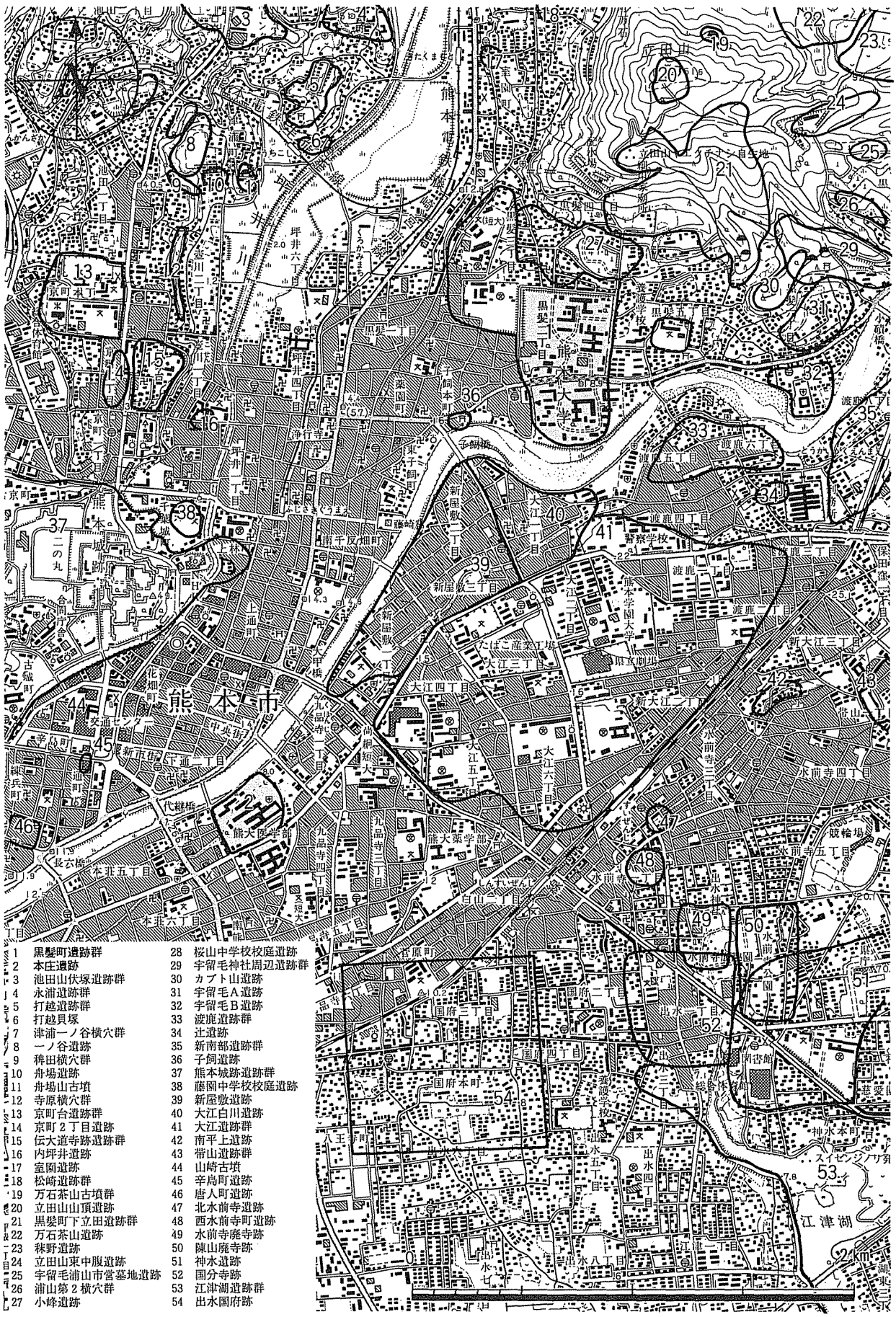


表２　2002年度調査一覧

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
02・４・３～４・４	0201	黒髪団地北地区大学教育研究センターＣ棟空調機取設工事給排水及び室外機基礎工事	立会調査	29.3㎡		遺構・遺物なし
02・４・15～４・16	0202	黒髪団地北地区外灯設備工事	立会調査	199㎡		遺構・遺物なし
02・４・17	0203	黒髪団地南地区インキュベーション施設新営工事	試掘調査	３㎡		
02・４・17	0204	黒髪団地南地区総合研究棟新営工事	試掘調査	４㎡		
02・５・20～５・29	0206	黒髪団地南地区総合研究棟新営に伴う樹木移植工事	発掘調査	28㎡		甕棺
02・５・30～８・２	0203	黒髪団地南地区インキュベーション施設新営工事	発掘調査	810㎡	近世	畑址
02・６・３	0207	黒髪団地南地区総合研究棟新営一次掘削に伴う電気工事	立会調査	32㎡		遺構・遺物なし
02・６・12～８・14	0204	黒髪団地南地区総合研究棟新営工事	発掘調査	2,803㎡	縄文・古墳古代	住居址・溝・火葬墓・縄文土器・土師器・須恵器
02・７・２	0208	黒髪団地北地区図書館南側学生部駐車場拡張工事	立会調査	24㎡		遺構・遺物なし
02・８・29	0209	京町団地附属小学校スロープ取設工事	立会調査	13㎡		遺構・遺物なし
02・10・１～10・３，11・18	0210	黒髪団地南地区工学部樹木移植工事	発掘調査	61.19㎡		包含層・縄文土器・石鏃
02・10・７	0211	本荘団地北地区(医病)総合研究棟新営(渡り廊下部分)工事	立会調査	32㎡		遺構・遺物なし
02・12・３，12・５，12・11	0212	黒髪団地南地区通用門拡幅工事	立会調査	480㎡		遺構・遺物なし
03・１・23，１・24，１・28	0213	本荘団地北地区（医病）総合研究棟新営電気設備工事	立会調査	25㎡		遺構・遺物なし
03・２・７	0214	本荘団地北地区（医病）基幹環境整備（外灯設備）工事	立会調査	181㎡		遺構・遺物なし
03・２・18	0215	薬学部地区実験動物慰霊碑建立工事	立会調査	3.4㎡		遺構・遺物なし
03・２・21	0216	黒髪団地北地区外灯設備工事	立会調査	18.5㎡		遺構・遺物なし
03・３・７	0217	九品寺地区体育部室（プレハブ）新設工事	立会調査	３㎡		遺構・遺物なし
03・３・10	0218	黒髪団地北地区外灯設備工事	立会調査	2.6㎡	古代	住居址・土師器・須恵器
03・３・11	0219	九品寺地区塀新設工事	立会調査	36㎡		遺構・遺物なし

※　0205地点については県文化課主催の試掘調査のため欠番とした.

他の地区では発掘調査は実施していないが，電灯設置などに伴う工事や駐車場建設工事などが実施されたため立会調査を実施した．電灯工事以外は掘削深度が浅く，比較的ダメージは少ないもので，遺構・遺物などは部分的に確認しているにすぎない．

また，本年度熊本県文化課によって実施された試掘調査の結果，本荘北地区（大学附属病院地区）および薬学部地区において遺跡の広がりの状況が把握できた．本荘北地区内の試掘調査は中央診療棟建設に伴う調査であり，医学部臨床研究棟北側，外来臨床研究棟の西側駐車場部に相当する．試掘の結果，地表下２ｍ余りまで軟らかい土と砂の互層が連続し，その基底部には明治時代～大正時代くらいの陶磁器を含む包含層のみが残存していた．さらに掘り進めたが砂層が連続し，河川堆積物の様相であった．この一帯は病院内を流れる暗渠の南側に相当し，旧河川の流路であったものと思われる．この結果，この暗渠より西側，つまり白川河川沿いにかけての遺構の広がりが濃密であることが際立ってきた．この暗渠南側については本格的な発掘調査がこれまで実施されていないため確実ではないが，これまでの立会調査などから纏まった遺構群や遺物包含層には出会っていない．しかし，道路を隔てた本荘南地区（医学部敷地）北辺においては地表下80cmで古代の遺物包含層を確認している．よって，今後はこの大学病院敷地の南半における旧河川の流路と遺構の残存状況が調査の焦点となってくるものと思われる．

また，薬学部敷地内においても大江総合研究棟建設工事に先立ち試掘調査が実施されたが，地表下２ｍまで掘削したが遺構・遺物は検出されなかった．本学敷地内においては旧立会調査において，北西部において地表下80cmほどで古代包含層を確認している．敷地内の旧地形と埋蔵文化財の残存状況が地点によって大きく異なることが予想され，今後の調査の参考となった．

第Ⅱ章　発掘調査

Ⅱ—1　0203調査地点

1. 遺跡の立地と周辺地形

本地点は，工学部・理学部が所在する黒髪南地区の南端に位置する．白川中流域の右岸に位置し，白川が最も大きく蛇行する地点である．黒髪町遺跡群の一角であり，白川をはさんだ対岸には大江白川遺跡群・大江遺跡群が広がっている．これまでの構内調査では，本地点の北西部で弥生時代の甕棺墓群（9804調査地点）・古代の遺構群（9704・9603調査地点）が確認されている．

2. 調査の概要

平成13年度末に計画があげられた工事である．東側に隣接する9909調査地点において近世の畑址が検出されていたため，本地点でも畑址が検出されるものと予想され，試掘で畝が確認された．また，9909調査地点西側で近世墓群が確認されていたため，本調査地点東側には近世墓の存在が予想された．

５月末より調査を開始したが，調査区東半は調査中に近代墓（旧熊本刑務所墓地）と判明した．熊本刑務所との協議で，遺骨について大学が対処することになった．調査室と施設部で協議を行い，近代墓は調査対象から外し，遺骨の収集については専門業者に依頼した．大学で荼毘にふしたのち熊本市へ引き渡した．

調査は西半の畑址について行った．畑址の調査終了後，下に前代の遺構が無いことを確認して調査を終了した．

＜調査面積＞

810㎡

＜調査期間＞

2002年５月30日～８月２日

＜調査員・参加者＞

小畑弘己，大坪志子．

伊藤千代子，岡田イツ代，岡村久美子，河野義勝，黒木重信，黒木タケ子，白石美智子，白川チズ子，新里亮人，鈴木笙子，高松北子，田口伸也，溜渕俊子，野口春美，林田恵子，早田咲百合，番山明子，福田久美子，堀川貞子，前田日出男，松井昭子，水上順子，宮村邦子，森川征子，森川護，森田登，森みどり．

3. 調査の結果

a　基本層序（図３）

表土から３層まで現代埋土である．駐車場や道路として利用されていたため，バラスやアスファルトが互層をなしている．4層は昭和28年の白川大洪水による砂層（2.5Y2/1）である．５層～16層は近世以降の洪水砂などの埋土である．19層は9909調査地点のⅤ層（近世後期耕作土層）に，20層はⅦ層（近世中期耕作土層）に対応するものと思われる．

b　検出遺構と遺物

調査区の南西隅で近世の畑址を検出した．30条ほどの畝が，南北方向・４列に作られていた．9909調査地点の畑址と比較すると畝が短く畑の単位が小さい．

調査区の東半分は，文化・文政の年号をもつ墓石が検出されたため，当初は近世墓と考え調査を行った．しかし，40基ほどを調査した段階で他の近世墓で見られるような副葬品が無く，また眼鏡・ガラス瓶といった比較的新しい遺物が伴うことから，調査地点の過去の状況を調べた結果，旧官営墓地（熊本刑務所墓地）であることが判明した．熊本刑務所設立の明治初期から昭和20年代までの期間の墓地と推定される．

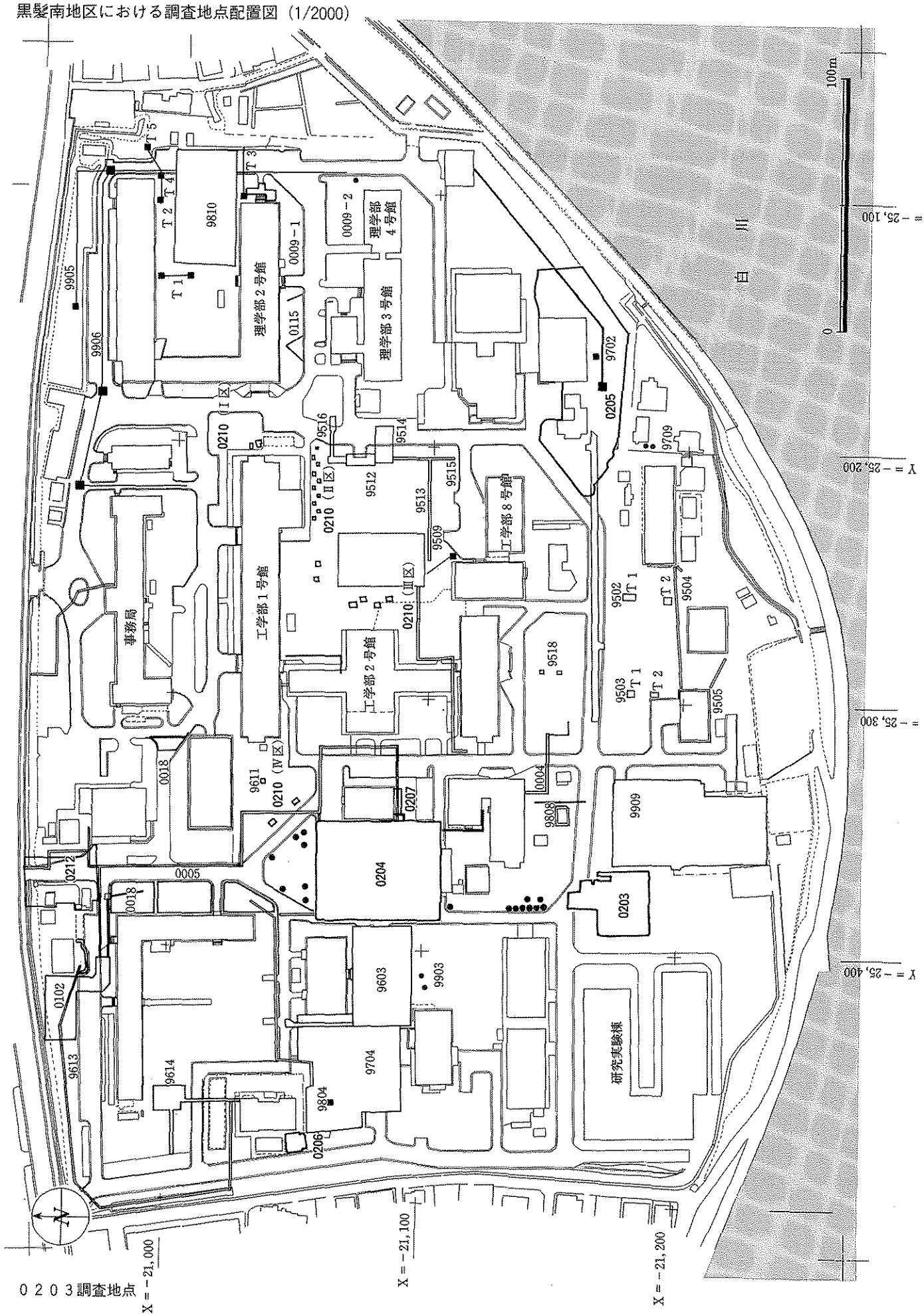
ガラス瓶は青色をした斜光性の薬品用である．肩部から上は組合せで，最後に口縁を作っている．被葬者の手元や足元に添えてあった．

4. 成果と問題点

今回の調査で畑址の一部が西側および南側に延びることがわかった．しかし，今回の畑の範囲から推察すると，9909調査地点の畑の西側端は近代墓の範囲内にあったようである．畝の土壌は水洗選別を行うためサンプリングしており，精査の結果は別に報告したい．

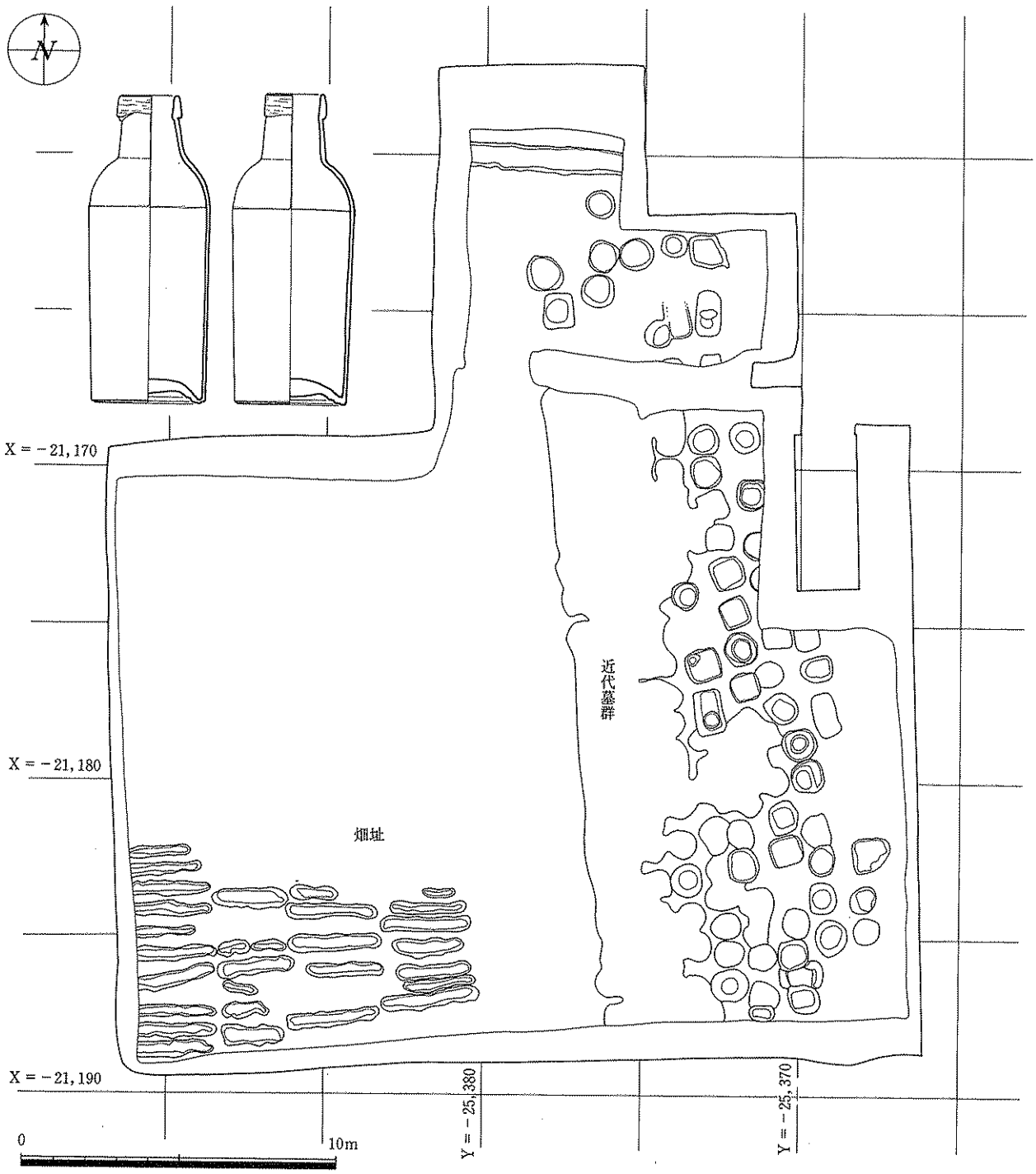
トレンチ調査の結果，畑址下には遺構はなかった．畑面より80cm下に古代の包含層と思われる層があるが遺物がほとんどない．その下は粘土層・黄褐色土層（地山）・砂層で，近世以前にこの付近一帯を積極的に利用した様子はみられなかった．

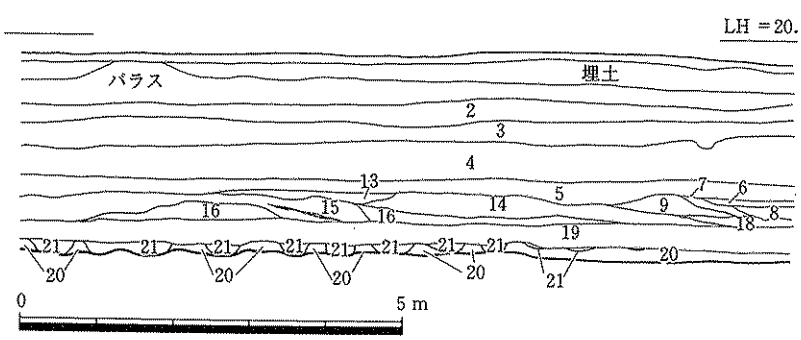
図２　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）



Ⅱ－１　０２０３調査地点

図３　0203調査地点遺構配置図（1/200）・調査区西壁土層断面図（1/100）・出土遺物実測図（1/４）





バラス

1．暗褐色土層（10YR3/3）
2．褐色土層（7.5YR4/4）
3．黒褐色混砂土層（10YR2/2）
4．オリーブ黒砂質シルト層（5Y3/1）
　S28洪水層
5．黒褐色土層（10YR2/2）
6．黒褐色土層（10YR2/3）
7．暗褐色土層（10YR3/3）
8．黒褐色土層（10YR2/3）
9．黒褐色土層（10YR2/2）
10．褐色土層（7.5YR4/4）
11．黒褐色土層（10YR2/2）
12．黒褐色土層（10YR2/2）
13．黒褐色土層（10YR2/3）
14．黒褐色土層（10YR2/3）
15．黒褐色土層（10YR2/3）
16．黒褐色土層（10YR2/2）
17．黒褐色土層（10YR2/2）
18．黒褐色土層（10YR2/3）
19．黒褐色土層（10YR2/3）
20．黒褐色土層（10YR2/3）
21．暗オリーブ褐色土層（2.5Y3/3）

写真１　調査区全景（東より）

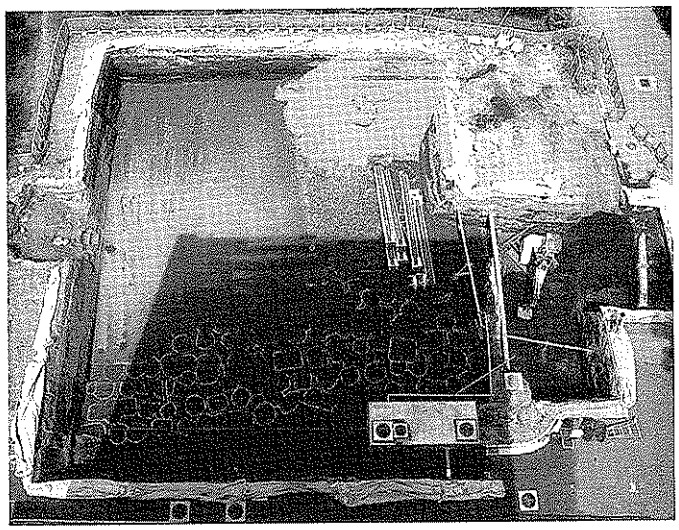


写真２　調査区畑址（東より）

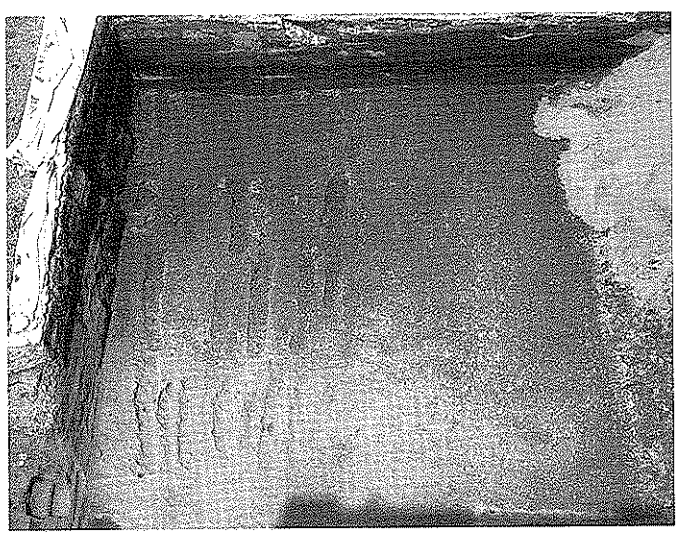


写真３　調査区全景（東より）

写真４　西壁土層（東より）

写真５　西側トレンチ西壁（東より）

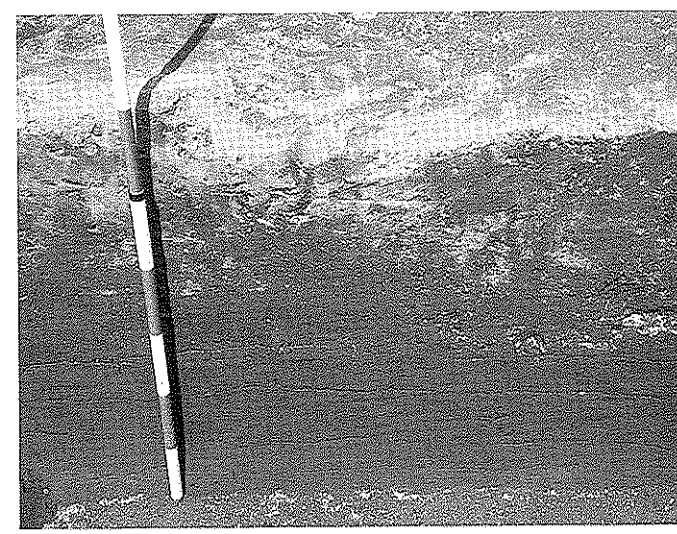


写真６　調査風景（南東より）

Ⅱ—2　０２０４調査地点

1. 遺跡の立地と周辺地形

本調査地点は白川右岸の標高17mの地点にあたる．南地区の中部南西部に位置し，9603調査地点と道路を隔てた位置にある．旧工学部建物が調査区内に存在しており，およそ半分は破壊されていた．また，調査区西側1/3ほどは旧運動場部分に相当し，削平を受けていた．9603調査地点（熊本大学埋蔵文化財調査室年報３）とそれに接する9704調査地点（熊本大学埋蔵文化財調査室年報４）では東西方向の方形区画溝（幅およそ２m）とそれに囲まれた掘立柱建物が検出されており，9603調査地点のほぼ中央で検出された２本の溝（溝間４m）は本学内に存在が推定されている古代道路に比定される意見があるなど，今回の調査地点でも古代官衙関連の遺構の存在が予想されていた．

2. 調査の概要

本調査地点は平成15年度竣工予定の総合研究棟の建築予定地であった．建築に先立ち，隣接する9603調査地点での調査成果により，削平は受けているものの遺構の残存状態はほぼ良好であること，さらに先に述べたように，「蚕養（こかい）駅」と古代官道の存在が予想されている大学構内においても重要な地点であるため，施設部と協議の上，4月17日に試掘調査を実施した．その結果，旧工学部建物跡地の撹乱された部分を除き，遺構や包含層が残存していることが判明し，調査が必要であると判断された．

５月６日から５月29日にかけて建設予定地に残存していた楠の移植に伴う調査（0206調査地点）を実施し，樹木移植後，埋蔵文化財調査のための１次掘削（表土・撹乱層除去）を終えた後，6月12日より調査に着手した．

調査の結果，古墳時代末から古代にかけての遺構，および縄文時代の包含層を確認した．発掘調査はおよそ２ヶ月間を要し，8月14日に無事終了した．

＜調査面積＞

2,803㎡

＜調査期間＞

2002年６月12日～８月14日

＜調査員・参加者＞

小畑弘己，大坪志子．

伊藤千代子，岡田イツ代，岡村久美子，河野義勝，黒木重信，黒木タケ子，白川チズ子，白石美智子，新里亮人，鈴木筐子，高松北子，田口伸也，溜渕俊子，中川毅人，野口春美，林田恵子，早田咲百合，番山明子，福田久美子，堀川貞子，前田日出男，松井昭子，水上順子，宮村邦子，森川征子，森川護，森田登，森みどり．

3. 調査の結果

a　基本層序（図５）

本調査地点の層序は，黒髪南地区の基本的な土層堆積状況と変わらず，上位より，表土・撹乱層（１層：厚さ60cm・７層：厚さ30cm），暗赤褐色土層（10層：厚さ40cm），黒褐色土層（11層：厚さ30cm），黒褐色土層（13層：厚さ50cm：基盤土）となっている．11層が古代遺物包含層および遺構構築面であり，11層下部から13層の上部にかけて縄文時代後期の遺物が出土する．

本調査地点は，9603・9704調査地点と同じく西側1/3が旧運動場の造成によって削平を受けており，この部分においては近代以降の堆積層である10層が被覆していた．東側の堆積状況からみておよそ50cm～１mほどの削平を受けたものと思われる．この上部には昭和28年の白川洪水の際の洪水砂が被覆し，その上部は被災後の処理土（造成土）が厚く堆積していた．

b　検出遺構と遺物

今回の調査では，近世末の堀１条，古代溝６条，古代竪穴住居址４基，火葬墓１基，縄文土器包含層を確認した．

＜溝＞

５号溝

調査区西部にほぼ南北方向に走る幅３m，深さ1.5mの堀である．近世末の陶磁器類（図10：１～４）が出土している．

12号溝

調査区西部に東西方向に走る幅2.5m，深さ50cmの断面形台形の２段掘りの溝である．南側が緩やかに立ちあがる．土師器甕・坏・須恵器坏（図10：６～８）などの小片が出土した．

13号溝

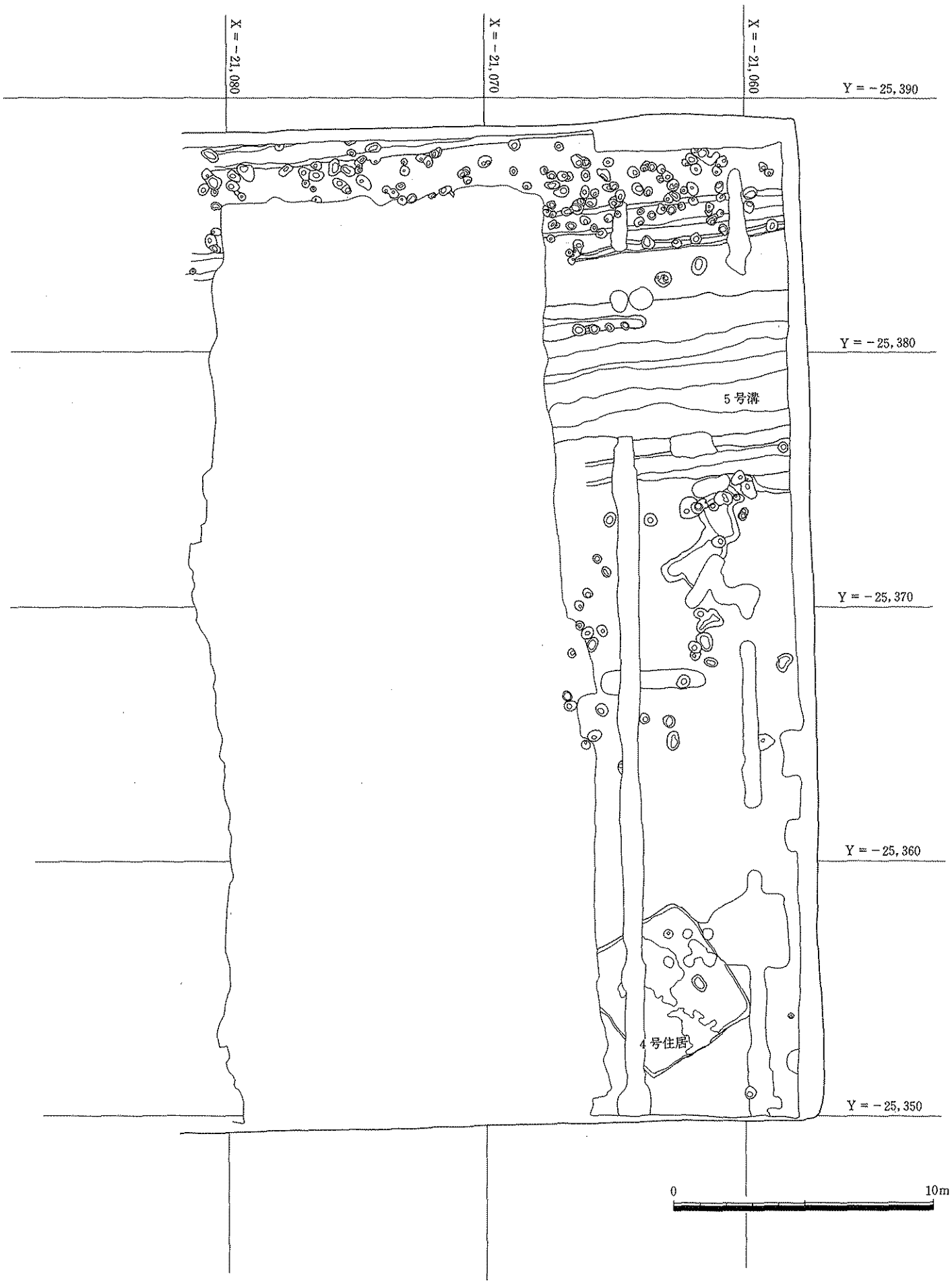
第12号溝に平行する溝である．幅１m，深さ30cmの断面Ｕ字形を呈する．土師器・須恵器の小片が少量出土している．ほぼ12号溝と同じ時期と思われる．

これらの溝はその位置関係からみて，9603調査地点を東西に走る溝とは連なるものと思われる．

８・９号溝

調査区の西側隅を南北方向に走る溝である．いずれも

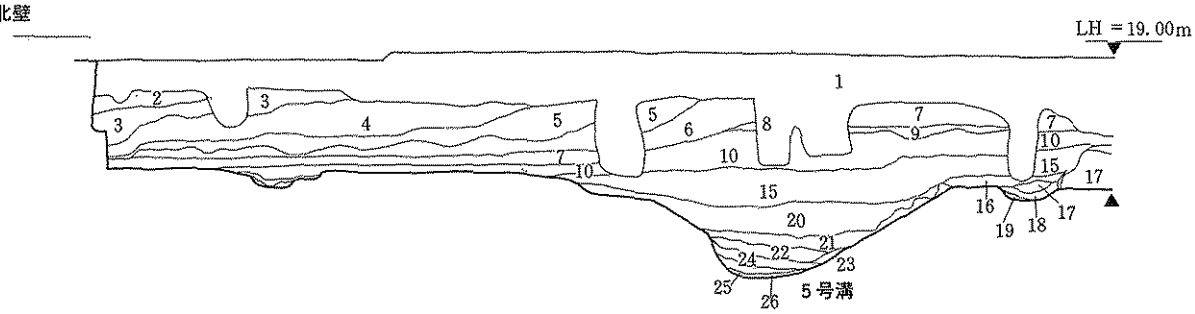
図４　0204調査地点遺構配置図（1/200）

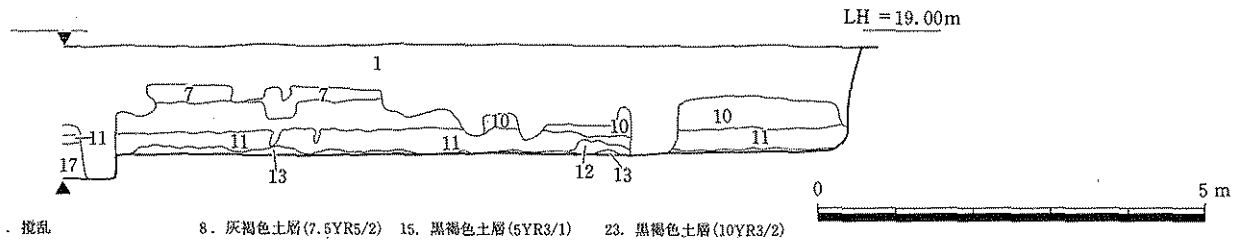

X = −21,080
X = −21,070
X = −21,060
Y = −25,390
Y = −25,380
Y = −25,370
Y = −25,360
Y = −25,350
5号溝
4号住居
0
10m

Ⅱ—2　0204調査地点

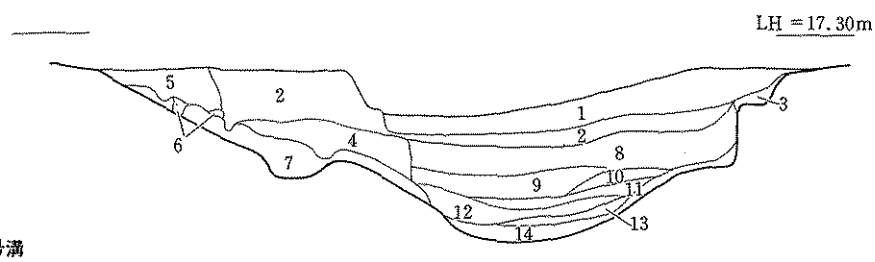
図５　各遺構土層断面図（1/100・1/50）

北壁





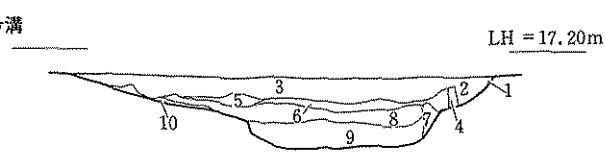
1．撹乱
2．黒褐色土層(10YR3/1)
3．黒褐色土層(10YR2/2)
砂を含む
4．黒褐色土層(10YR3/1)
5．黒褐色土層(10YR3/1)
6．黒褐色土層(5YR2/1)
7．黒褐色土層(7.5YR2/2)
8．灰褐色土層(7.5YR5/2)
9．黒褐色土層(10YR2/1)
10．暗赤褐色土層(5YR3/2)
11．黒褐色土層(10YR3/1)
12．にぶい赤褐色土層
(5YR4/4)
13．黒褐色土層(7.5YR3/2)
14．黒褐色土層(7.5YR3/2)
15．黒褐色土層(5YR3/1)
16．黒褐色土層(5YR3/1)
17．黒褐色土層(7.5YR3/2)
18．黒褐色土層(7.5YR2/2)
19．暗褐色土層(7.5YR3/4)
20．黒褐色土層(10YR3/1)
21．黒褐色土層(10YR3/1)
22．黒褐色土層(7.5YR3/2)
23．黒褐色土層(10YR3/2)
24．黒褐色土層(7.5YR3/2)
25．黒褐色土層(7.5YR3/1)
26．黒褐色土層(7.5YR3/1)
地山　黒褐色土層(10YR2/3)



5号溝

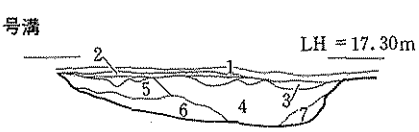
1．黒褐色土層(7.5YR3/2)
砂礫
2．黒褐色土層(7.5YR3/1)
砂礫
3．褐色土層(7.5YR4/4)
4．黒褐色土層(10YR2/2)
小礫
5．黒褐色土層(7.5YR3/2)
砂礫
6．黒褐色土層(10YR3/2)
7．黒褐色土層(10YR2/3)
小礫
8．黒褐色土層(10YR3/1)
9．黒褐色土層(7.5YR3/1)
10．黒褐色土層(10YR3/1)
11．黒褐色土層(10YR3/1)
12．黒褐色土層(10YR3/1)
13．黒褐色土層(10YR3/1)
14．オリーブ黒色砂層
(5Y3/2)

12号溝



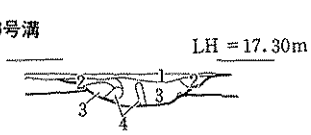
1．暗褐色土層(10YR3/4)
2．黒褐色土層(10YR2/3)
3．黒褐色土層(10YR2/3)
4．暗褐色土層(10YR3/4)
5．暗褐色土層(10YR3/4)
6．黒褐色土層(10YR2/3)
小礫
7．暗褐色土層(10YR3/4)
8．黒褐色混砂土層
(10YR2/2)　砂
9．黒褐色混砂土層
(10YR2/2)　砂
10．黒褐色土層(10YR4/3)

9号溝



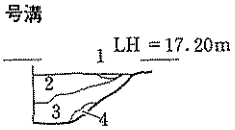
1．褐色土層(10YR4/4)
2．褐灰色土層(7.5YR4/1)
3．灰黄褐色土層(10YR4/2)
4．黒褐色土層(7.5YR3/1)
5．黒褐色土層(7.5YR3/2)
6．黒褐色土層(7.5YR3/1)
7．黒褐色土層(7.5YR3/1)

13号溝



1．黒褐色土層(10YR2/3)
2．褐灰色土層(7.5YR4/1)
3．黒褐色土層(7.5YR3/1)
4．褐色土層(7.5YR4/4)

9号溝



1．黒褐色土層(5YR3/1)
2．黒褐色土層(5YR3/1)
3．黒褐色土層(5YR3/1)
4．黒褐色土層(5YR2/2)

0　2 m

幅１ｍ前後，深さ30～10cmである．磁北から６度西へ振れる．この方位は9603調査地点で検出した方形区画とほぼ同じである．遺物は土師器や須恵器の細片が少量出土したが，時期を示すものに須恵器の高台付の坏などがある．ほぼ８世紀後半代の遺構と考えられる．

その位置と規模からみて，道の側溝と思われるが，残念ながらこの部分の削平が大きいことから，路面は残存していない．また両溝は平行して走るが，北側において若干距離を縮めている．

この他，調査区南側中央で約10ｍの距離を置いて東西に平行して走る幅80cm，深さ10cmあまりの溝２本（10号・11号溝）を検出しているが，覆土からみて古代の遺構である可能性が高い．

＜竪穴住居址＞

１号竪穴住居址（図６）

調査区南東端で検出した方形の竪穴住居址である．規模は５×５ｍ以上であり，西辺の南寄りに竈を設ける．竈の残存状態はあまり良くなく，焼けた粘土が残存し，その前面で砂岩製の支柱を検出しただけであった．硬化面が中央西よりに認められた．住居に伴う柱穴は検出していない．土師器甕・須恵器壷の破片（図10：14～17）が出土した．

２号竪穴住居址（図６）

１号竪穴住居址の北側に隣接している方形の竪穴住居址である．規模は４×４ｍの略方形を呈する．北辺中央に竈がある．竪穴本体と竈も削平が激しく残存状況はよくない．竈は粘土と右側の袖石が確認できた．遺物は土師器の坏や甕形土器（図10：18～24）が住居床面から破片の状態で出土した他，東辺中央付近のピット内から須恵器甕（図10：19）が破片を重ねるような状態（図６）で検出された．

４号竪穴住居址（図８）

調査区北東隅で検出した方形竪穴住居址である．5.5×5.0ｍの規模をもつ．南部を撹乱によって切られるが，残存状況は良好であった．東辺中央に竈をもつ．その前面に硬化面が認められた．竈は中央に砂岩製の短い支柱をもつが，袖石は確認できなかった．破壊され土器とともに粘土・焼土が２×１ｍの範囲に広がっていた．主柱穴は検出していない．竈とその南東角を中心に若干の遺物が出土した．遺物は逆刺のある須恵器坏身および土師器甕・鉢である（図10：28～30・図11：32～38）．

３号竪穴住居址（図７）

調査区中央部東側で検出した方形の竪穴住居址である．削平を受け，壁の立ちあがりは５～10cm程度であった．本調査地点においてはもっとも大きな住居址であり，その規模は6.5×6.3ｍである．北辺中央に竈をもつ．竈も撹乱によって破壊を受けていた．竈方向に長軸をもつ主柱穴６個が確認できた．その間には２面の一部重なる硬化面が細長く広がっていた．床面から土師器甕・坏・須恵器坏身の破片（図10：25～27）の他天草地方産の砂岩を使用したが砥石１点が出土した．

各竪穴住居址の時期は，3号竪穴住居址が最も古く７世紀初で．4号竪穴住居址が８世紀前半，１・２号竪穴住居址が８世紀後半と考えられる．

＜その他の遺構＞

21号火葬墓（図９）

３号竪穴住居址の北部1.5ｍのところで検出した土師器の甕形土器と須恵器の大型甕の破片を利用した火葬墓である．長さ１ｍ，幅50cmあまりの２つの穴が連接したような土坑を掘り，その一つの基底に円扁平な大型礫を敷いて，その上部にもう一段の扁平礫を敷いて，その上部に土師器甕の蔵骨器を置いて，周囲を石で囲むように配置したのち，須恵器甕の破片で蓋をして石で押さえている．すでに石の重みで潰れ，土師器甕も割れ，内部にあった焼骨が一部外側に溢れていた．従来は復元図のような埋葬がなされたものと考えられる．

蔵骨器に使用された甕形土器は口径27cm，器高24cmの薄手の器壁をもつ．蓋に使用された須恵器甕の破片は底部付近の破片であり，長さ34cm，幅24cmである．

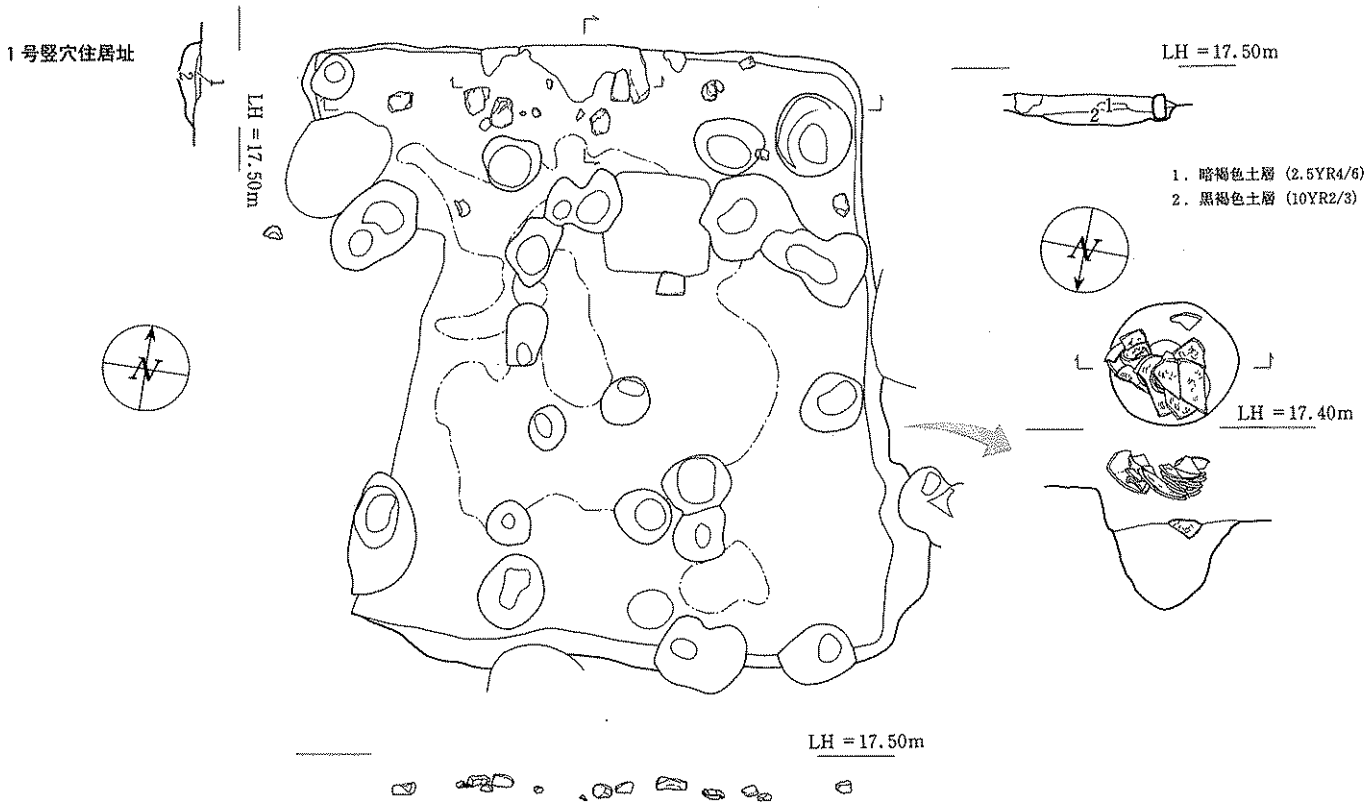
＜弥生時代の遺物＞

８・９号溝を中心に弥生時代中期後半の甕棺および甕形土器の破片が少量ではあるが出土している（図11：39～43）．本調査地点西側の9704調査地点では該期の甕棺墓群が検出されており，古代に造成される以前はこの一帯にも弥生時代の遺構が存在した可能性がある．

＜縄文時代の遺物＞

各遺構の覆土および13層上面の包含層から縄文時代後期末～晩期前半を中心とした土器片30点あまりが出土した（図11：44～56）．黒川式土器の鉢形土器および粗製の甕形土器片類を中心としている．

図６　１号竪穴住居址・２号竪穴住居址実測図（1/50）



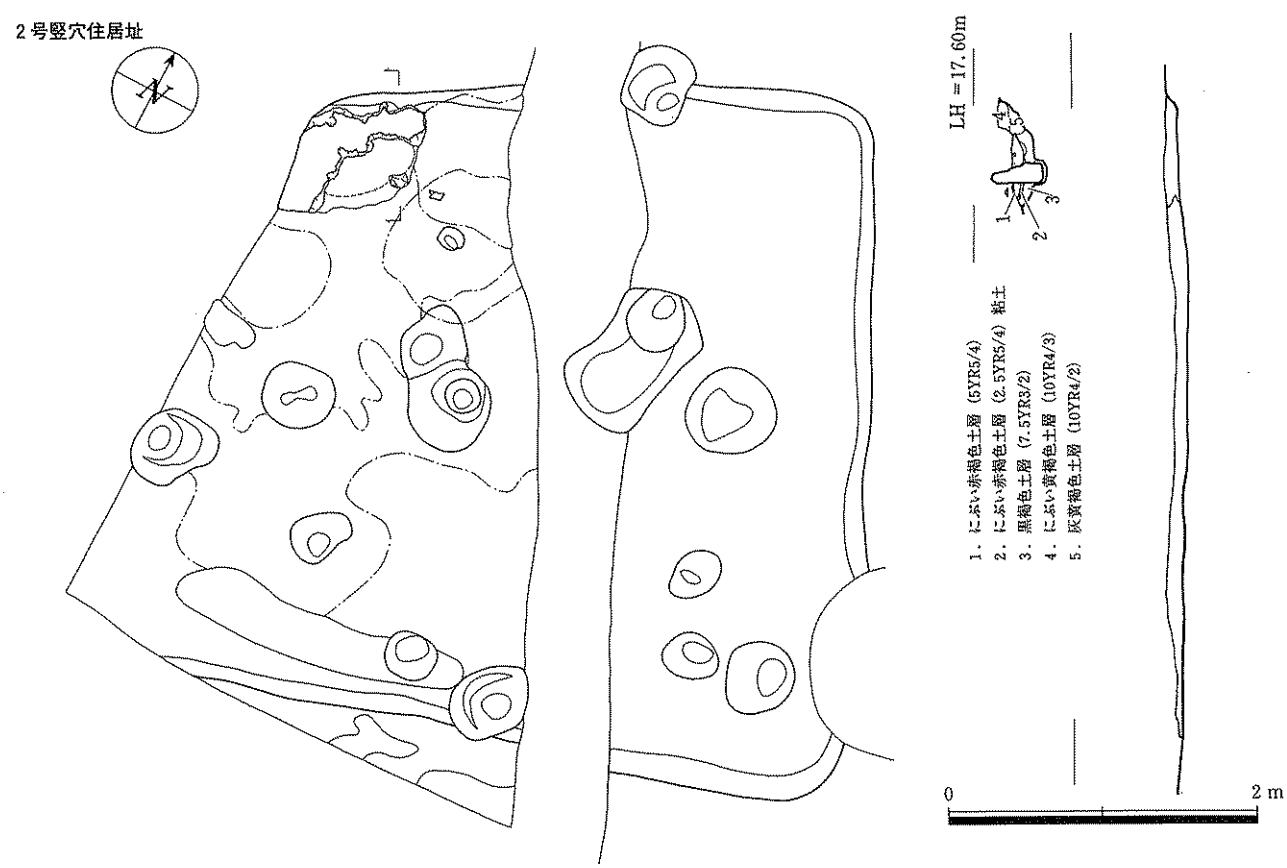


図７　３号竪穴住居址実測図（1/50）

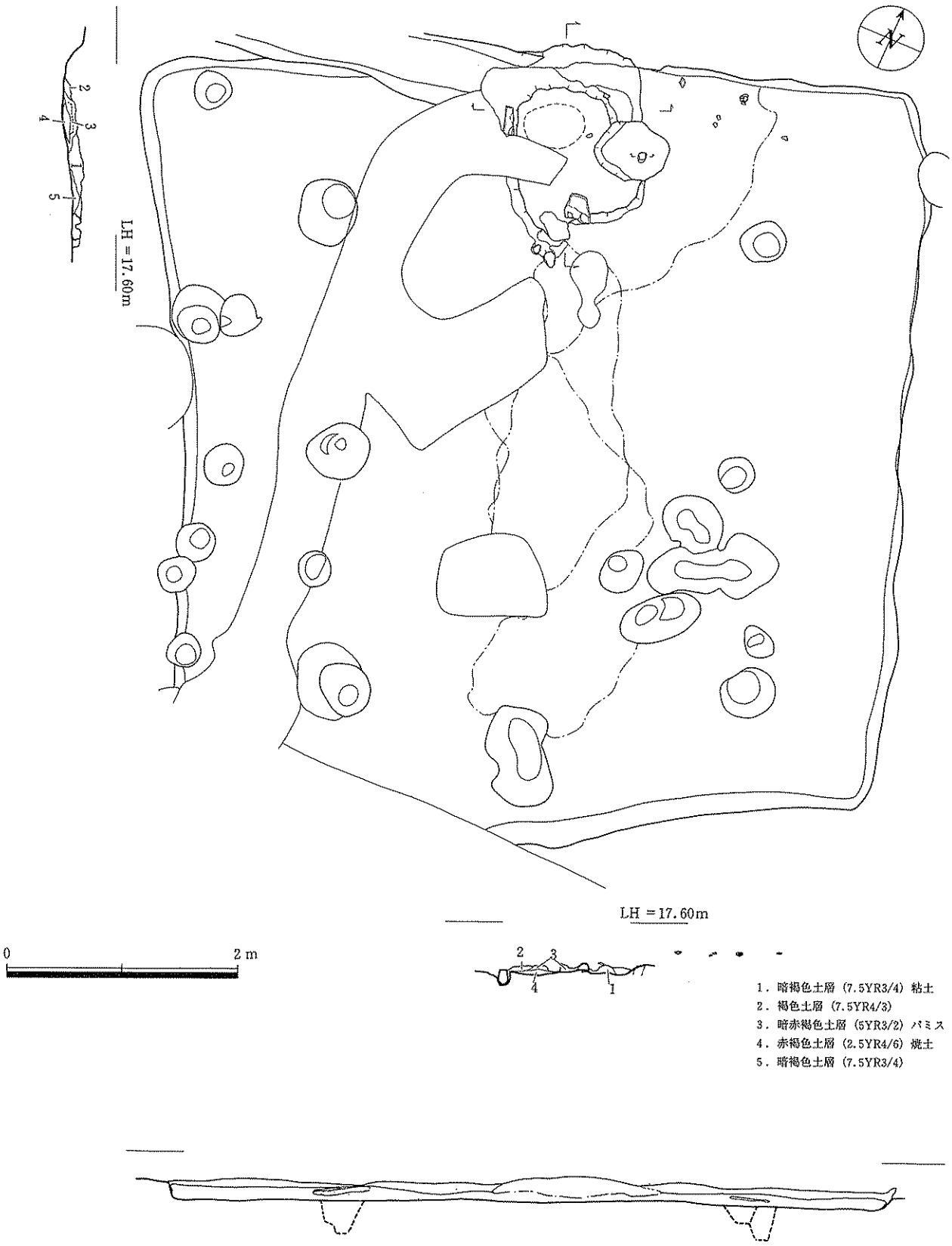


図８　４号竪穴住居址実測図（1/50）

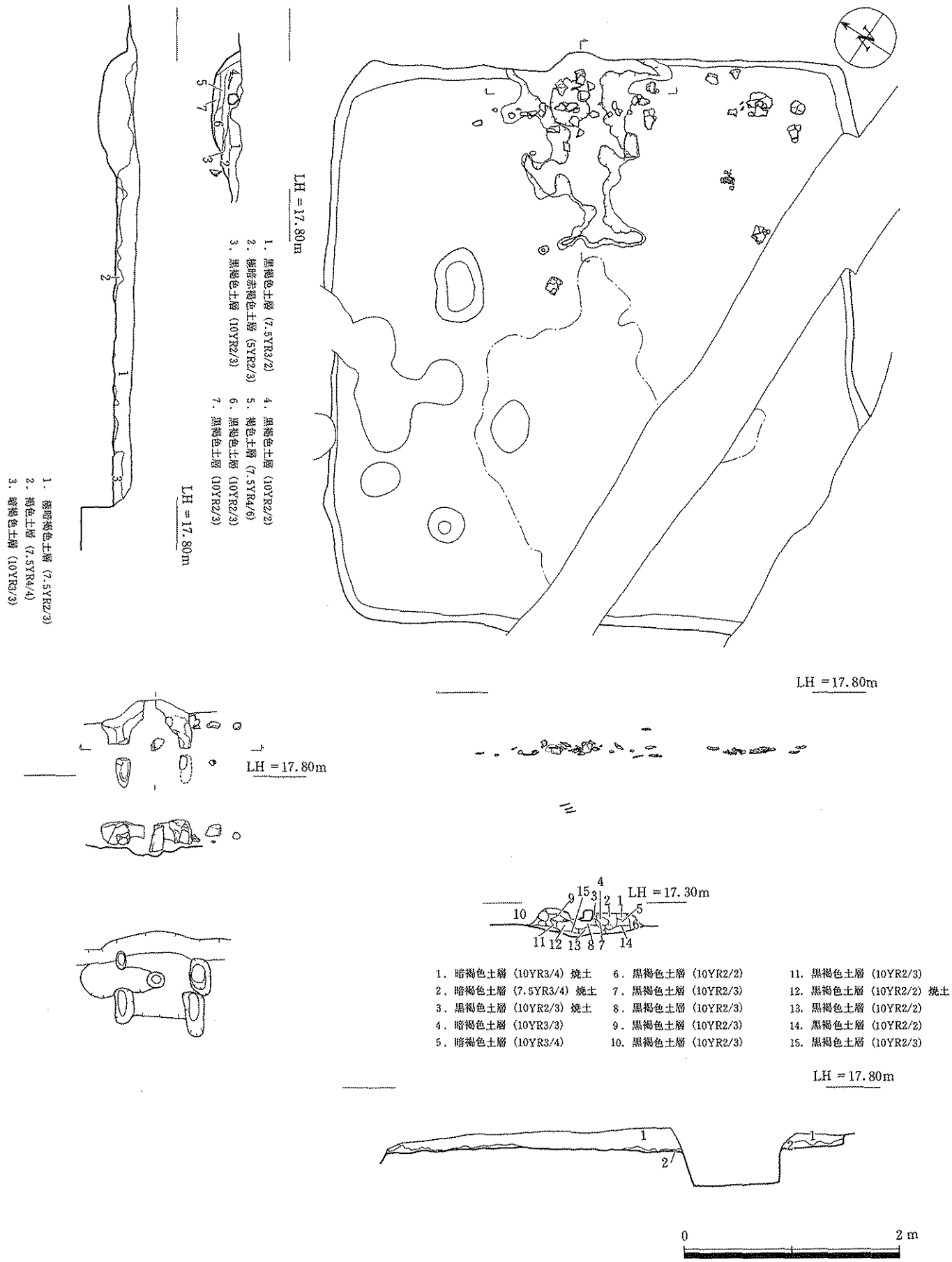


図９　21号火葬墓・出土遺物実測図（1/40・1/4）

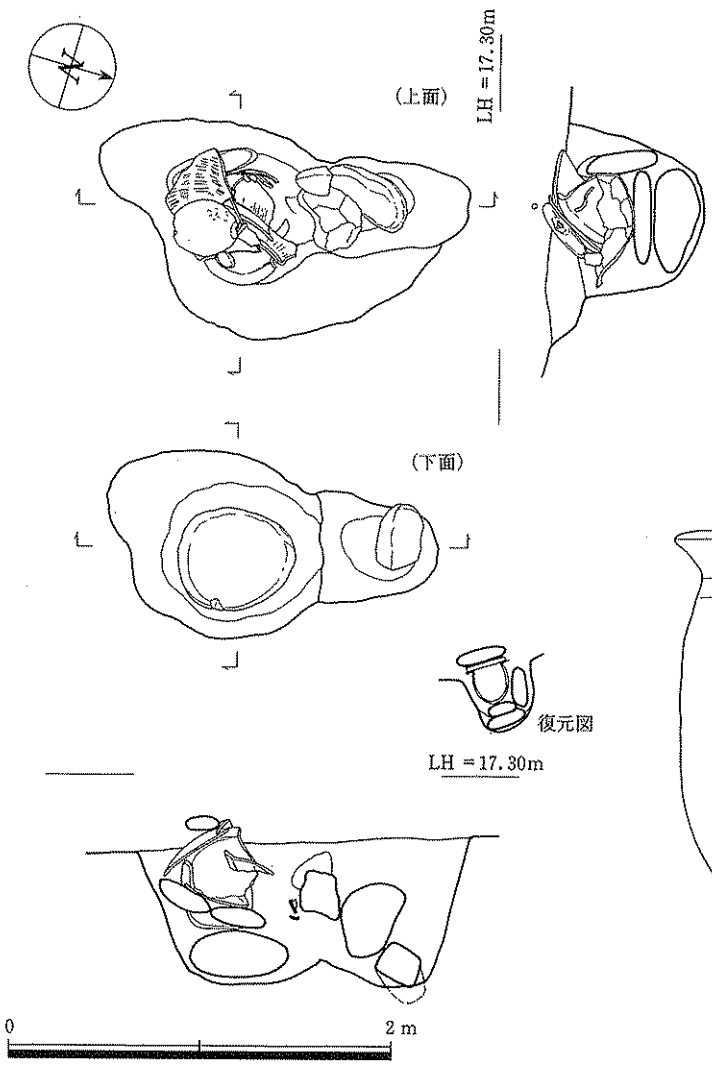
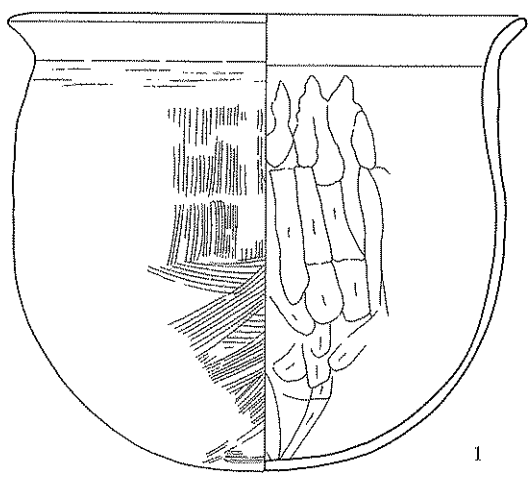


写真７　焼骨



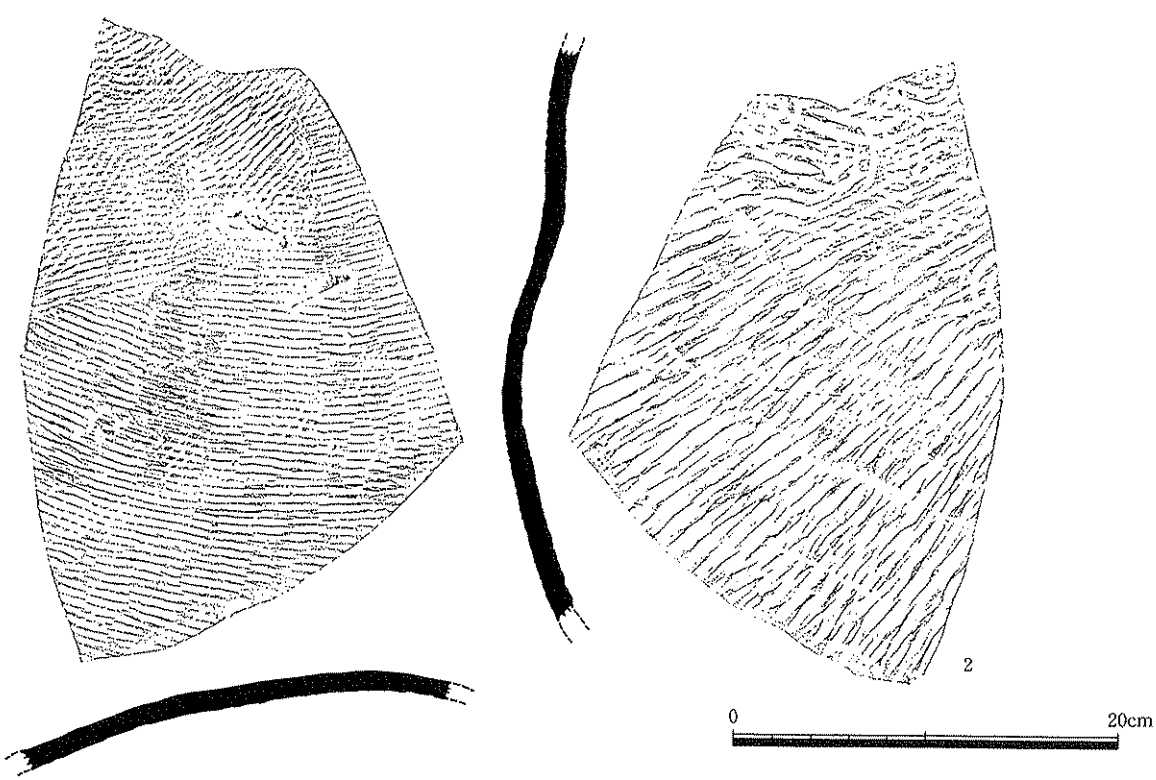


図10　0204調査地点出土遺物実測図１（１/４）

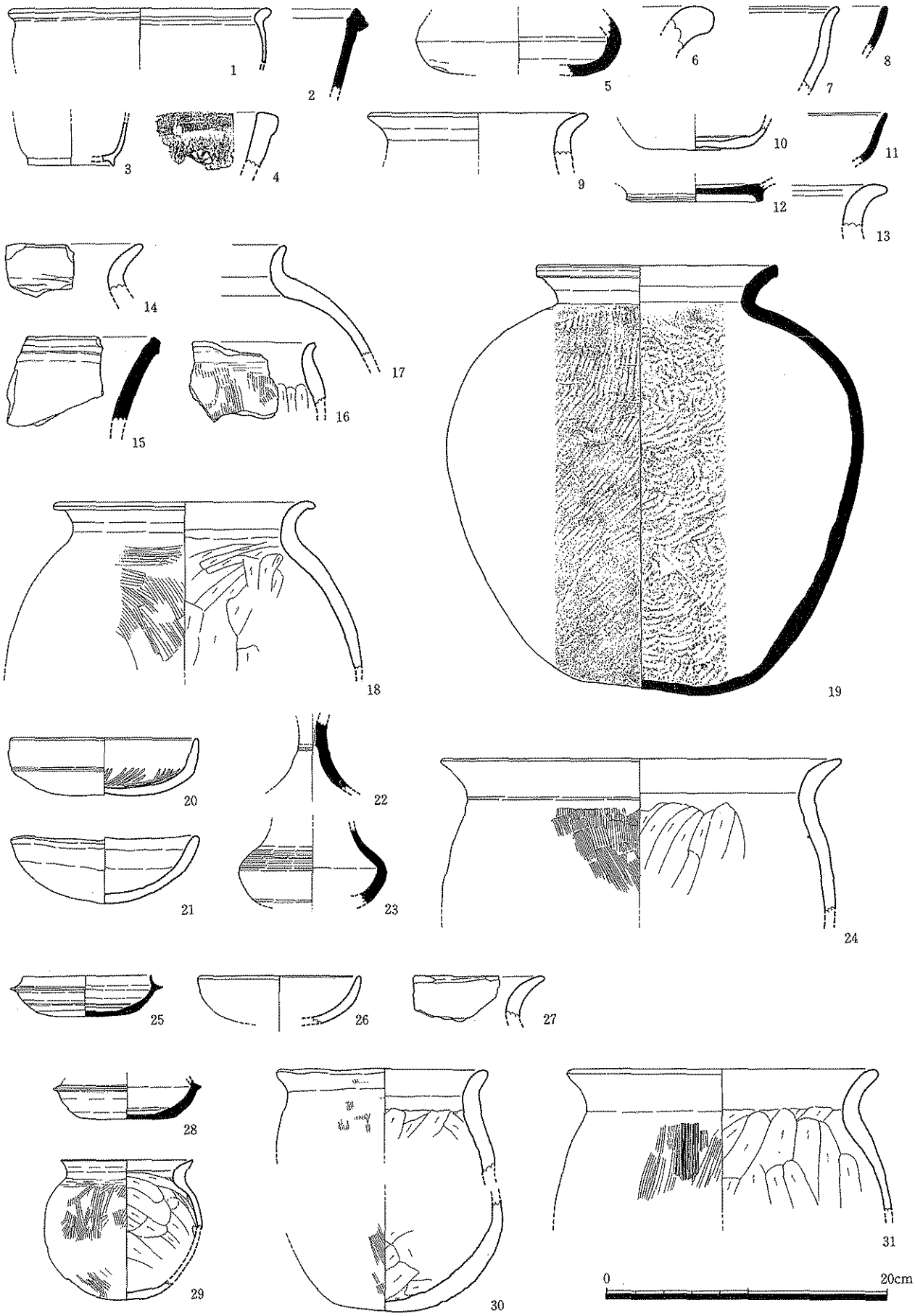


図11　0204調査地点出土遺物実測図２（１/４・１/３）

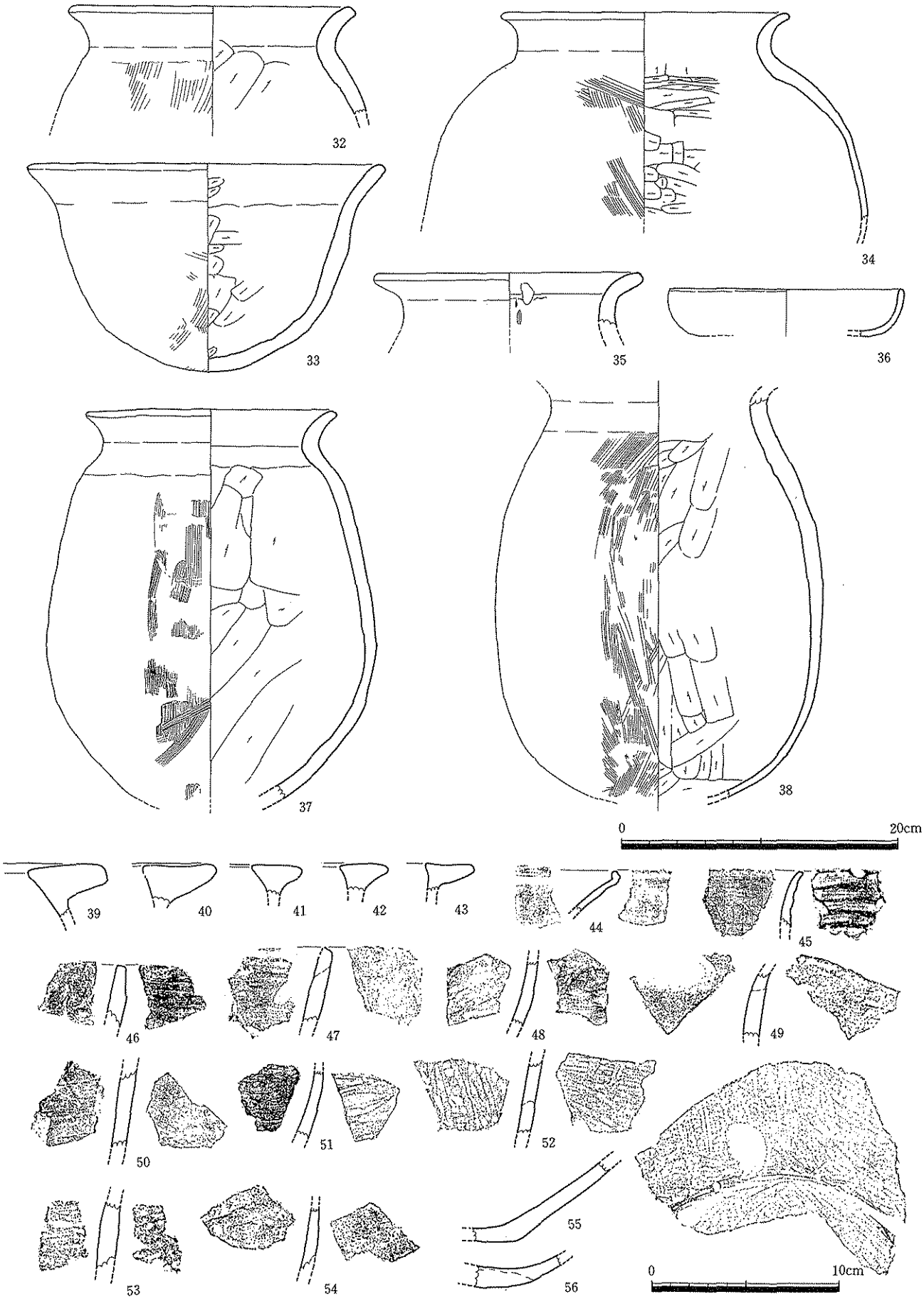


写真８　調査区南側全景（西より）

写真９　調査区北側全景（西より）

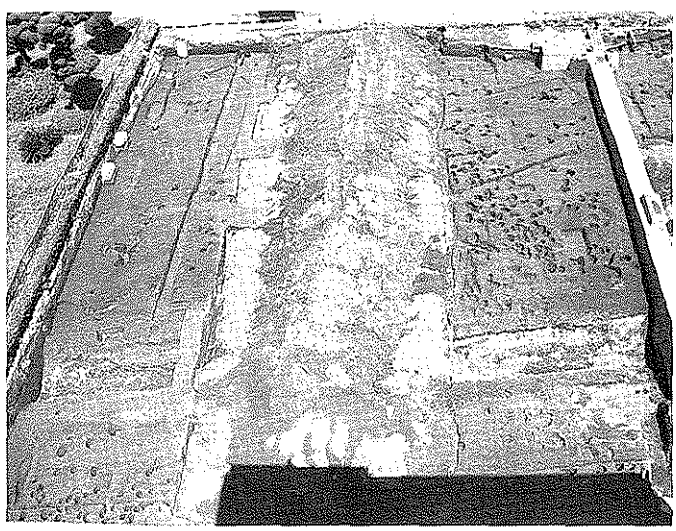


写真10　調査区南側（南西より）

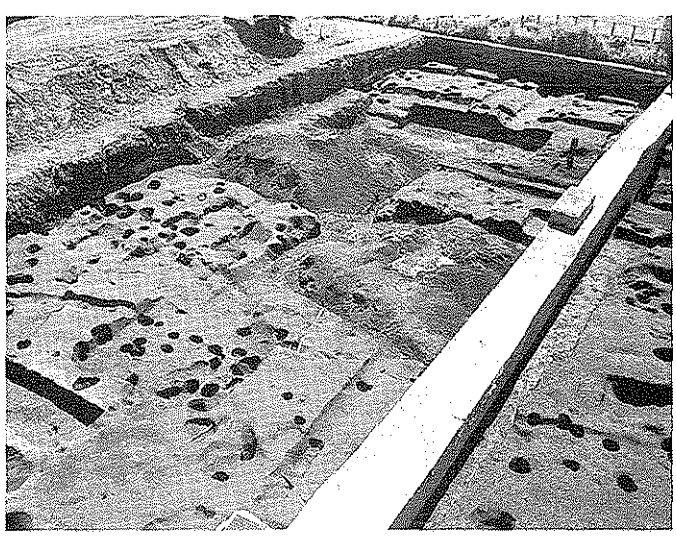


写真11　調査区南側（東より）

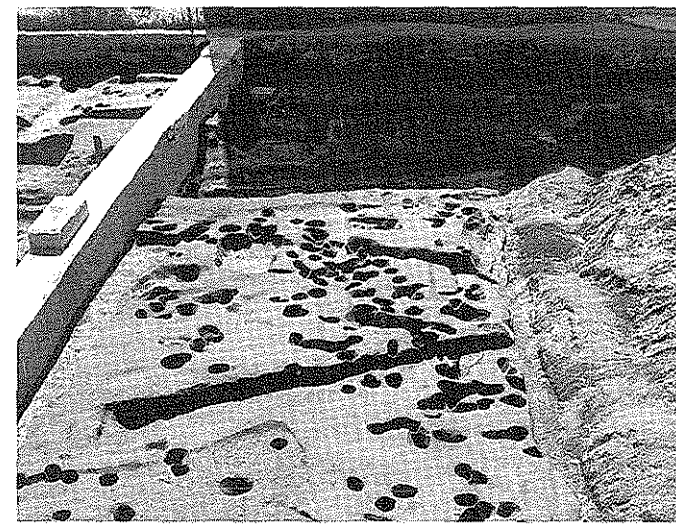


写真12　調査区北側（東南より）

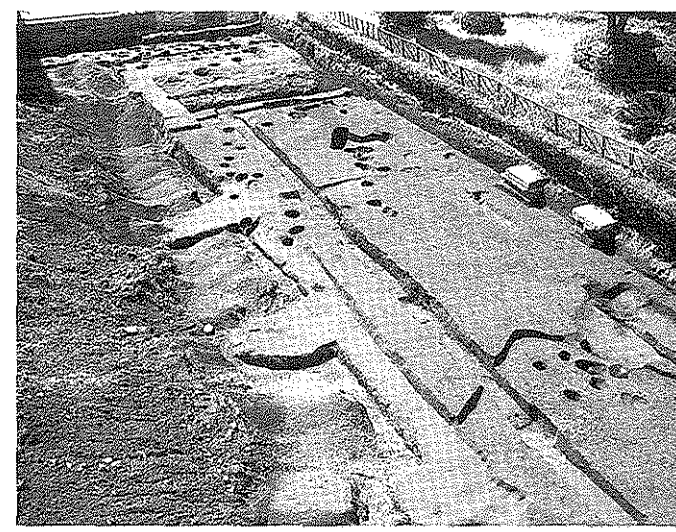


写真13　調査区北壁土層断面・５・６号溝（南より）

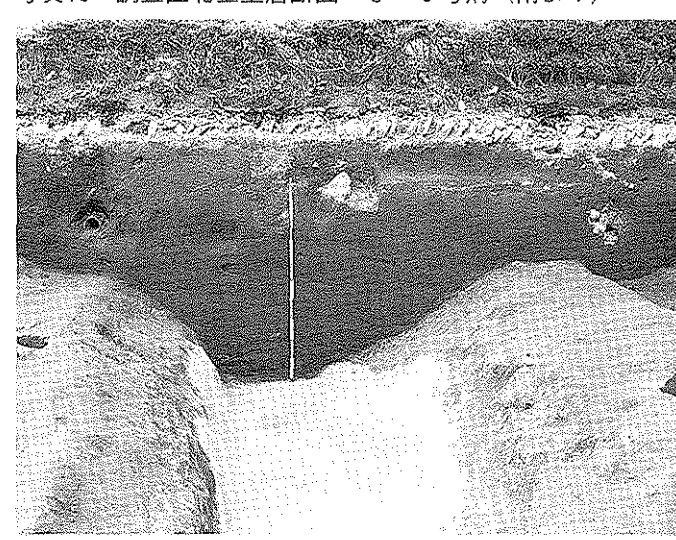


写真14　調査区北壁土層断面（南西より）

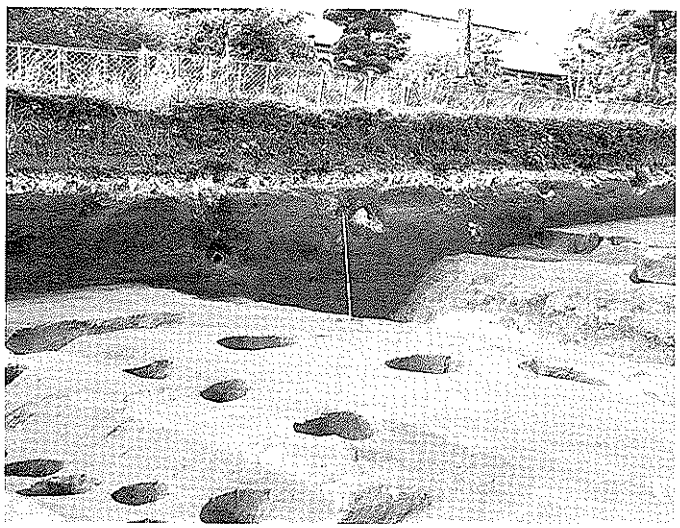


写真15　1・2号竪穴住居址（南より）

写真16　2号竪穴住居址竈（南より）

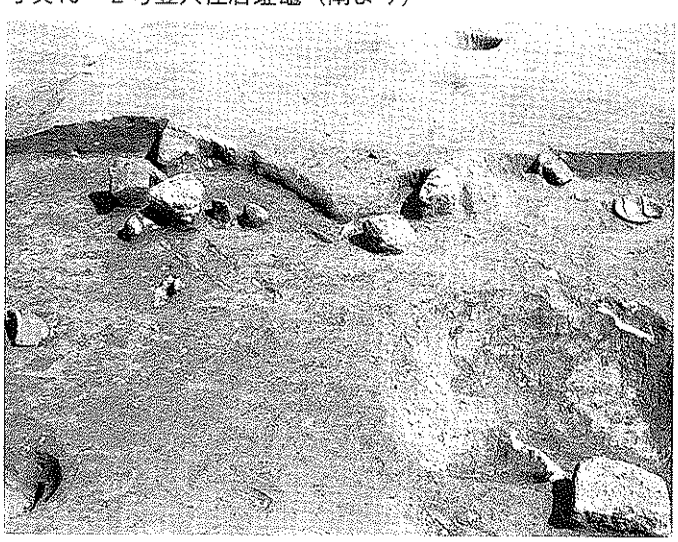


写真17　1号竪穴住居址（南より）

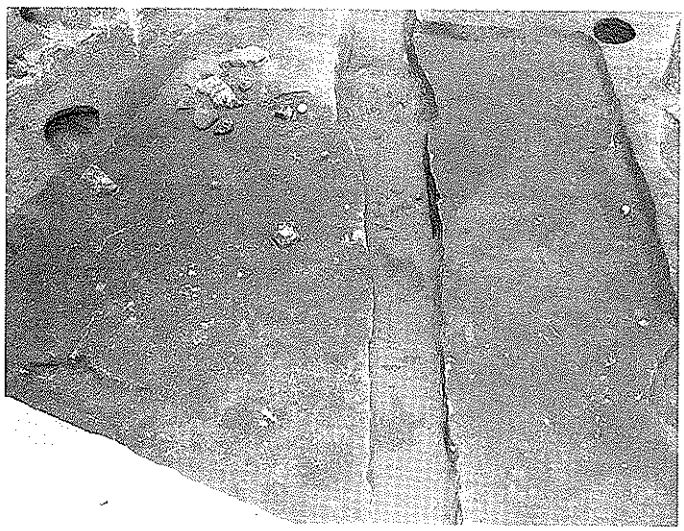


写真18　1号竪穴住居址竈完掘状況（南より）

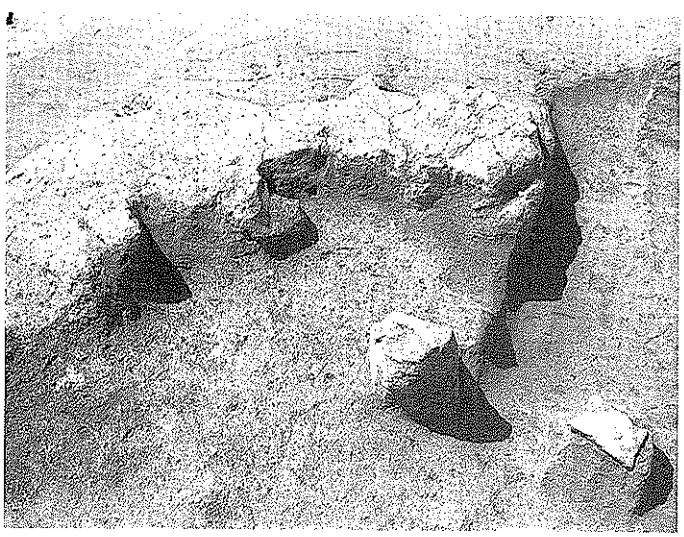


写真19　1号竪穴住居址竈（東より）

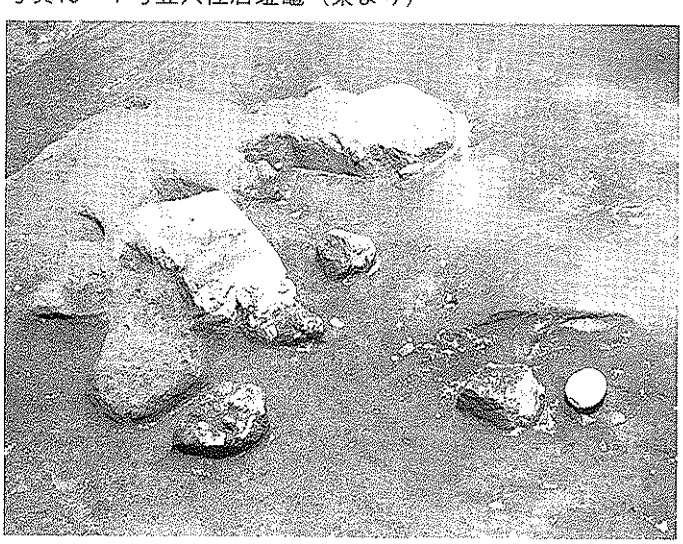


写真20　２号竪穴住居址（南より）

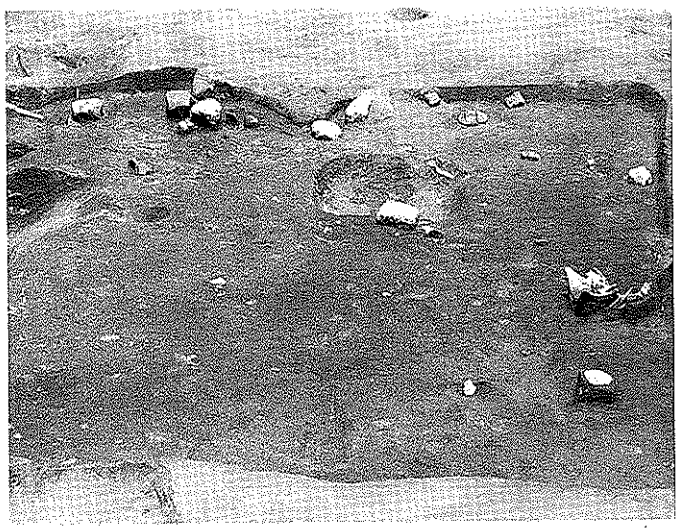


写真21　２号竪穴住居址完掘状況（南より）

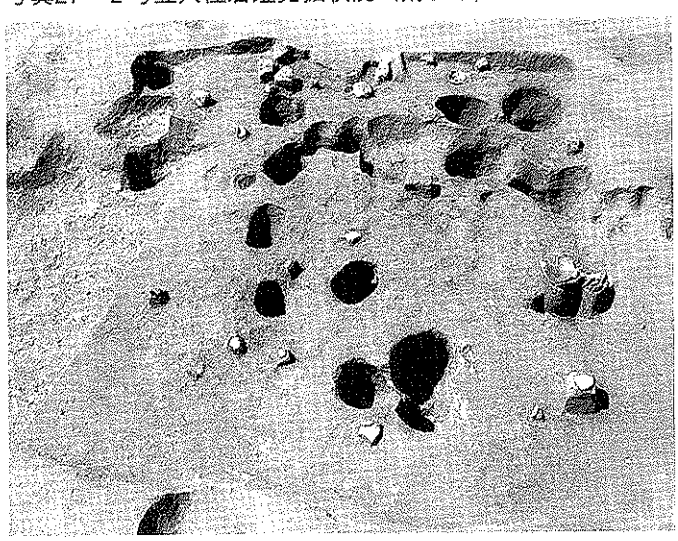


写真22　２号竪穴住居址遺物出土状況（西より）

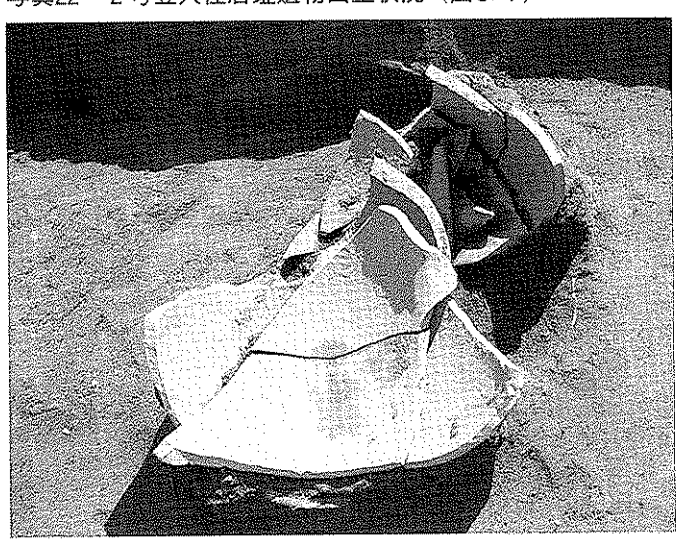


写真23　３号竪穴住居址（南より）

写真24　３号竪穴住居址竈完掘状況（南より）

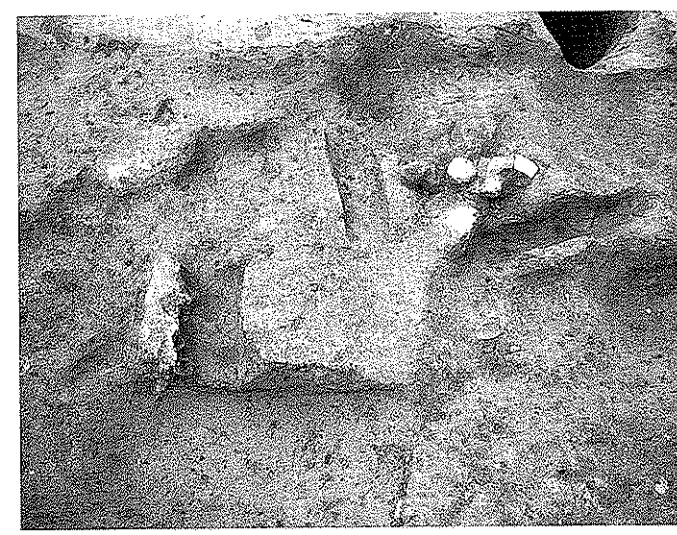


写真25　４号竪穴住居址東西土層壁面（北より）

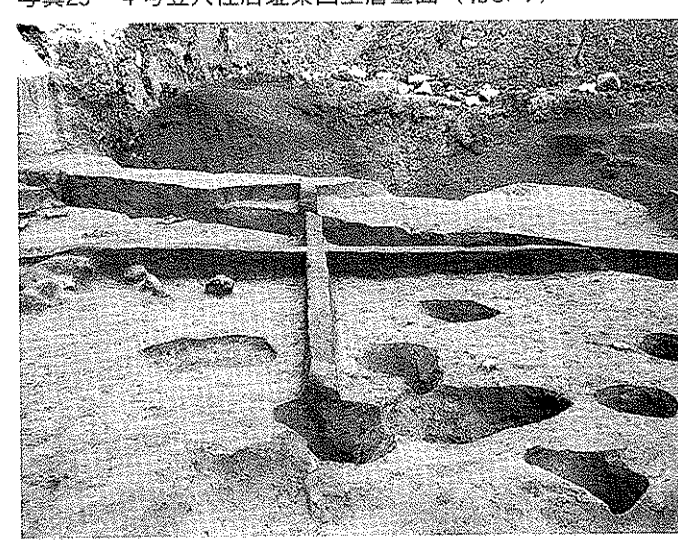


写真26　4号竪穴住居址（南西より）

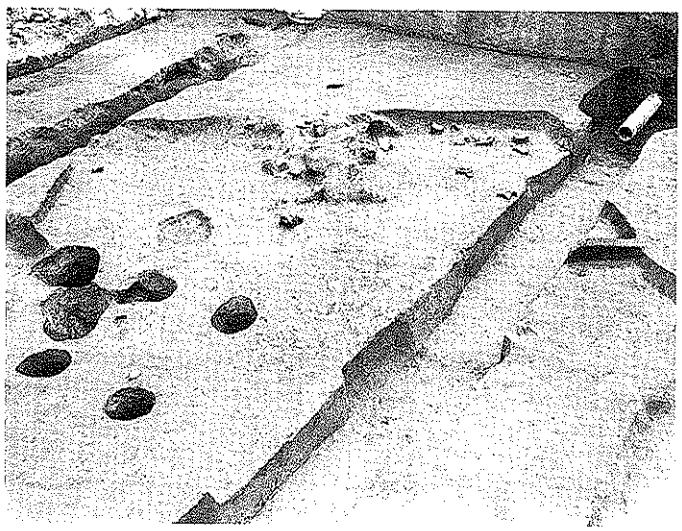


写真27　4号竪穴住居址竈横土器出土状況（南より）

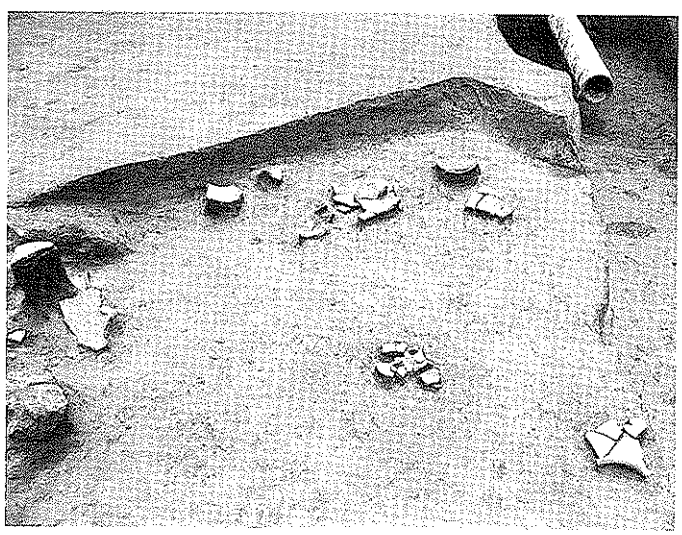


写真28　4号竪穴住居址竈（南西より）

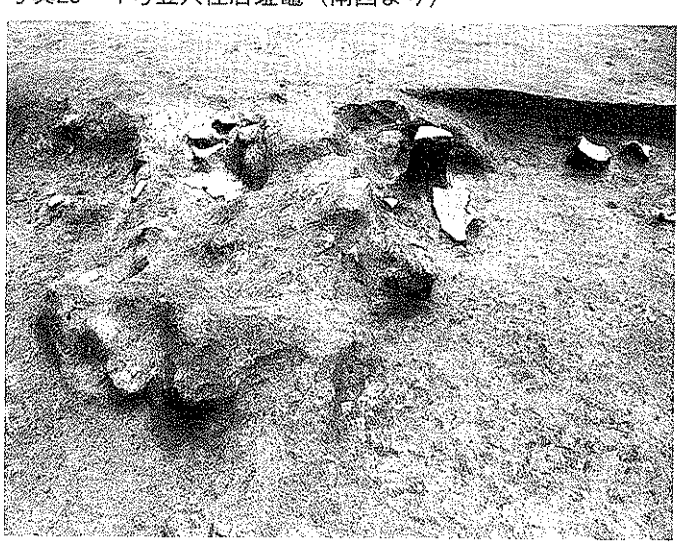


写真29　4号竪穴住居址竈土器出土状況（南より）

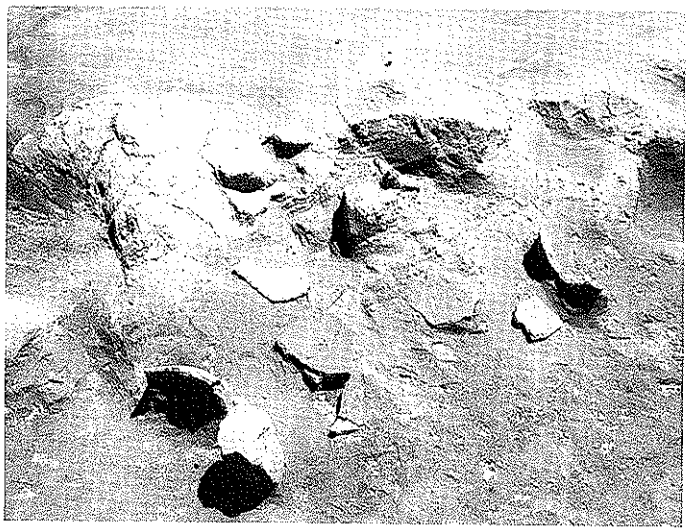


写真30　21号火葬墓（西より）

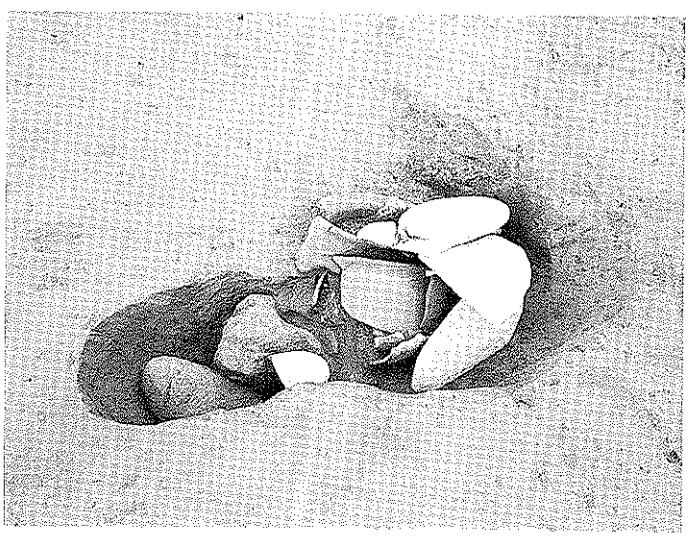


写真31　9号溝土層断面（南より）

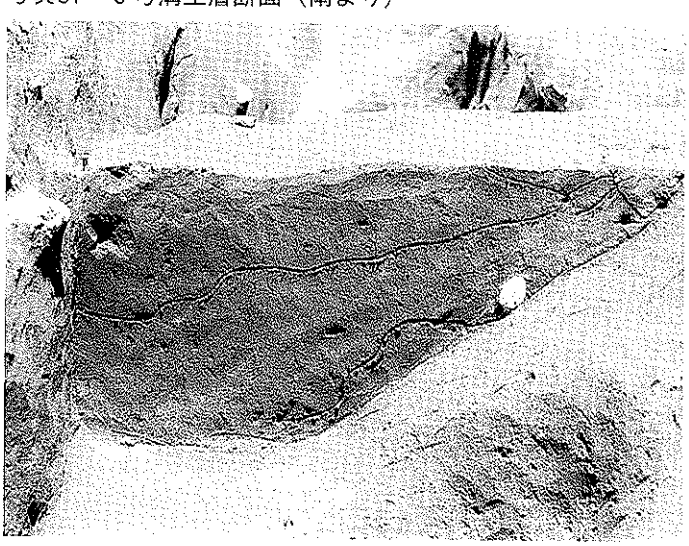


写真32　樹木移植地調査区西側（北より）

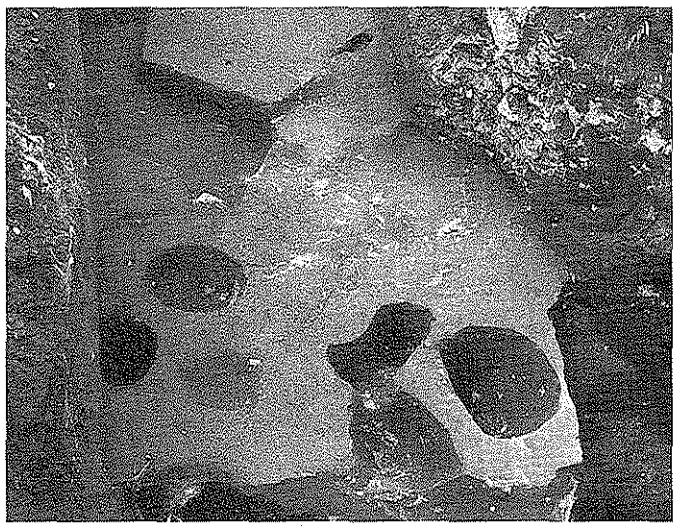


写真33　樹木移植地調査区南側（西より）

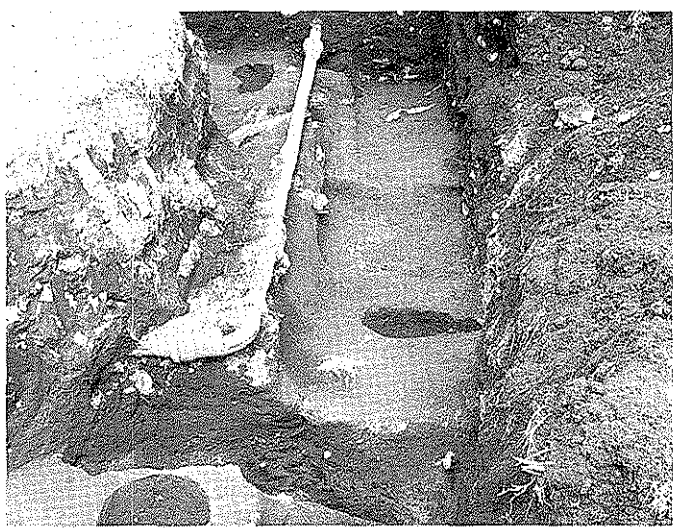
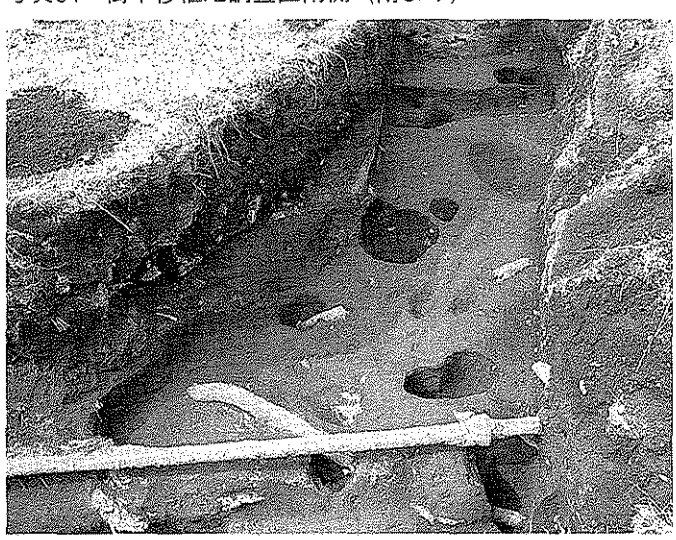


写真34　樹木移植地調査区南側（南より）



4. 成果と問題点

今回の調査では縄文時代晩期から近世末までの遺構・遺物を検出した．その中でも重要な成果としてはやはり古代官道の側溝と考えられる８・９号溝を検出したことであろう．これらの溝は9603調査地点の東側にこれらに対応する側溝が無い点から推測すると，古代官道の延長部にあたる可能性が高い．この可能性の信憑性は9603調査地点で検出された方形区画の東西辺の溝がこの２本の側溝を越えて本調査区内まで延びていないという事実から一層高くなる．両調査地点の間の状況が不明なので断言はできないが，この区画は先に予想した官道の西側溝に取り付く可能性がでてきた．しかし，東西方向の区画としては12・13号溝や10・11号溝のように別の区画が存在したことを示している．10・11号溝は道路に取り付く脇道の側溝である可能性もあるが，削平と５号溝によって破壊され，８・９号溝との関係は不明である．12・13号溝は８・９号溝を切っており，時期的に下るものであるが，調査区の途中で５号溝に連なる近世の溝である可能性もあり，この道路を取巻く一帯の区画がどのような状況で，しかもどのように変遷したのかについては，今後より面的な調査が継続されなければ明確な判断は下せない．しかし，少なくとも東西南北を基調とした土地区画は，この付近に限って言えば，近世末まで継承されていたことは５号溝の存在から明らかである．

この一帯は白川の河川敷と台地を隔てる段丘崖縁に位置しており，駅関連施設が存在したとすれば位置的にみてこの付近が最も有力な候補である．今後は西側の（9704・9603調査地点）地点で検出された方形区画と掘立柱建物の時期的変遷が重要な焦点となってきた．詳細な検討が必要であろう．

Ⅱ—3　0206調査地点

1. 遺跡の立地と周辺地形

工学部・理学部が所在する黒髪南地区に位置し，黒髪町遺跡群内にある．南地区では西端に位置する．南に隣接する9704調査地点では甕棺墓群が確認され，過去にも甕棺墓が発見されている．9603調査地点では古代および近世の遺構・墓地が調査されており，一帯は弥生時代から近世にかけての遺構が密集する地区である．

2. 調査の概要

本調査地点は総合研究棟建設に伴い，建設予定地内にある樹木の移植先にあたる．旧建物跡地で重機による掘削時に旧建物の基礎などがあり，調査地点の大半は撹乱を受けているものと予想されたが，地表下2.5mで地山が検出されたため調査を行った．

＜調査面積＞

28㎡

＜調査期間＞

2002年5月20日～5月29日

＜調査員・参加者＞

小畑弘己，大坪志子．

岡田イツ代，黒木重信，黒木タケ子，白石美智子，溜渕俊子，早田咲百合，番山明子，福田久美子，堀川貞子，水上順子，宮村邦子，森川征子，森川護，森田登．

3. 調査の結果

a　基本層序（図12）

鉱物の沈殿層とそれらに挟まれた4層（5層上面）は旧運動場面で，2層は昭和28年の洪水による砂層である．9704調査地点では4層を洪水砂が直接被覆しており，3層は運動場を造成しなおした際の客土であろう．5・6層は近世末の耕作土，7・8層は同時期の遺構埋土と思われる．

b　検出遺構と遺物（図12）

調査地点では，古代の遺構が形成される柔らかい地山層は削平されており，その下の基盤層が検出された．この基盤層は西側に向かって緩やかに傾斜していた．この傾斜面端部に浅い溝状の窪みがあり，そこから成人用甕棺の破片が出土した．破片はある程度集中しており，また復元した結果，底部を欠くがほぼ甕棺を縦に半裁した形状になった．溝状の窪みが墓壙であるかは不明だが，破片の様子から墓壙内にあったものが半分削平を受けた状態ではない．しかし，破損品を集めた様子でもない．後世の削平によって半分に欠失した残部が廃棄されたような状況である．

甕棺は，口縁下に突帯を付けず，突帯断面は三角形である．焼成は堅緻で器壁が薄い．汲田式である．この他，蓋と別個体の胴部（タガ部分）・口縁などがわずかに出土した．

4. 成果と問題点

本調査地点は，9704調査地点で確認された甕棺墓列の北西延長線上に位置し，同じ台地斜面に形成された一連の墓地と考えられる．北東部に隣接してあった旧衝撃エネルギー実験所を建設する際，多数の甕棺が発見されたことが，9704地点調査時に関係者の話で判明している．本調査地点もそれに連続する墓地であり，おそらく近世末の開墾によって破壊を受けたものと思われる．今回出土した甕棺は，9704調査地点出土品より時期が遡るもので，本墓地が弥生中期前半後葉から中期後半にかけて営まれた墓地であることが判明した．

甕棺墓を擁する台地斜面が旧衝撃エネルギー実験所以東にどのように広がるのかは今後の留意点である．

写真35　遺物出土状況（東より）

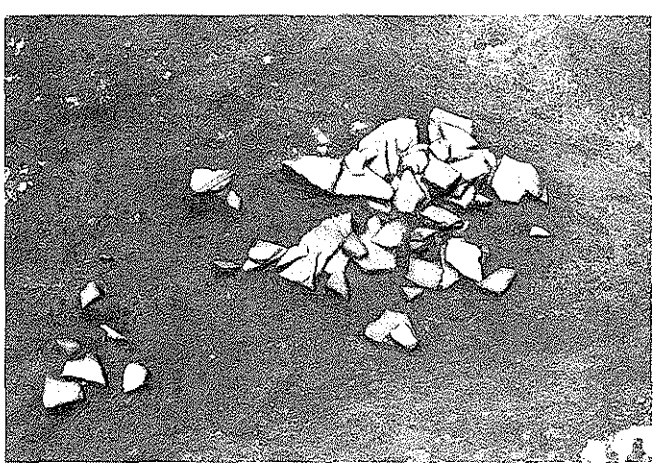


写真36　調査区全景（北より）

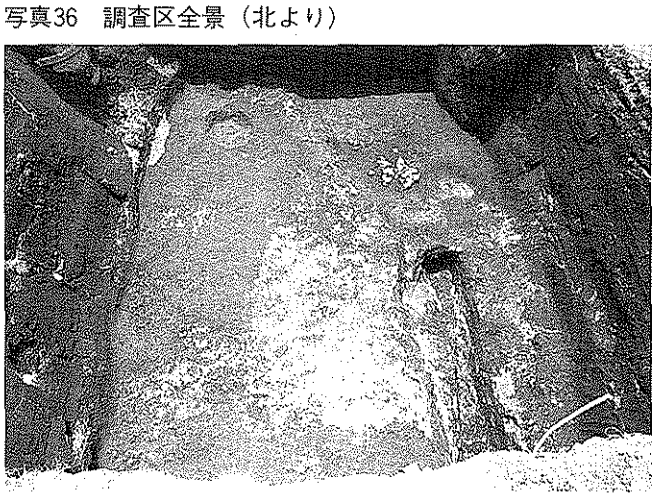
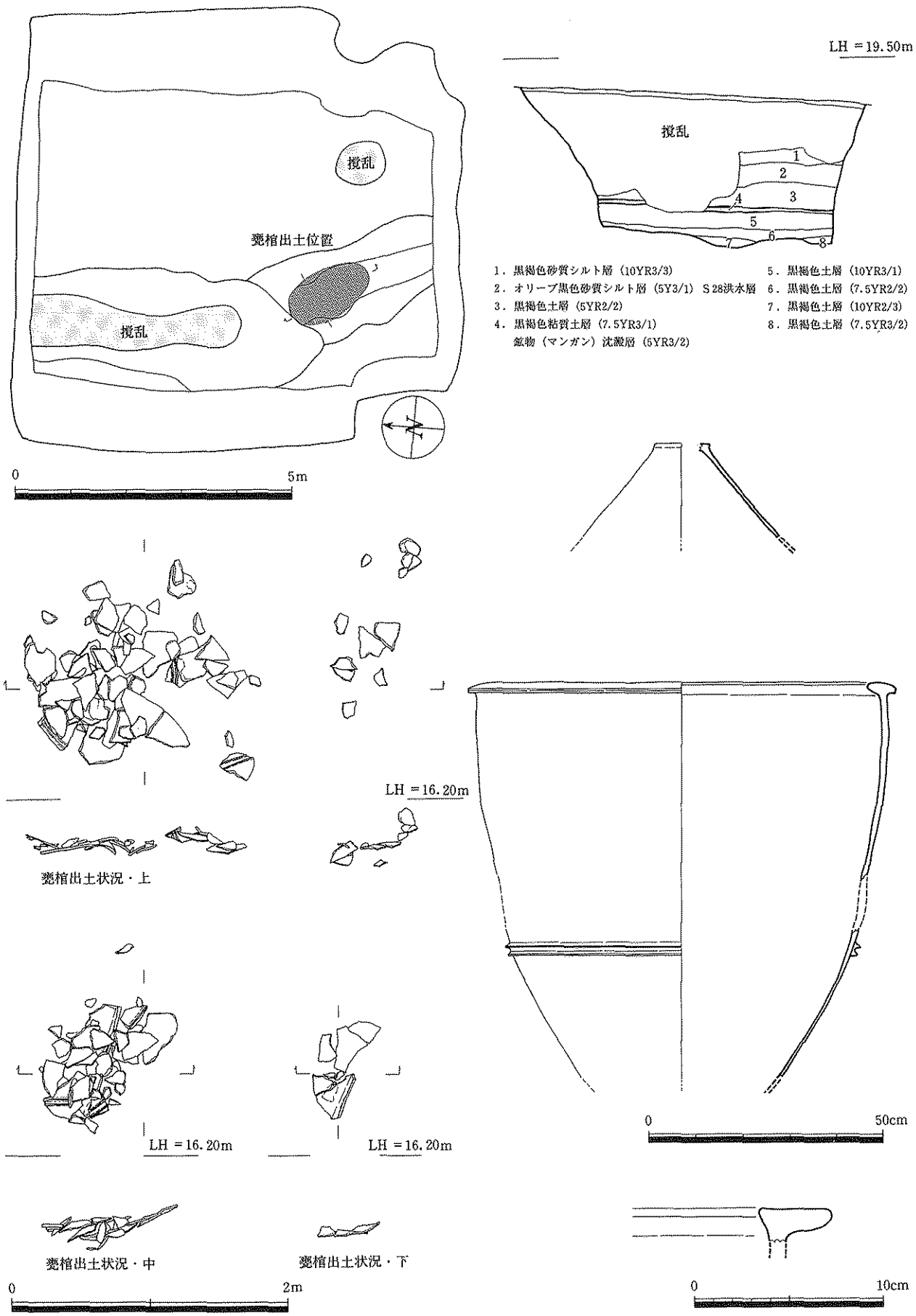


図12　0206調査地点遺構配置図・南壁土層断面図・遺物出土状況・出土遺物実測図（1/100・1/40・1/12・1/3）



Ⅱ—4　０２１０調査地点

1. 遺跡の立地と周辺地形

本地点は，工学部・理学部が所在する黒髪南地区の中央～西部にかけての地域にあたる．本地区は白川中流域の右岸に位置し，白川が最も大きく蛇行する地点である．これまでの構内調査では，古代の竪穴住居址および「国」銘土製印を出土した9407調査地点などの調査が実施されている．

2. 調査の概要

総合研究棟（0204調査地点）の建設に伴い，共同溝敷設および前面道路に当たる部分に植栽されていた樹木を移植する必要があり，その候補地として工学部１号館と工学部研究棟（Ⅰ）の間の敷地および工学部研究資料館南側の緑地帯が挙げられた．周辺での既往調査により遺物包含層および遺構の存在が予想されたため，移植工事に先だって2002年10月よりおよそ３日間移植地の発掘調査を実施した．その後，コンクリート基礎が出たために移植不能であったトレンチ付近に，新たなトレンチを設定し，11月中旬に調査を実施した．

樹木移植予定地のうち遺物包含層に達する深さ80cm以上のものを選択し，計21箇所のトレンチを設定し，調査を実施した．トレンチの配置は工学部１号館南・東側で15箇所，工学部研究棟（Ⅰ）西側で４箇所，工学部研究資料館南側で２箇所であった．工学部１号館南・東側のトレンチ（１～15）はすべて攪乱されており，遺構は検出していない．工学部研究棟（Ⅰ）西側では４個のトレンチ（16～19）を設定したが，2つのトレンチ（17・19）において包含層・遺構面を確認した．また，工学部研究資料館南側では，古代遺構と縄文時代の遺物包含層を確認できた（トレンチ20・21）．

＜調査期間＞

2002年10月１日～10月３日・11月18日

＜調査対象面積＞

61.19㎡

＜調査員・参加者＞

小畑弘己，大坪志子．

伊藤千代子，岡田イツ代，押方富江，河野義勝，白石美智子，高松北子，田口伸也，溜渕俊子，野口春美，林田恵子，早田咲百合，福田久美子，堀川貞子，松井昭子，水上順子，宮村邦子，森川征子，森川護，森田登，森みどり．

3. 調査の結果

a　基本層序（図13・14）

本地点の基本層序は，上部に厚さ80cmあまりの表土および埋土が堆積しており，その下部に近代の遺物包含層（畑地）である黒褐色土層（7.5YR3/2～10YR3/2）が30～40cmあまり堆積し，その下部がやや黒味の強い古代遺物包含層である黒褐色土層（7.5YR2/2～10YR2/2）が厚さ30cmあまり堆積し，その下部は基盤層としている暗褐色土層（7.5YR3/2）へと連なる．

b　検出遺構と遺物（図13～15）

＜トレンチ17＞

遺構は検出していないが，古代および縄文時代の遺物包含層を確認した．須恵器壺片（図15：23・24）は上位の黒色土中から，縄文土器片（同６）は暗褐色土層から発見された．

＜トレンチ19＞

古代の竪穴住居址の一部と思われる遺構面を確認した．住居の立ちあがりと硬化面を検出している．出土遺物には須恵器壺の口縁部片（図15：22）などがある．

＜トレンチ20＞

古代竪穴住居址の床と思われる硬化面を確認し，その下部から縄文土器片や石器などを含む包含層を確認した（図15：７・25～32）．

＜トレンチ21＞

縄文時代包含層を確認，土器・石器約30点が出土した（図15：８～18・33）．

4. 成果と問題点

各地点において，古代集落の広がりを確認できたこと，縄文時代後期～晩期を中心とした包含層を確認できたことは，今後，周辺部の建築計画などの参考となろう．

写真37　樹木③調査地点周囲掘削風景（西より）

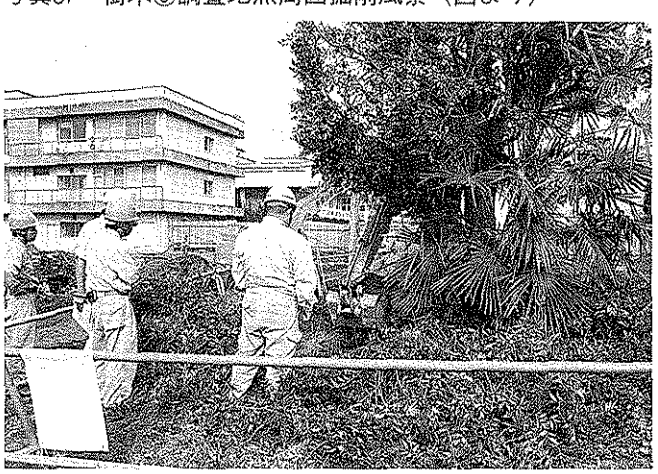


図13　トレンチ17・19遺物出土状況（1/40）

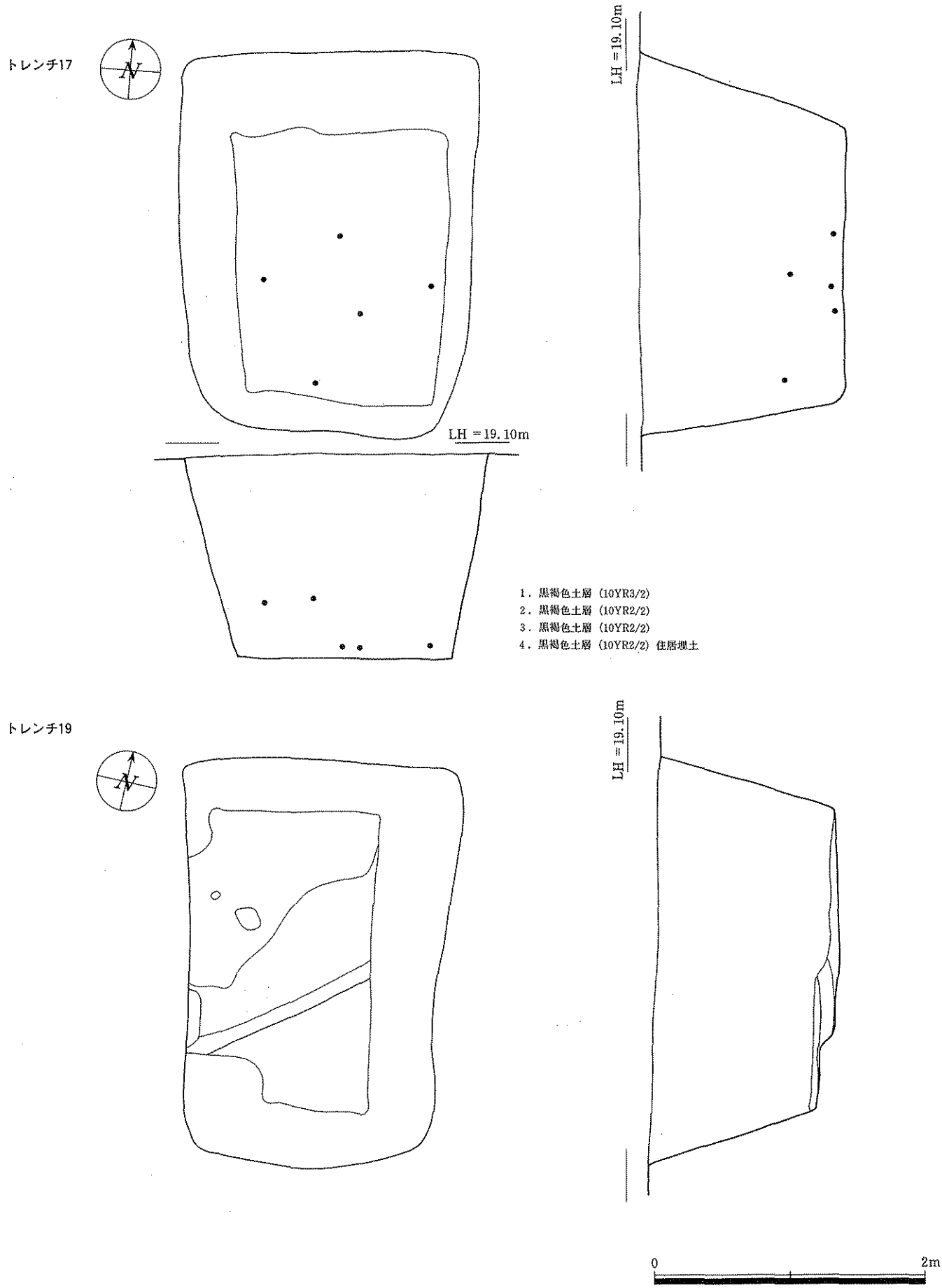


図14　トレンチ20・21遺物出土状況（1/40）

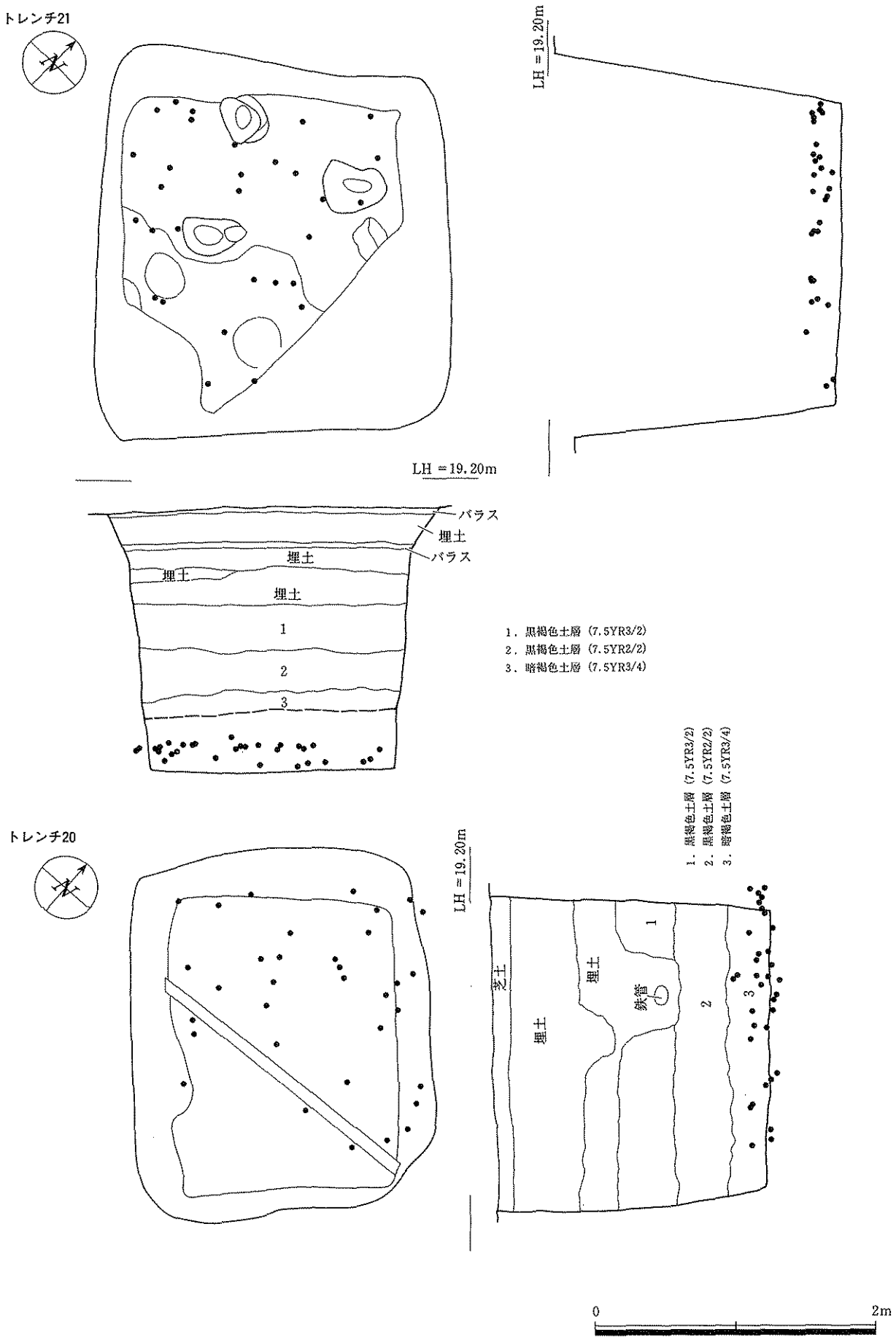


図15　各トレンチ出土遺物実測図（1/3･1/4･2/3）

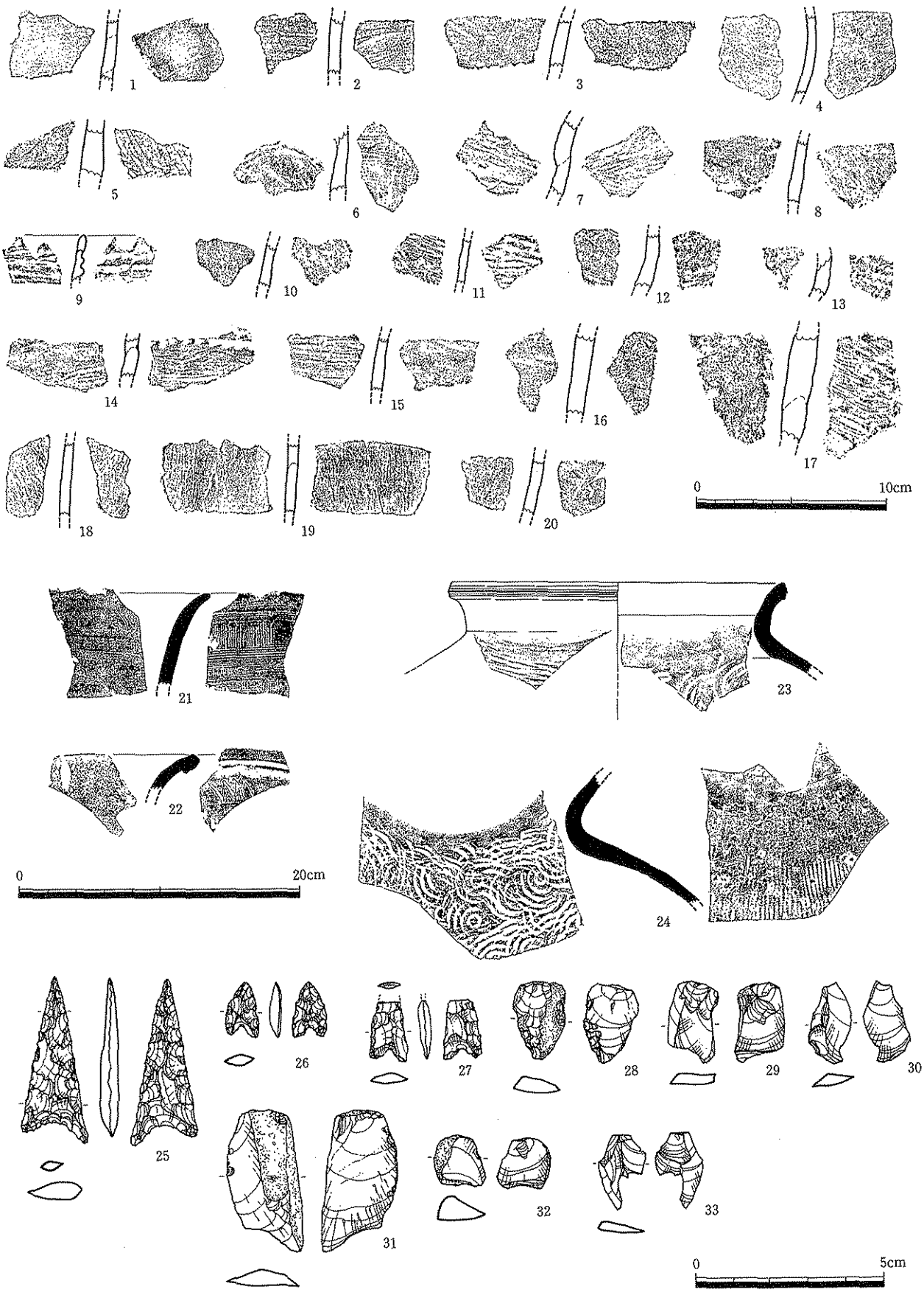


写真38　樹木⑬トレンチ掘削状況（東より）

写真39　II区トレンチ５掘削状況（東より）

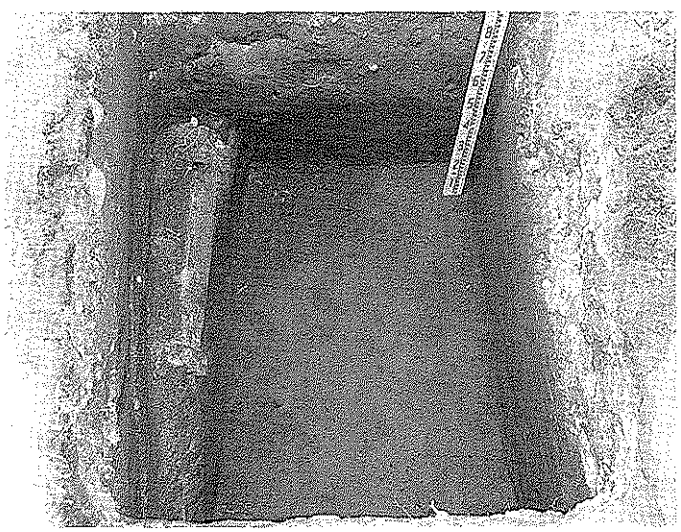


写真40　II区トレンチ６掘削状況（東より）

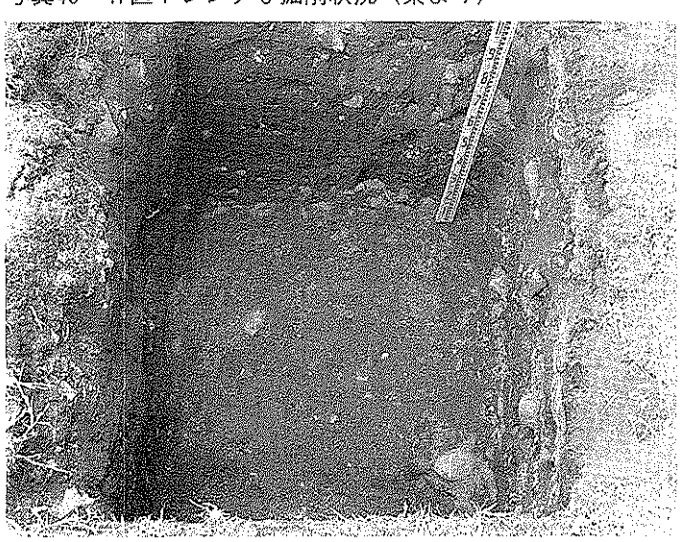


写真41　II区トレンチ８掘削状況（北より）

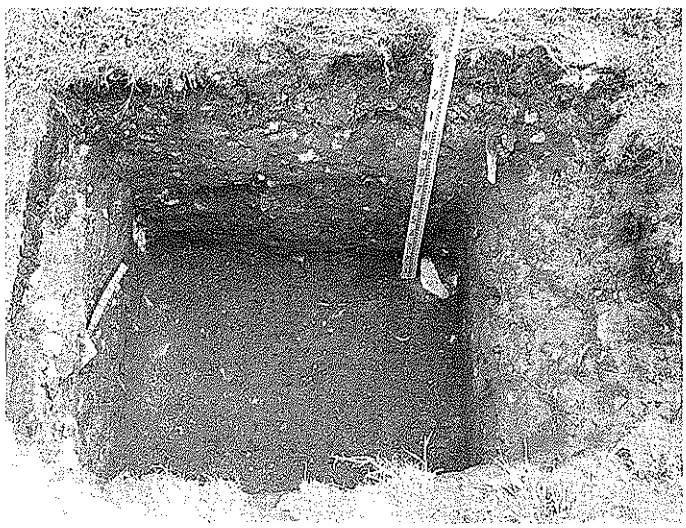


写真42　II区トレンチ７掘削状況（西より）

写真43　II区トレンチ９掘削状況（北より）

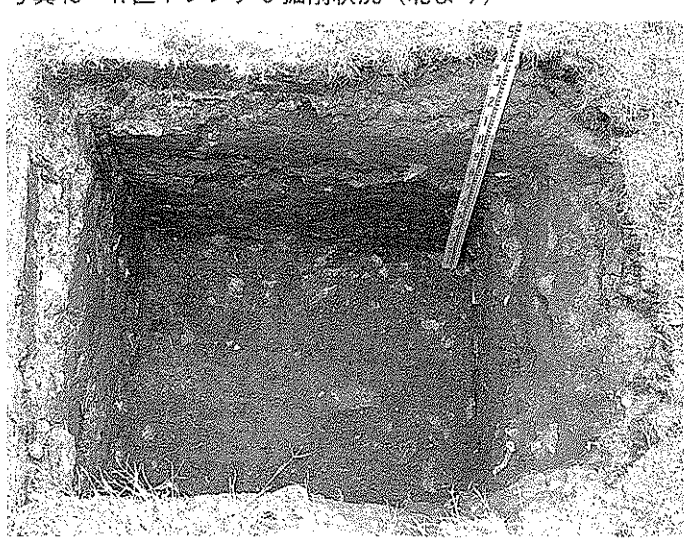


写真44　II区トレンチ10掘削状況（北より）

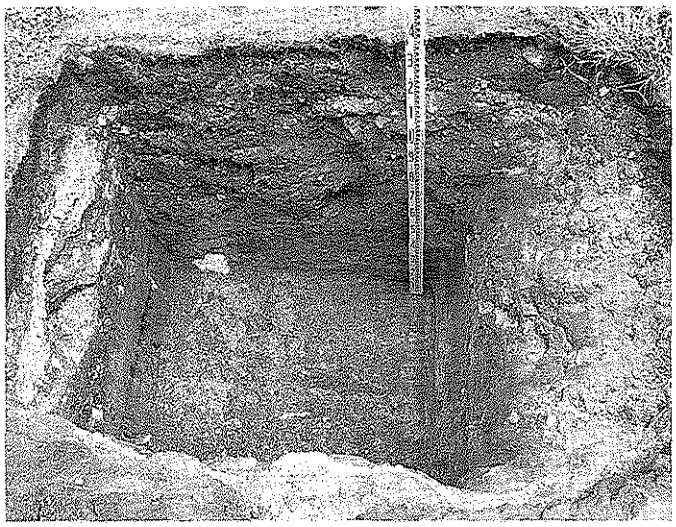


写真45　II区トレンチ11掘削状況（西より）

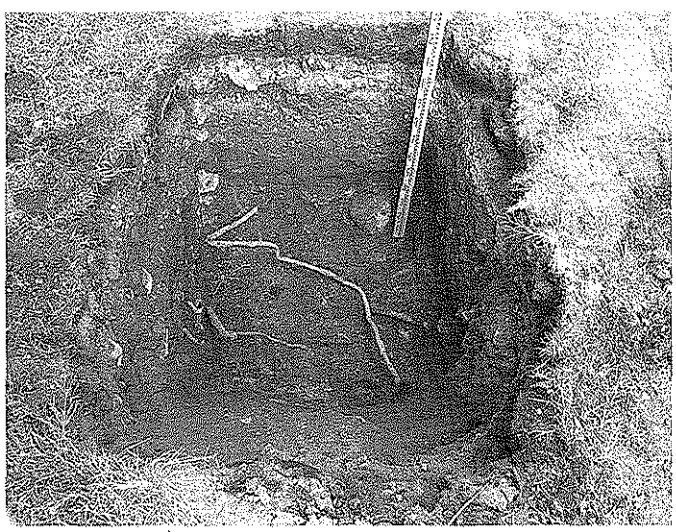


写真46　II区トレンチ12掘削状況（北より）

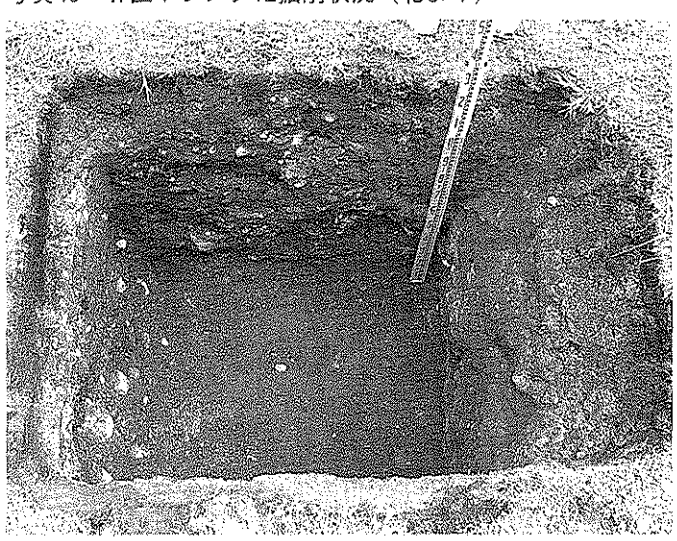


写真47　II区トレンチ13掘削状況（東より）

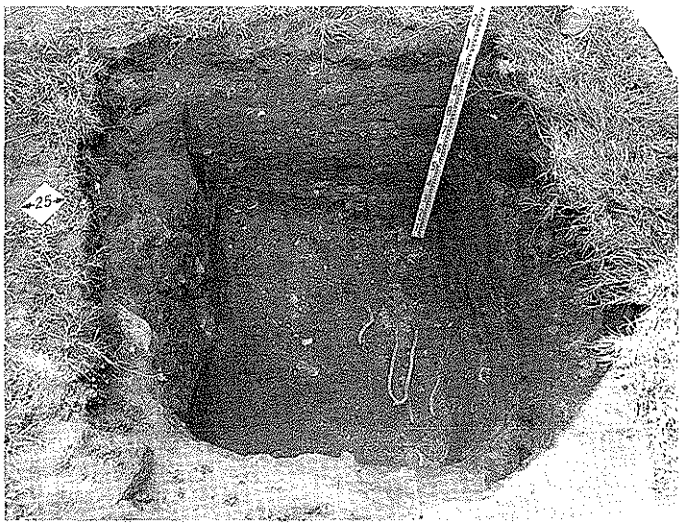


写真48　II区トレンチ１掘削状況（西より）

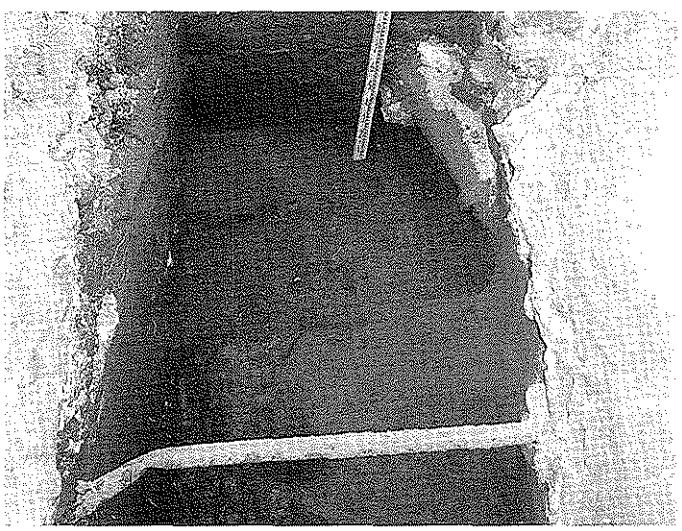


写真49　II区トレンチ15掘削状況（東より）

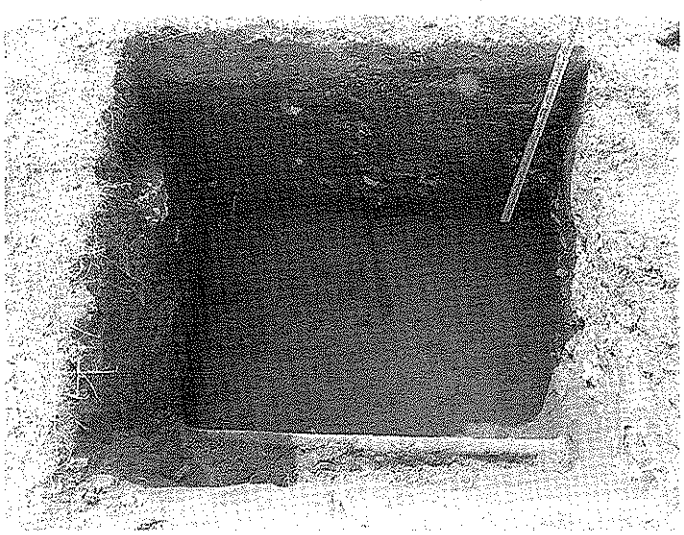


写真50　II区トレンチ14掘削状況（東より）

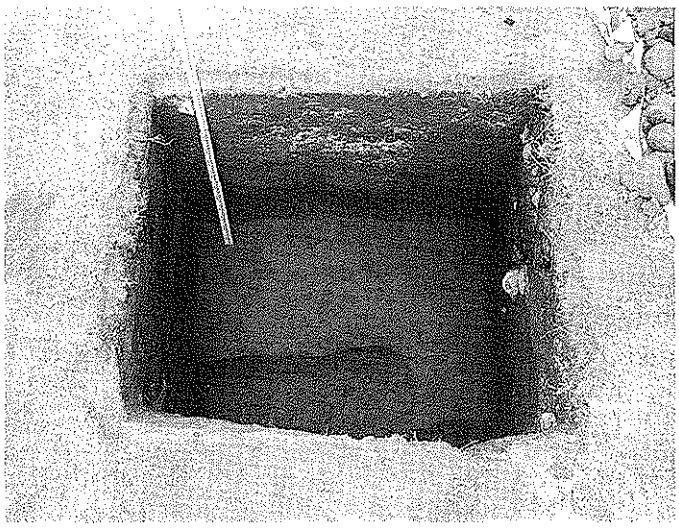


写真51　II区調査地点全景（西より）

写真52　III区調査地点全景（北東より）

写真53　IV区調査地点全景（南東より）

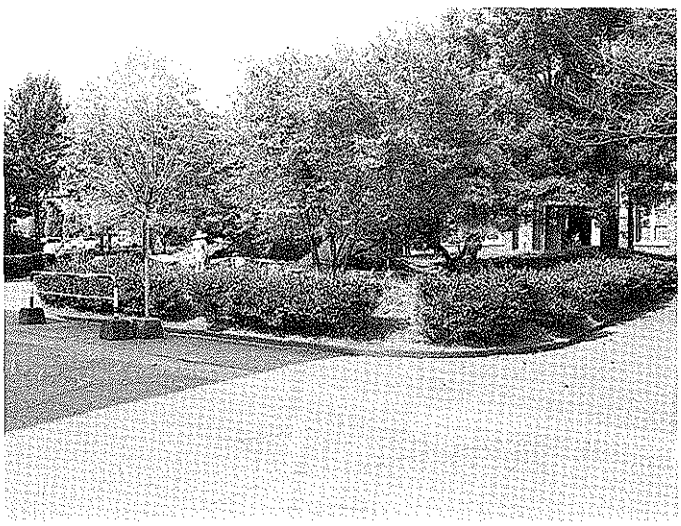


写真54　IV区トレンチ20調査風景（南東より）

写真55　IV区トレンチ21硬化面検出状況（東より）

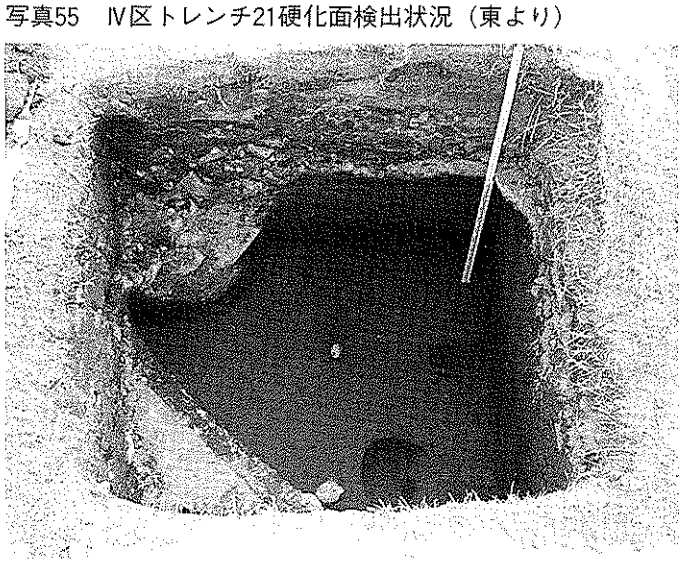


写真56　Ⅲ区トレンチ16全景（東より）

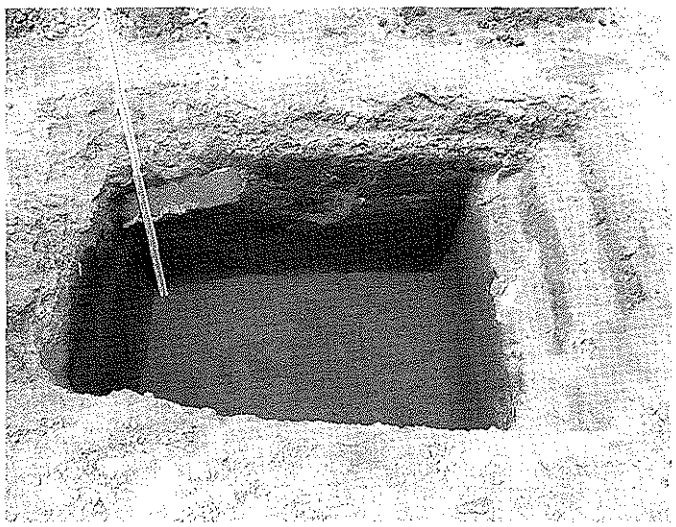


写真57　Ⅲ区トレンチ17全景（東より）

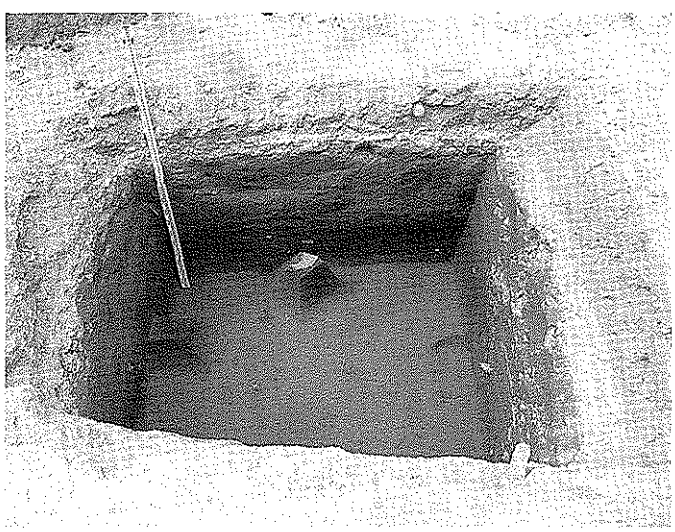


写真58　Ⅳ区トレンチ20第２硬化面検出状況（北より）

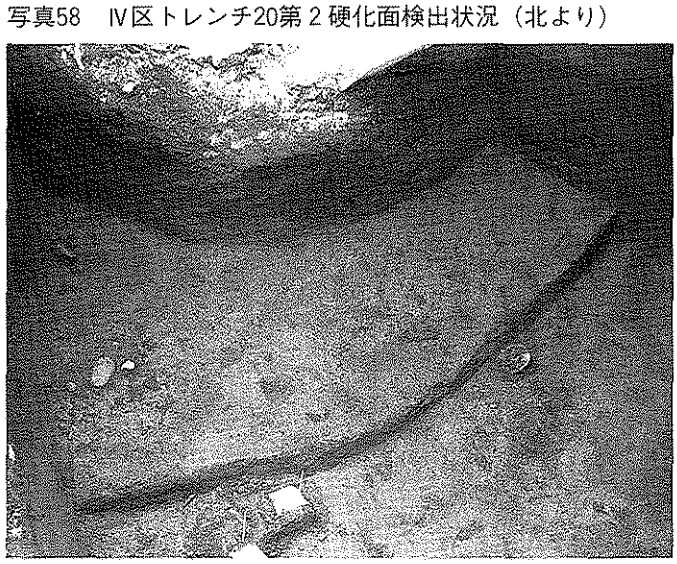


写真59　Ⅳ区トレンチ20遺物出土状況（東より）

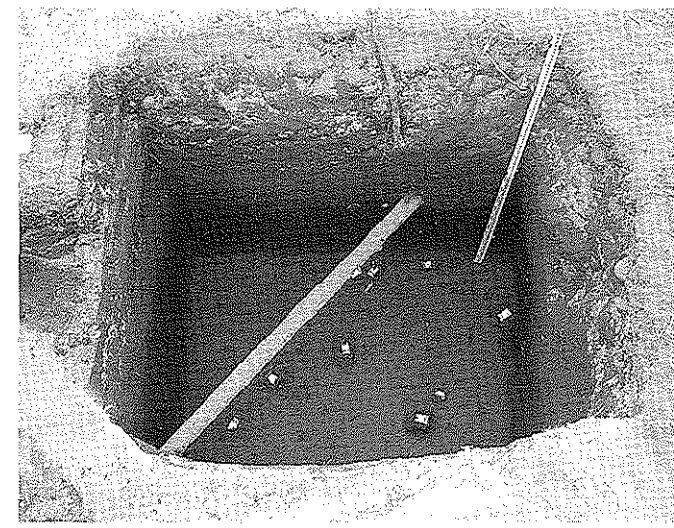


写真60　Ⅳ区トレンチ20磨石ほか出土状況（西より）

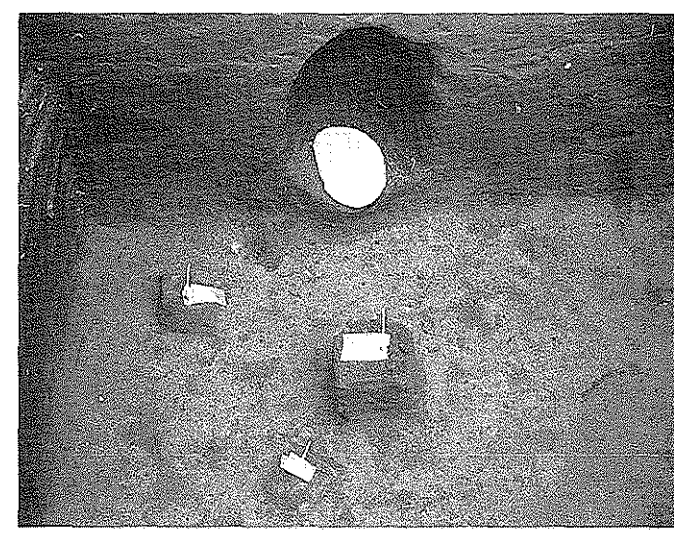


写真61　Ⅳ区トレンチ20包含層下面遺物出土状況（東より）

写真62　Ⅳ区トレンチ21包含層遺物出土状況（東より）

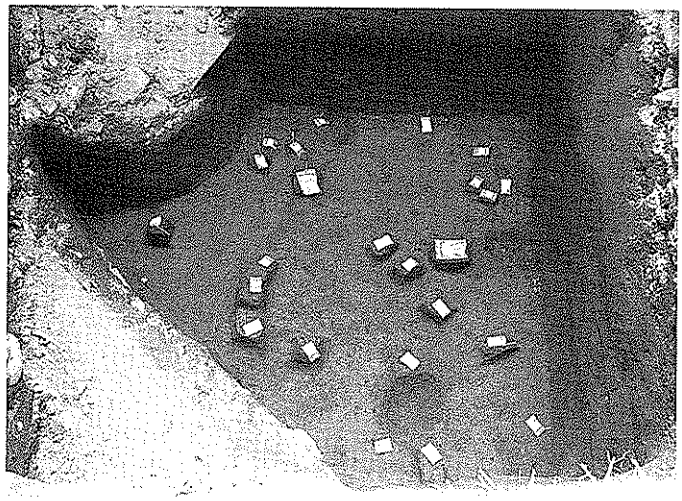


写真63　Ⅲ区トレンチ19・１号住居址（北より）

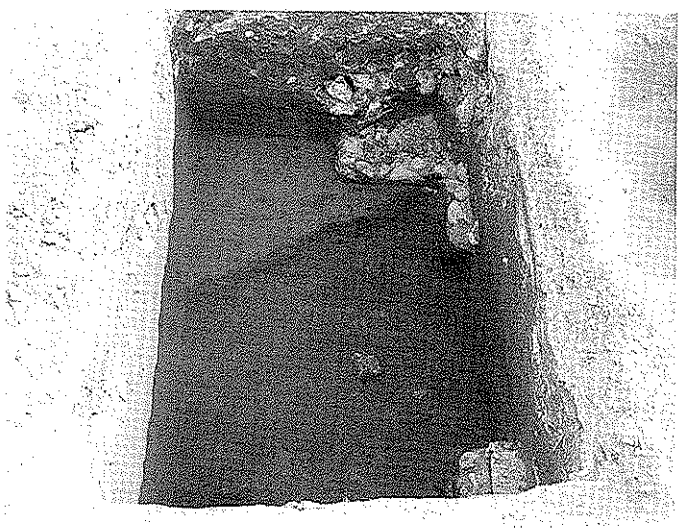


写真64　樹木①調査地点トレンチ土層（南より）

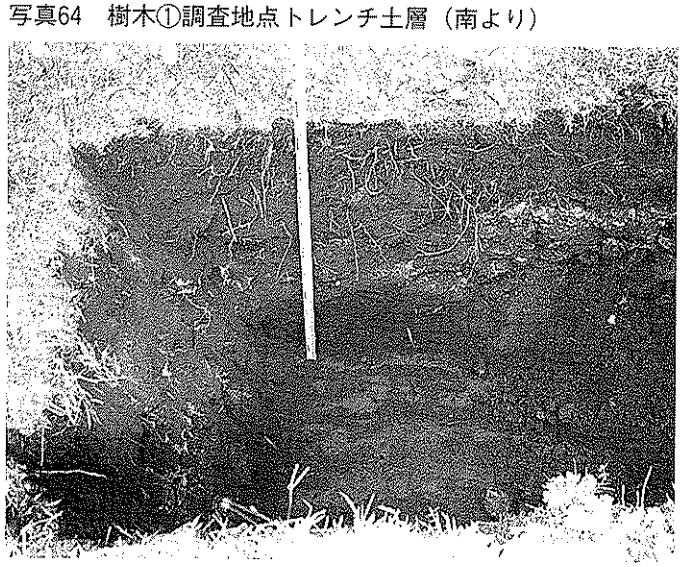


写真65　樹木①調査地点近景（西より）

写真66　樹木②調査地点トレンチ土層（東より）

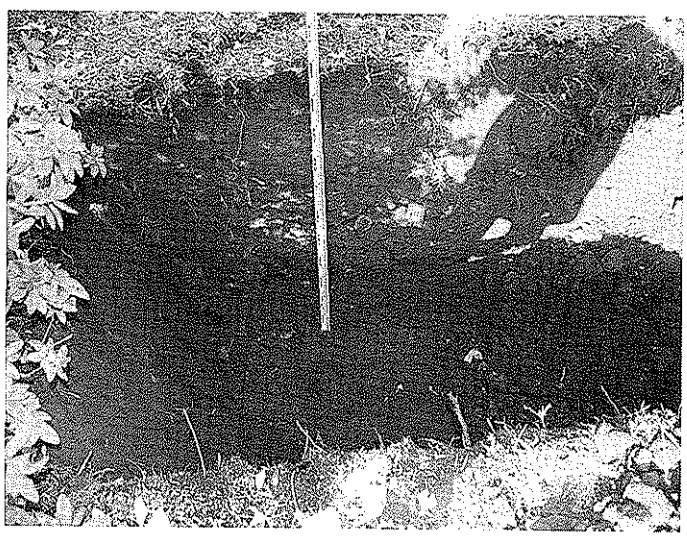


写真67　トレンチ18位置換え掘削風景（北より）

第Ⅲ章　立会・試掘調査

Ⅲ—1　黒髪北地区　（図16・17参照）

1. 黒髪団地北地区大学教育研究センターC棟空調機取設工事給排水および室外機基礎工事に伴う立会調査（0201）

＜調査期間＞

2002年4月3日・4月4日

＜調査対象面積＞

29.3㎡

＜調査員＞

大坪志子.

写真68　掘削風景（南西より）

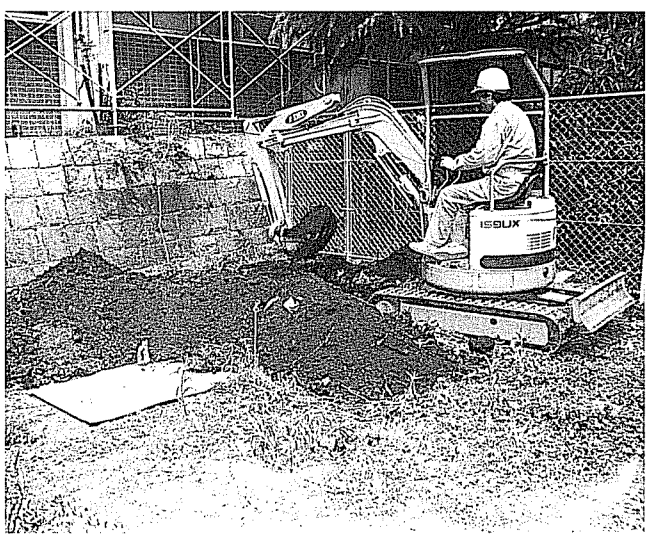
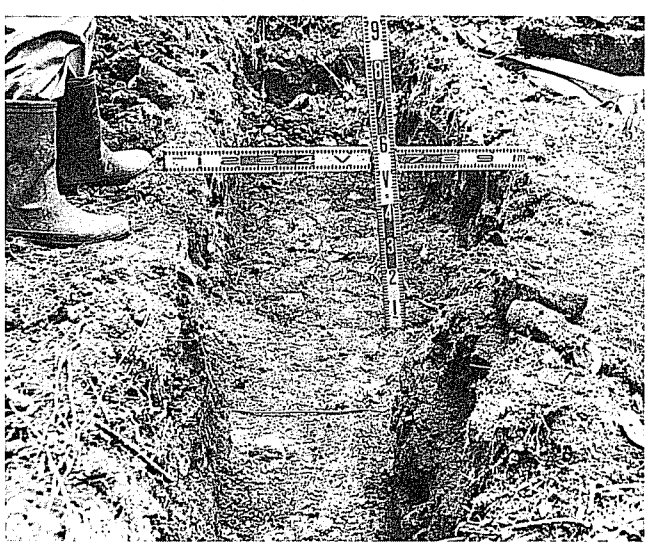


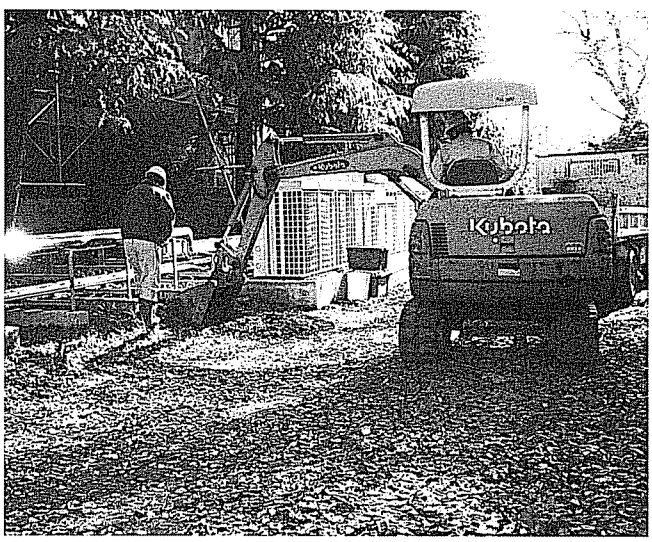
写真69　掘削状況（南より）



＜調査概要・結果＞

大学教育研究センターA棟裏B棟東側部分において，空調機設置に伴い給排水管部分と室外機基礎部分の立会調査を実施した．給排水管部分は地表下50～60cm，基礎部分は地表下40cmまで掘削したがいずれも現代埋土で，包含層・遺構・遺物は検出されなかった．

写真70　掘削風景（南西より）



2. 黒髪団地北地区外灯設備工事に伴う立会調査（0202）

＜調査期間＞

2002年4月15日・4月16日

＜調査対象面積＞

199㎡

＜調査員＞

小畑弘己・大坪志子.

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区に，合計9箇所外灯を設置する工事に伴い立会調査を実施した．本工事の指導内容に関して施設部担当者による誤認があり，立会調査を慎重工事として既に着工していた．立会調査である旨を伝え，改めて打ち合わせを行ったうえで立会調査を実施した．このため既に着工していた1箇所については，立会調査を実施できていない．

外灯の基礎部分については地表下1.5mまで掘削したが，いずれの地点においても撹乱などのため，遺構・遺物は検出されなかった．

図16　黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）

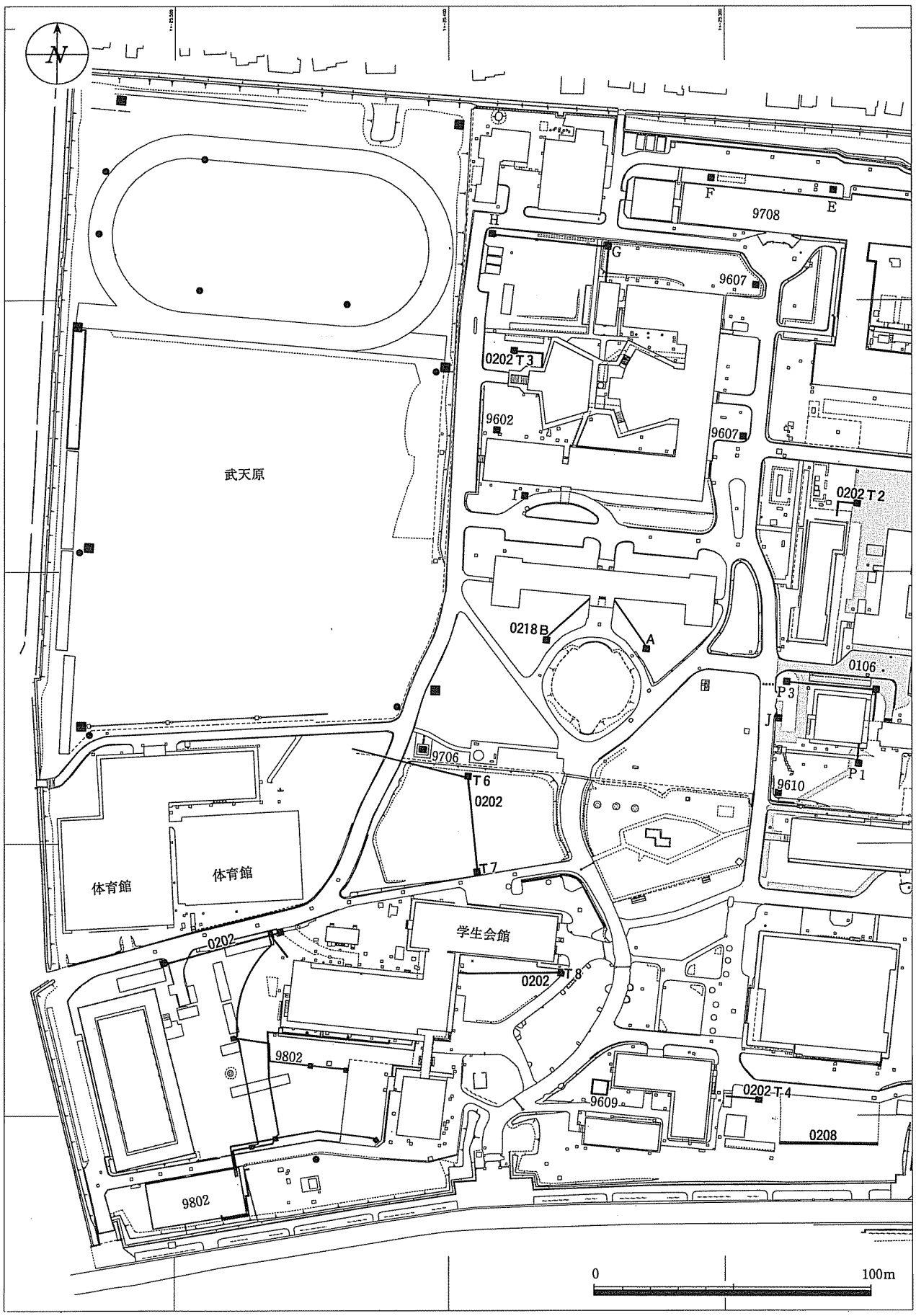


図17　黒髪北地区東半における調査地点配置図（1/2000）

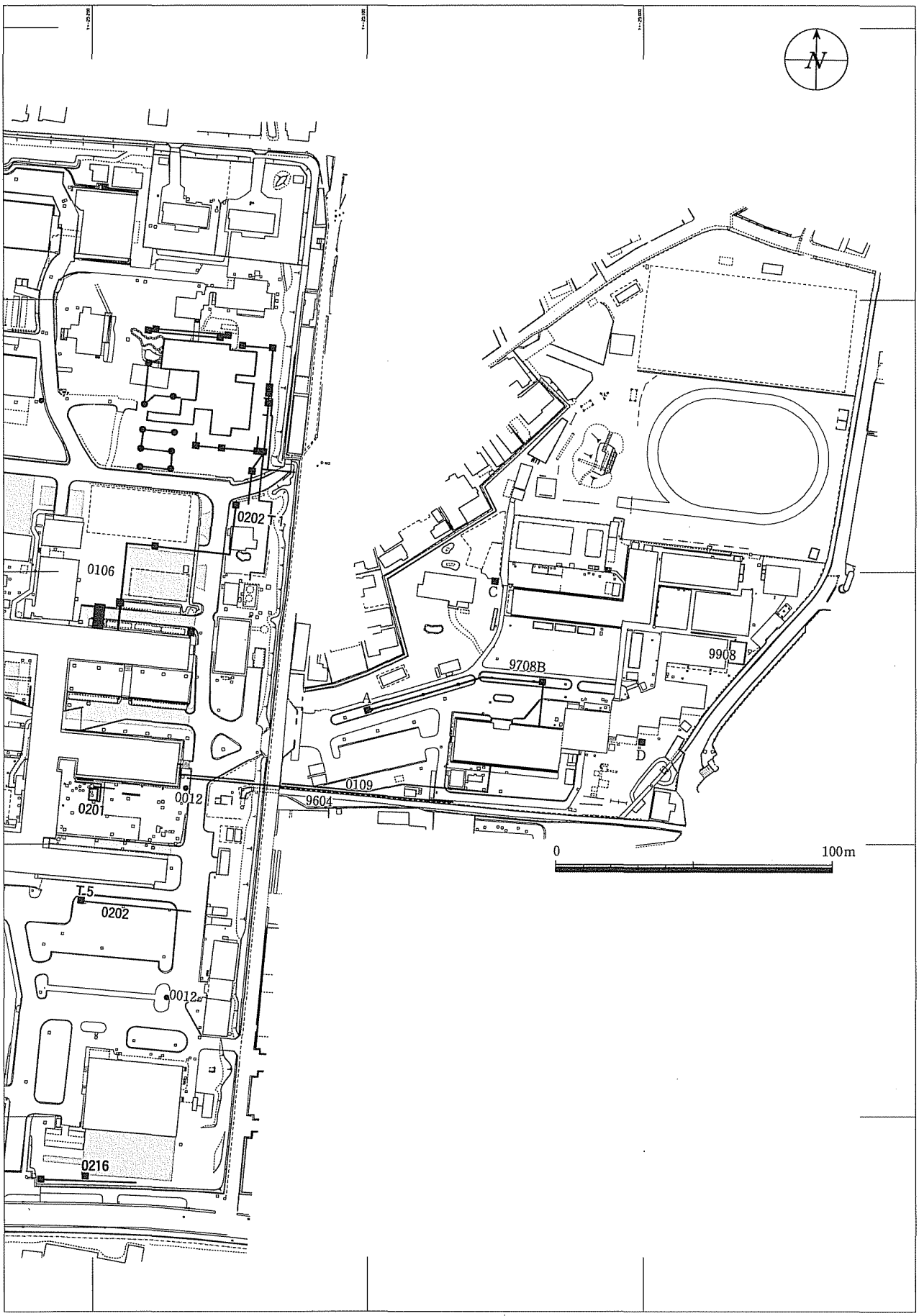


写真71　トレンチ２掘削風景（南より）

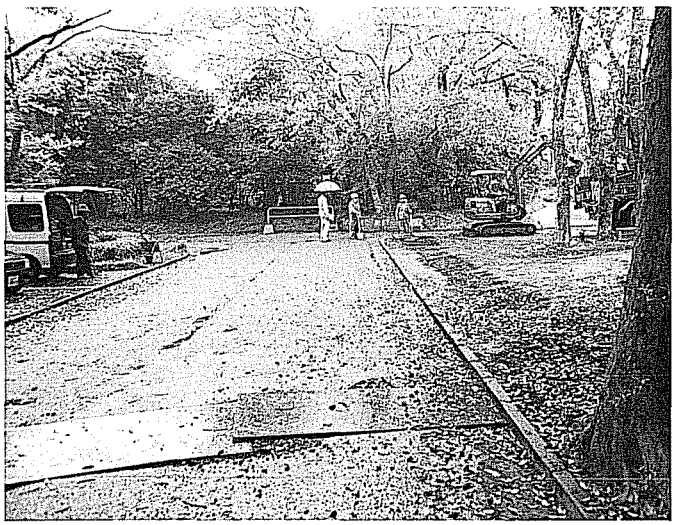


写真72　トレンチ１土層断面（東より）

写真73　トレンチ３掘削風景（北西より）

写真74　トレンチ３南壁土層断面（北より）

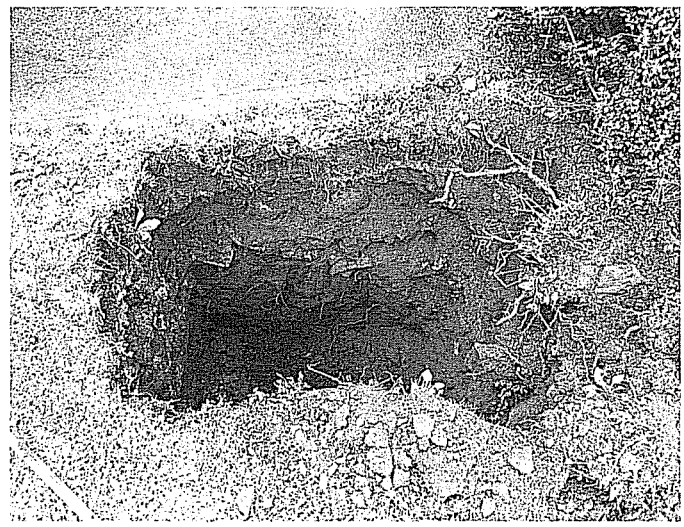


写真75　トレンチ６掘削風景（西より）

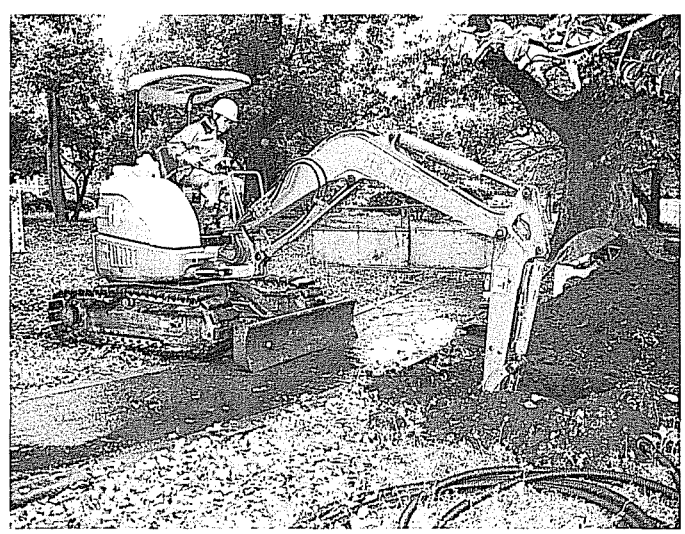


写真76　トレンチ６掘削状況（東より）

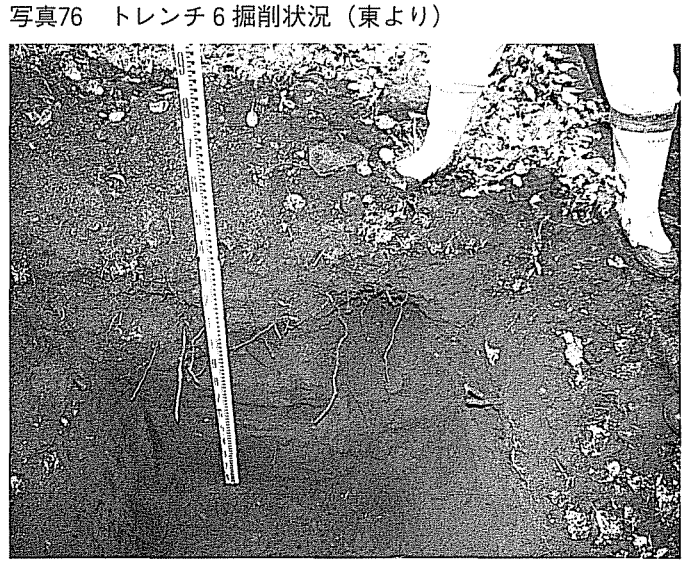


写真77　トレンチ７掘削風景（西より）

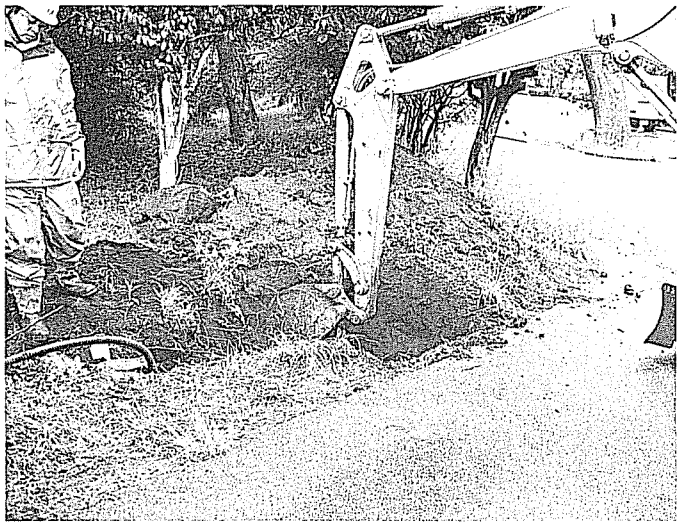


写真78　トレンチ７掘削状況（北より）

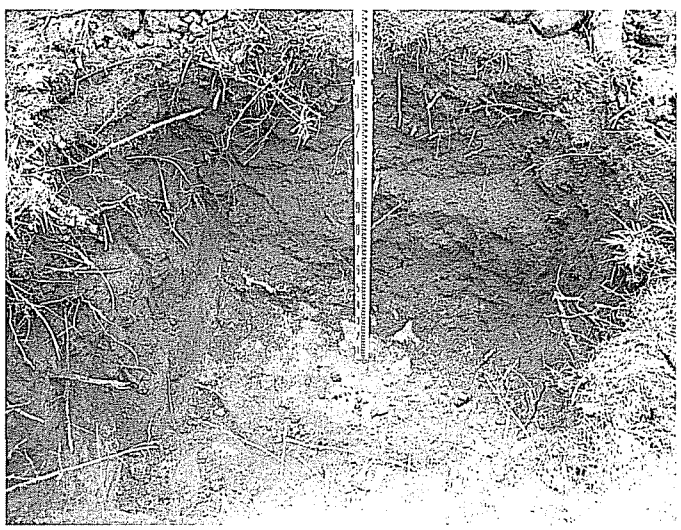
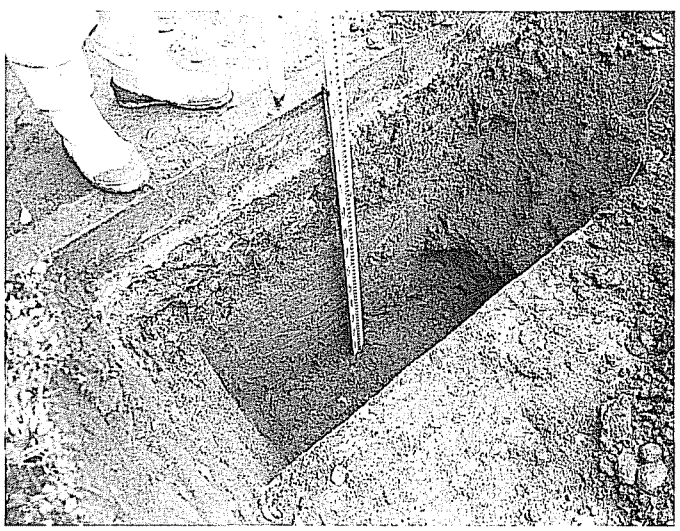


写真79　トレンチ８掘削状況（西より）



3. 黒髪団地北地区図書館南側学生部駐車場拡張工事に伴う立会調査（0208）

＜調査期間＞

2002年７月２日

＜調査対象面積＞

24㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

図書館南側の駐車場建設に伴い立会調査を実施した.掘削深度が地表下35～40cmと浅く，重機によって掘削したが，現代の埋土であり，包含層には達しなかった.

掘削後は砂利舗装であり，埋蔵文化財には影響ないものと判断された.

写真80　掘削風景（北より）

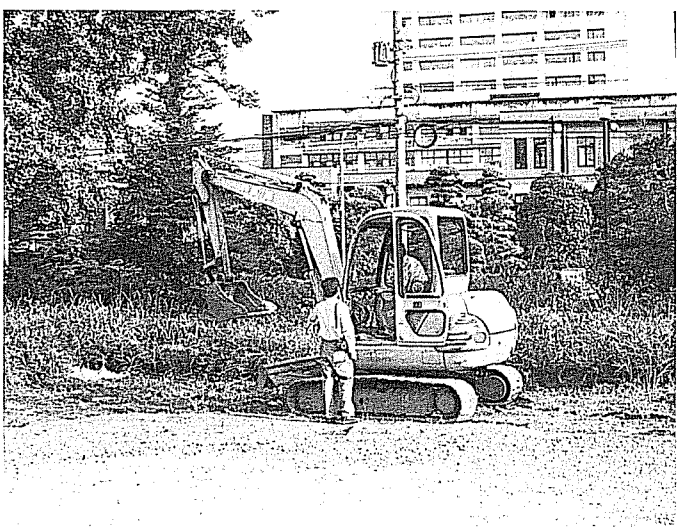
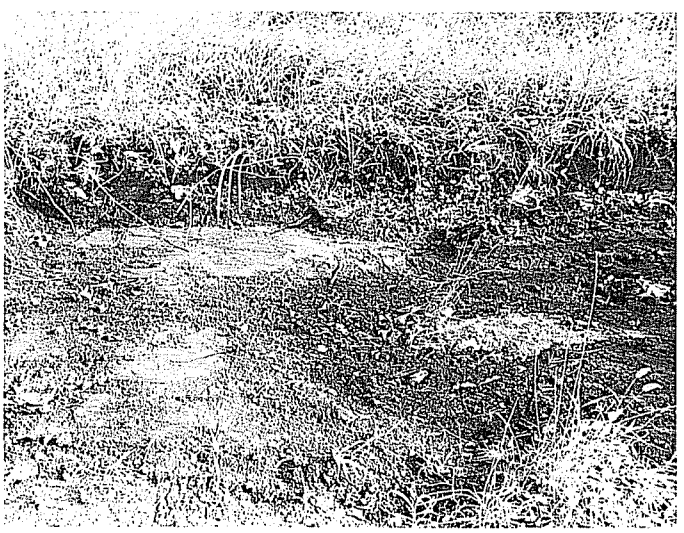


写真81　掘削状況（北より）



4. 黒髪団地北地区外灯設備工事に伴う立会調査（0216）

＜調査期間＞

2003年２月21日

＜調査対象面積＞

18.5㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

外灯基礎設置のため地表下1.5ｍまで掘下げたが，コーラ瓶・牛乳瓶などが出土した．おそらくこの北地区南壁の石垣を築くときに埋められた裏込め土であろう．

5. 黒髪団地北地区外灯設備工事に伴う立会調査（0218）

＜調査期間＞

2003年３月10日

＜調査対象面積＞

2.6㎡

＜調査員＞

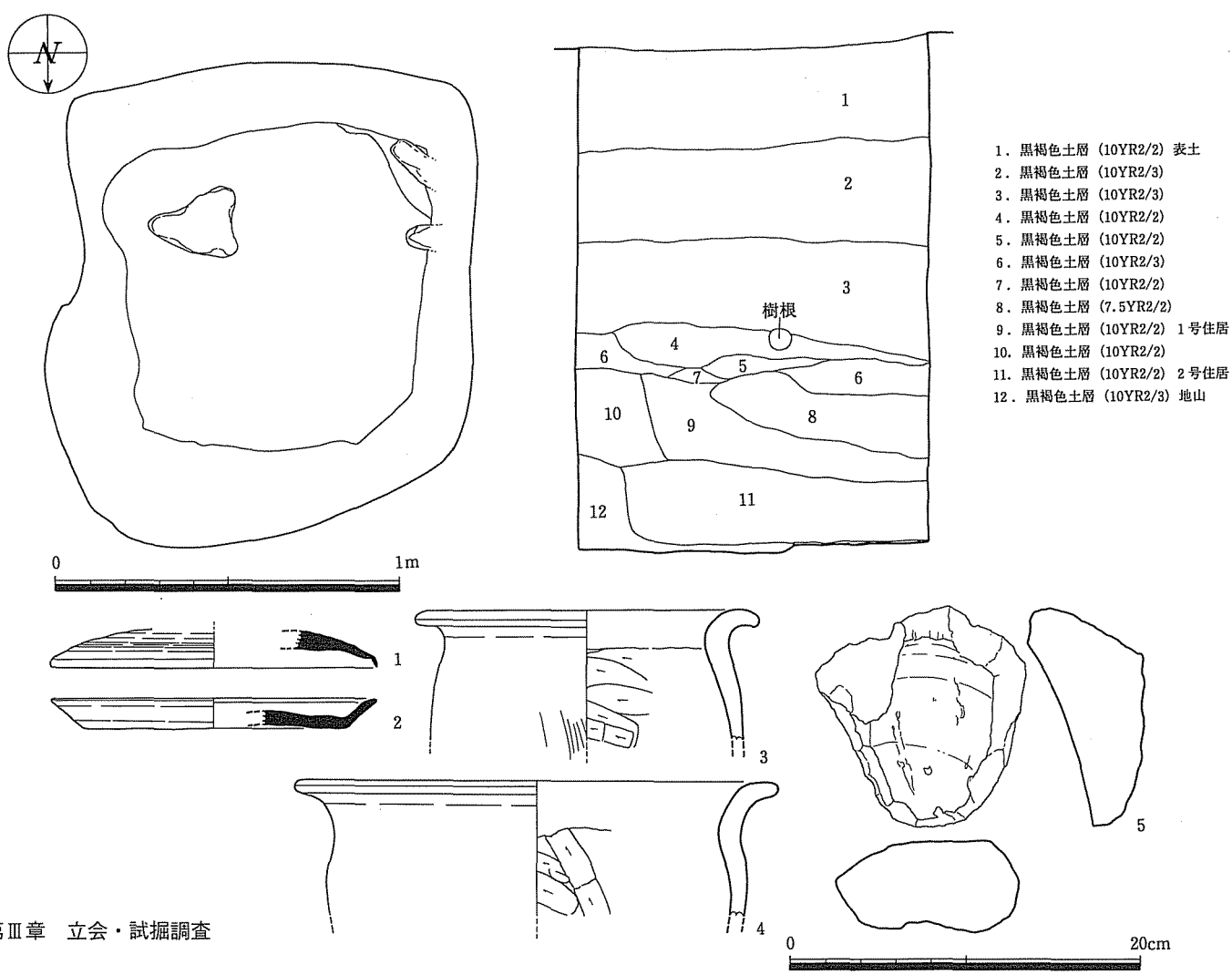
大坪志子.

＜調査概要・結果＞

黒髪地区の資料館前２箇所に外灯を設置する工事に伴い立会調査を行った．Ａ地点基礎部分では地表下60cm程度から包含層と思われる黒色土層が認められたが，遺物・遺構は検出されなかった．Ｂ地点では包含層を掘削中，遺物が検出されたため重機による掘削を止めた．壁および底を観察したところ，焼土と竈の一部と思われる白色の粘土が確認されたため，調査に切り替えた．

南壁で焼土層（８層）と住居址と思われる掘り込み（９層：１号住居址・11層：２号住居址）を確認した．９層と11層の堺で若干硬い部分を，また11層下面で硬化した床を確認した．底で検出された白色粘土の周囲からは焼土などは検出されず，現位置を保つものではなかったが，2号住居址に伴うものであろう．11層ではほとんど遺物が出土せず，8層には遺物が包含されていた．廃土の遺物は８層の焼土に伴うと思われる．9世紀前半頃であろう．住居址の範囲は確認できなかった．この調査で，昨年度の0106調査地点に続き，資料館周辺においても包含層・遺構が良好に遺存していることが確認された．

図18　0218調査地点遺構配置図・南壁土層断面図・出土遺物実測図（1/20・1/４）　LH＝21.90m



Ⅲ—2　黒髪南地区　（図２参照）

1. 黒髪団地南地区インキュベーション施設新営工事に伴う試掘調査（0203）

＜調査期間＞

2002年４月17日

＜調査対象面積＞

３㎡

＜調査員＞

小畑弘己・大坪志子.

＜調査概要・結果＞

インキュベーション施設新営工事に伴う試掘調査で，隣接地の調査状況から遺構の存在が予想されるため，試掘調査を実施した．予定地の南端中央部に1.5×２ｍのトレンチを設定して掘削を行った．隣接する9909調査地点と同様に，地表下2.5ｍで畑址，2.9ｍで遺構面（地山）を確認した.

2. 黒髪団地南地区総合研究棟新営工事に伴う試掘調査（0204）

＜調査期間＞

2002年４月17日

＜調査対象面積＞

４㎡

＜調査員＞

小畑弘己・大坪志子.

＜調査概要・結果＞

旧工学部建物があった敷地であり，総合研究棟建設に先だって埋蔵文化財の残存状況を把握するため試掘調査を実施した．予定地の東南隅・西南隅に１×２ｍのトレンチを設定して重機によって掘削した結果，それぞれ地表下1.35～1.4ｍで包含層および遺構面を確認した.

3. 黒髪団地南地区食堂裏エコクリーンソイル工事に伴う試掘調査

＜調査期間＞

2002年４月24日

＜調査対象面積＞

0.73㎡

＜調査員＞

実施者：坂田和弘（熊本県文化課）.

立会者：小畑弘己・大坪志子.

＜調査概要・結果＞

エコクリーンソイル工事に伴い熊本県教育庁文化課坂田和弘氏によって試掘調査が実施され，立ち会った.

工事範囲内に２箇所トレンチを設定して掘削を行なったが，最も深い掘削予定の地表下50cmまでは現代埋土で，遺物・遺構は確認されなかった.

写真82　掘削風景（西より）

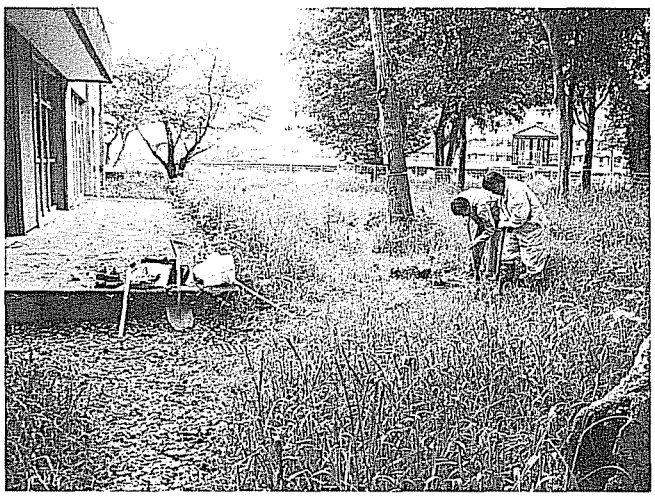


写真83　トレンチ１掘削状況（北より）

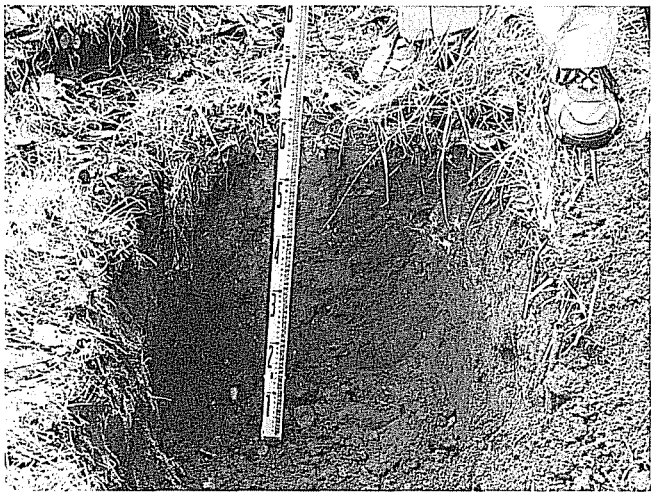


写真84　トレンチ２掘削状況（北より）

4. 黒髪団地南地区総合研究棟新営一次掘削に伴う電気工事に伴う立会調査（0207）

＜調査期間＞

2002年６月３日

＜調査対象面積＞

32㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

総合研究棟建築予定地に隣接する研究協力課棟（リエゾンオフィス）の南側から電気配管替えを行う際に立会調査を実施した.

建物に隣接するため，建物基礎の建築の際の掘り方によってほとんど破壊を受けていた．このため，掘削深度の地表下90cmまでは埋土であった.

その他の区間においても遺物・遺構は検出していない.

写真85　掘削風景（南より）

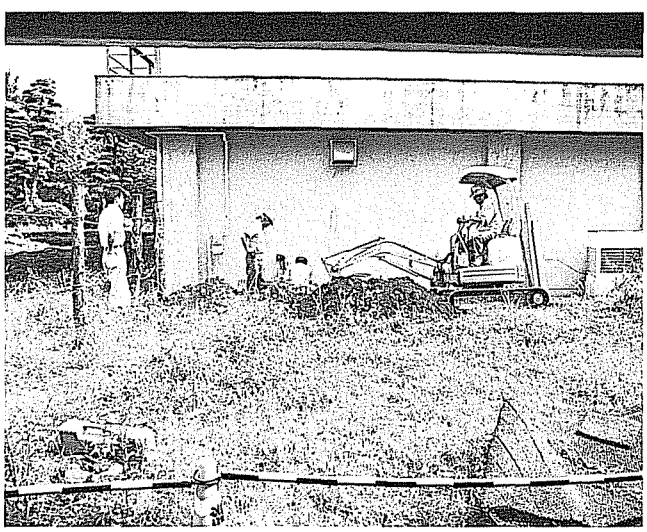
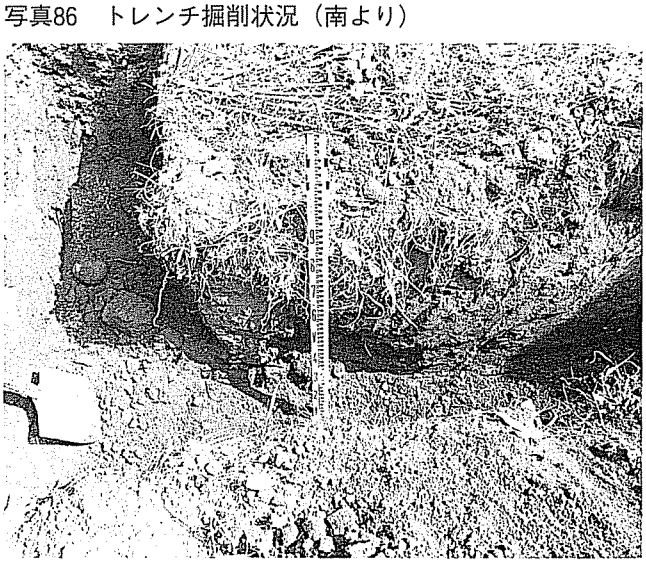


写真86　トレンチ掘削状況（南より）



5. 黒髪団地南地区通用門拡幅工事に伴う立会調査（0212）

＜調査期間＞

2002年12月３日・12月５日・12月11日

＜調査対象面積＞

480㎡

＜調査員＞

小畑弘己・大坪志子.

＜調査概要・結果＞

旧建物の基礎撤去については，地表下50cmまで表土で，遺構・遺物は検出されなかった.

共同溝への電気配線切り替え工事では，地表下１ｍまで掘削したが，遺構・遺物は検出されなかった.

旧門柱と石垣の撤去部分では，地表下70cmまで掘削したが，現代埋土の範囲内で，遺構・遺物は検出されなかった.

写真87　電気工事部掘削風景（南より）

写真88　電気工事部掘削状況（北より）

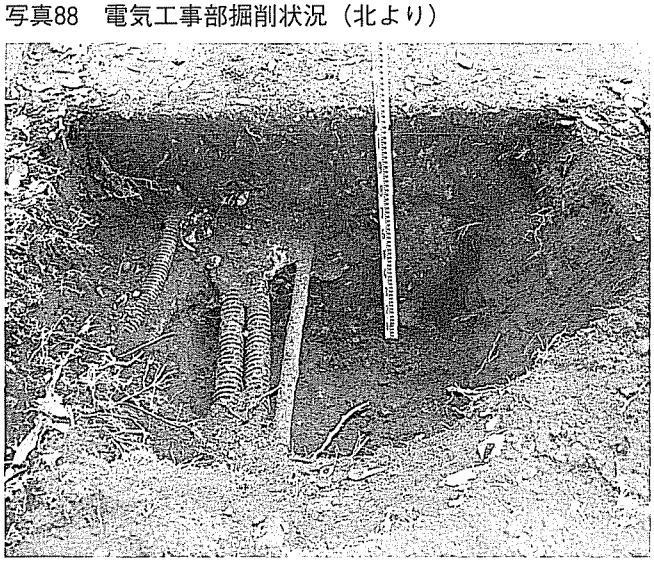


写真89　石垣撤去部作業風景（西より）

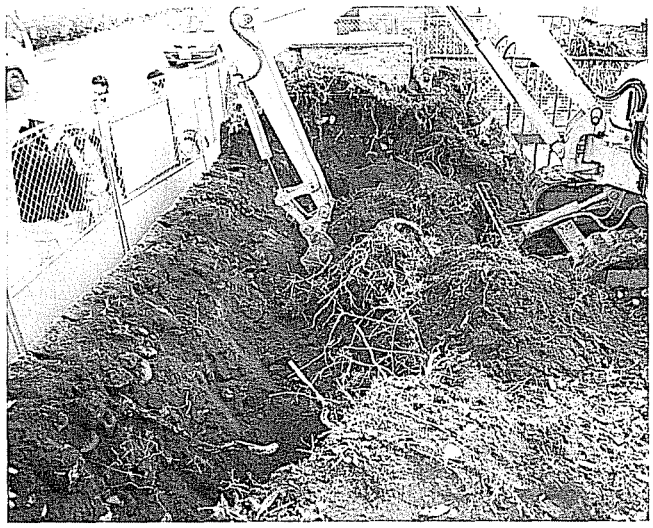
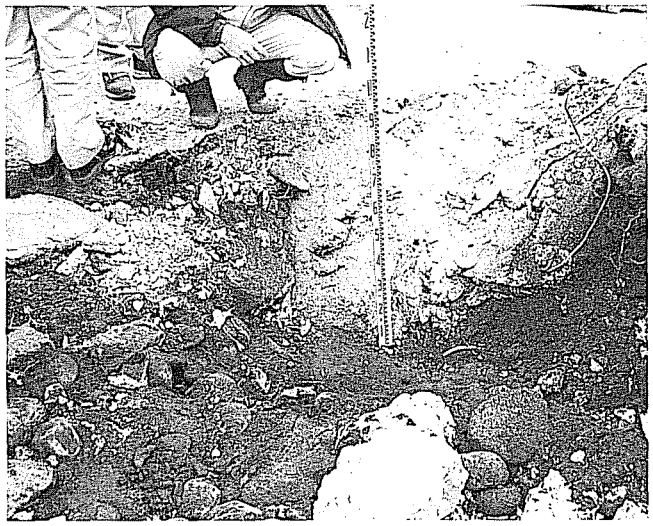


写真90　石垣撤去部掘削状況（西より）

写真91　西側門柱撤去状況（西より）



Ⅲ―3　本荘北地区　（図19参照）

1. 本荘団地北地区（医病）総合研究棟新営（渡り廊下部分）工事に伴う立会調査（0211）

＜調査期間＞

2002年10月7日

＜調査対象面積＞

32㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

建設中の医学部総合研究棟と基礎研究棟を連結する渡廊下新営工事に伴う立会調査である．工事範囲は暗渠や両建物の建設で大半が既に一度掘削されている．実質の調査は現在道路部分で，遺構・遺物の検出はなかった．

写真92　作業風景（北西より）

写真93　掘削状況（北西より）

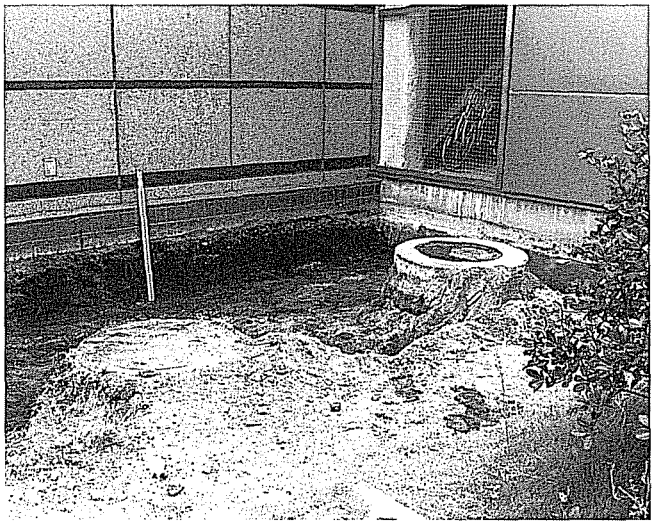
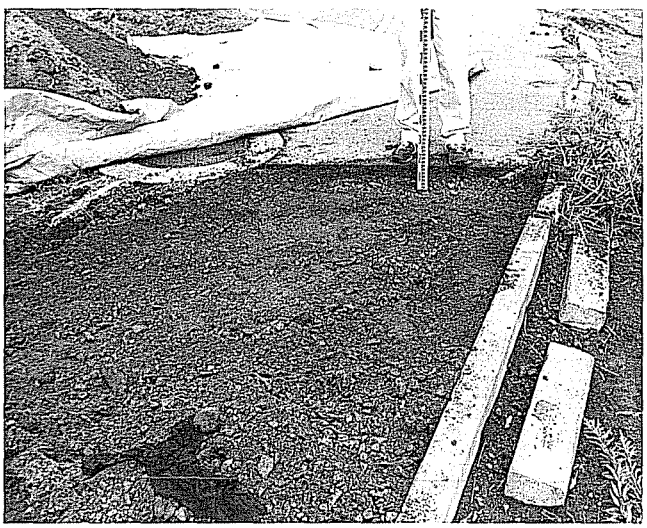


写真94　掘削状況（南西より）



2. 本荘団地北地区（医病）総合研究棟新営電気設備工事に伴う立会調査（0213）

＜調査期間＞

2003年１月23日，1月24日，1月28日

＜調査対象面積＞

25㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

医学部総合研究棟北側の白川の土手を走る道路の内側にあたる土手斜面部を巡る電線および電灯基礎（ｃ工区）の立会を実施したが，地表下90cmまで掘削したが，遺構・遺物は検出されなかった.

さらに医学部研究実験棟西側に設置される電灯基礎（d工区）の掘削においても，暗渠に近いため砂の堆積が認められ，遺構・遺物ともに検出していない.

3. 本荘団地北地区（医病）基幹環境整備（外灯設備）工事に伴う立会調査（0214）

＜調査期間＞

2003年２月７日

＜調査対象面積＞

181㎡

＜調査員＞

小畑弘己，大坪志子.

＜調査概要・結果＞

ｅ工区は３箇所の基礎部分（1.2×1.0m）の掘削に立ち会った．その結果，ｅ－１工区では古代包含層が地表下80～100cmに比較的良い状況で残っていた．土師器片３点ほどが出土したが，遺構は確認できなかった．ｅ－２工期では暗渠に隣接しており，地表下1.2mまで砂と土の互層であり，近・現代の堆積物と思われる．遺構・遺物は検出されなかった．ｃ－１工区では看板基礎のため撹乱が激しく，遺構・遺物は残存していなかった.

ⓑ－１工区では，0.8×1.2mの範囲を掘削した．大半が共同溝の根切部分であったが，南側20cmほどの範囲で包含層・遺構面（地山）が確認された．遺物・遺構は確認されなかった．他の地点ではいずれも現代埋土であった.

ⓕ－１地点では地表下0.85～0.9mで包含層，1.1mで遺構面（地山）を検出した．遺物は土師器片が数点出土したのみで，遺構は検出されなかった．ⓕ－２地点は既設管が障害となり予定地点より西側に1.1mほど変更した．地表下１～1.1mで包含層，1.2mで遺構面（地山）を確認したが，遺物・遺構は検出されなかった.

4. 本荘団地北地区（医病）中央診療棟建設工事に伴う試掘調査

＜調査期間＞

2002年11月７日

＜調査対象面積＞

16.3㎡

＜調査員＞

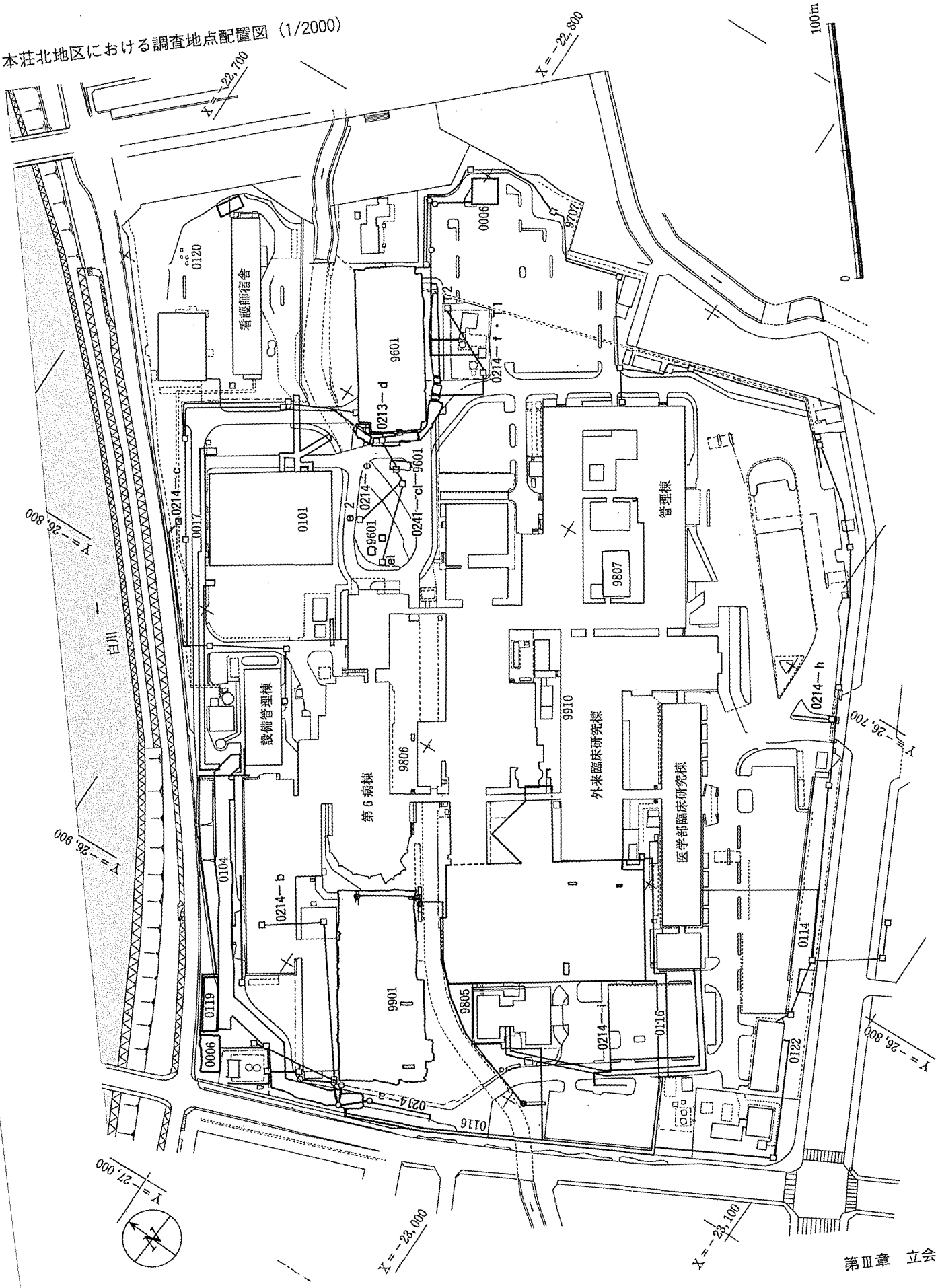
実施者：坂田和弘（熊本県文化課）.

立会者：小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

建設予定地内に３箇所のトレンチを設定して，重機によって掘削したところ，地表下２mまで土と砂の互層であり，その下部に明治時代～大正時代の包含層を確認した．その下部は細砂と粗砂の互層であり，河川堆積物であると判断された.

図19　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）



Ⅲ—4　京町地区　（図20参照）

1. 京町団地附属小学校スロープ取設工事に伴う立会調査（0209）

＜調査期間＞

2002年８月29日

＜調査対象面積＞

13㎡

＜調査員＞

小畑弘己.

＜調査概要・結果＞

小学校体育館西側において実施した．スロープの基礎の設置の掘削に伴い立会調査を実施した．地表を除去すると体育館の犬走りのコンクリートが露出したため，掘削深度の地表下45cmまではすでに破壊されているものと判断した．よって，遺物・遺構ともに確認していない．

Ⅲ—5　九品寺地区　（図21参照）

1. 九品寺地区体育部室（プレハブ）新設工事に伴う立会調査（0217）

＜調査期間＞

2003年３月７日

＜調査対象面積＞

３㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

体育部室新設工事に伴う立会調査である．場所は医療技術短期大学のグラウンド北辺である．工事範囲の東西端２箇所に１×1.5m程度のトレンチを設定し掘削を行った．地表下40cmまでは現代埋土であり，その下地表下60cmまでは砂質土層であった．遺物・遺構は検出されなかった．

2. 九品寺地区塀新設工事に伴う立会調査（0219）

＜調査期間＞

2003年３月11日

＜調査対象面積＞

36㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

医療技術短期大学敷地を囲む塀の新設工事である．敷地北側と東側一部の塀が破損したため，従来あった塀の基礎部分を利用し，一部補強を行って塀を新設するものである．今回は境界について隣家と合意の得られた，北側の西より90m部分について立会を行った．上述のように既設の基礎を利用し，また新設する補強の深度も既設基礎より下げないため，掘削は前回工事の掘削範囲内で遺物・遺構の検出はなかった．

図20　京町地区における調査地点配置図（1/3000）

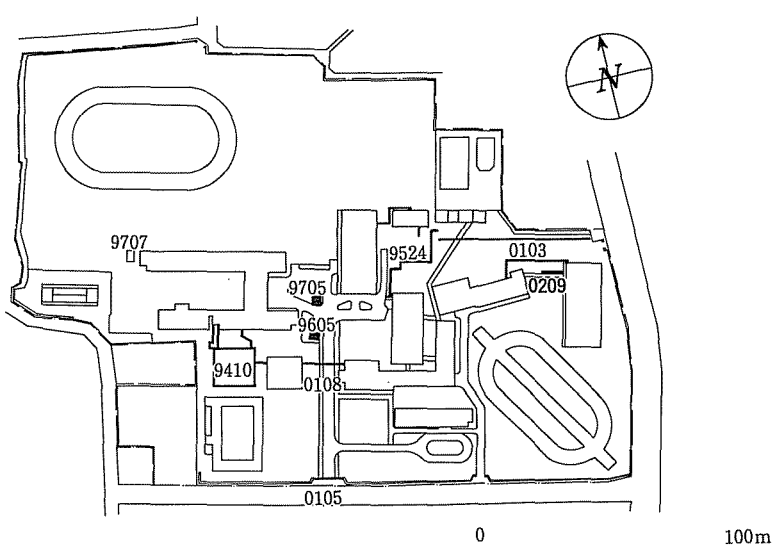
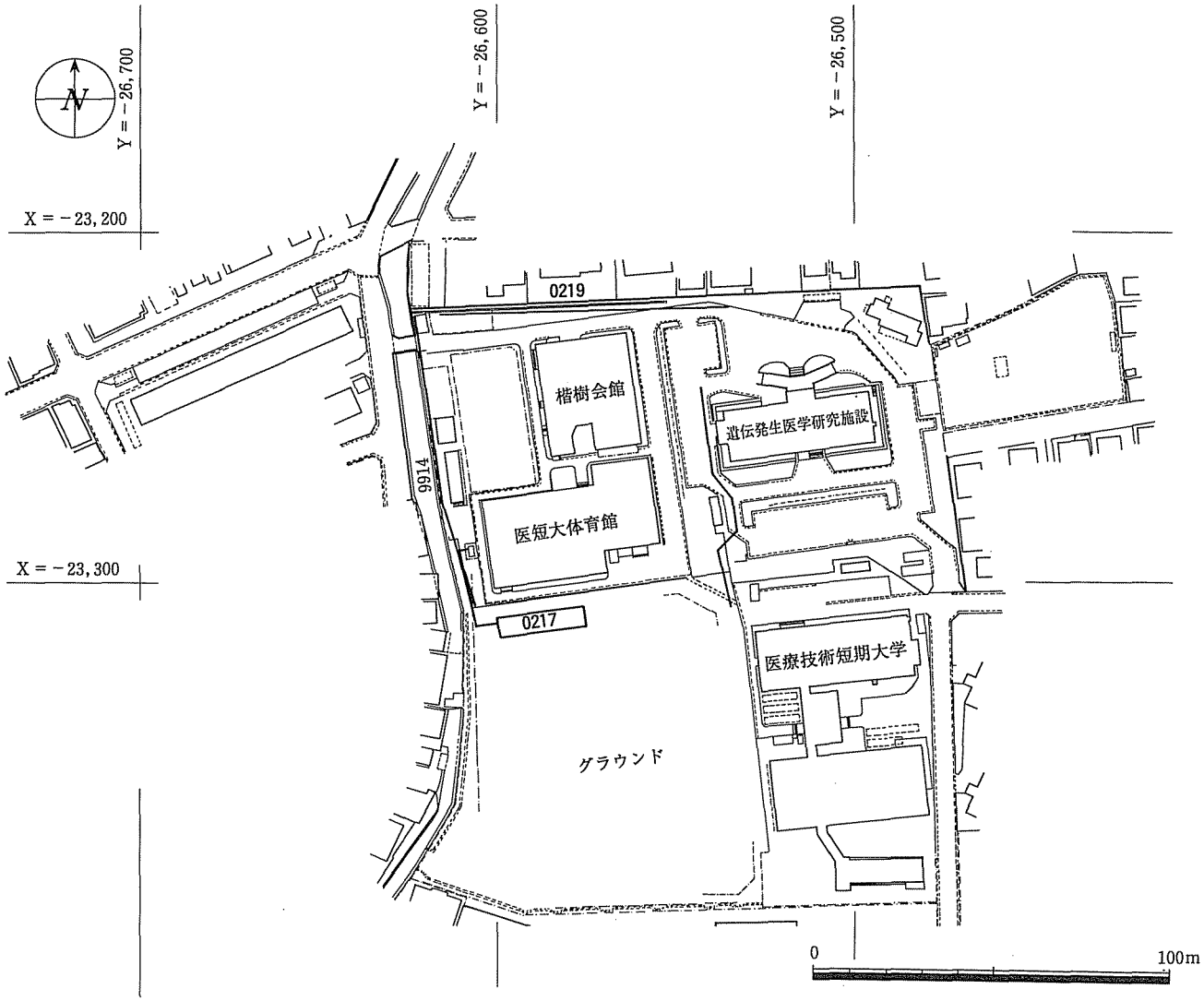


図21　九品寺地区における調査地点配置図（1/2000）



Ⅲ—6　薬学部地区　（図22参照）

1. 薬学部地区実験動物慰霊碑建立工事に伴う立会調査（0215）

＜調査期間＞

2003年２月18日

＜調査対象面積＞

3.4㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

薬学部敷地内の花壇に，実験動物慰霊碑を建立する工事に伴い立会調査を行なった．1.7×2.6mの範囲を20cm掘削したが，花壇の盛り土で遺物・遺構は検出されなかった.

2. 大江総合研究棟建設に伴う試掘調査

＜調査期間＞

2003年１月17日

＜調査対象面積＞

６㎡

＜調査員＞

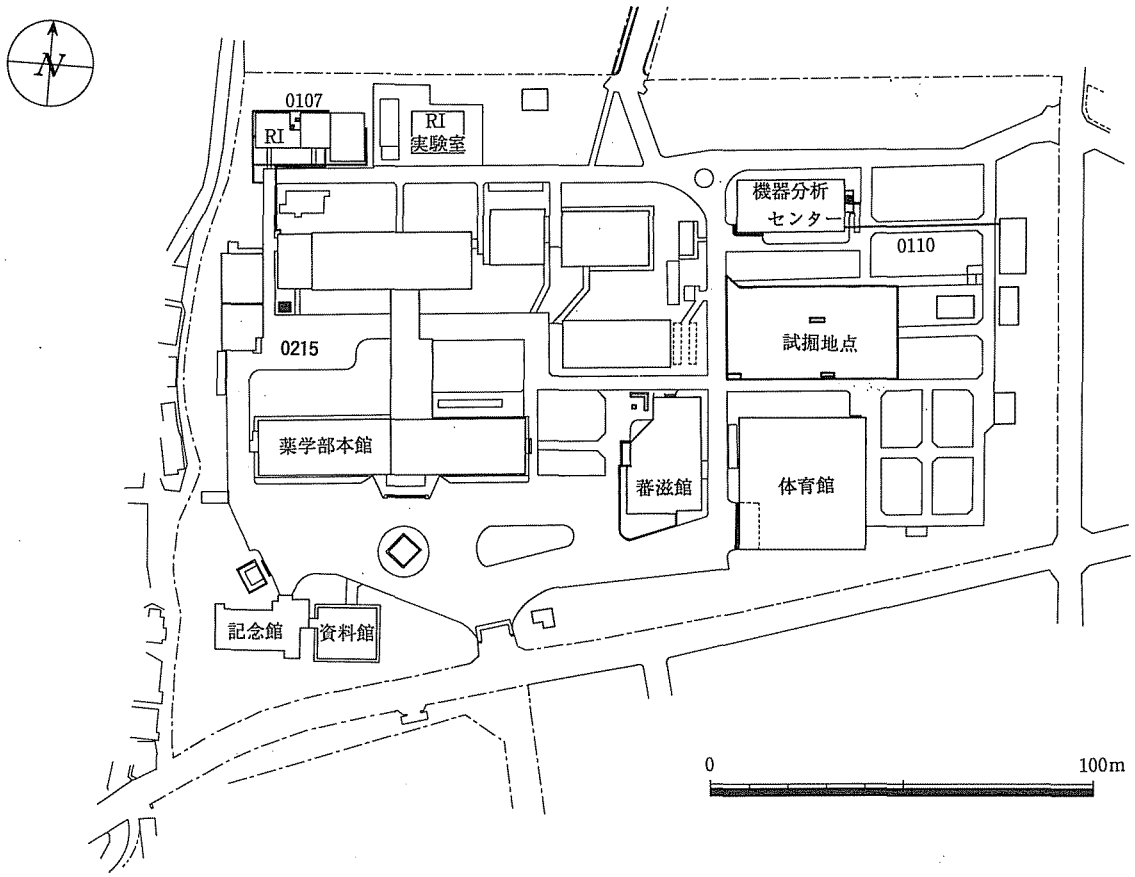
実施者：坂田和弘（熊本県文化課）.

立会者：小畑弘己・大坪志子.

＜調査概要・結果＞

建設予定地内に３箇所のトレンチを設定して，重機によって掘削したところ，地表下２mまで掘削したが，遺構や遺物はなにも検出できなかった.

図22　薬学部地区における調査地点配置図（1/2000）



跋　文

本年度埋蔵文化財調査室は発掘調査４件、立会調査14件、試掘調査２件を実施した。本年度から、熊本県の指導により、大学構内での発掘調査においては、それに先立って県の文化課が試掘調査をおこない、その結果に基づいて調査の具体的指示を出すこととなり、３件の試掘がおこなわれた。この行政手続きの変更により行政的にはすっきりとしてきたが、調査着手までの一連の手続きに時間を要するようになったことは、今後のキャンパス再開発計画において、なお一層の時間的な余裕をもった事業計画の策定が求められることを意味する。

今年度の調査の主要なものをみてゆくと、工学部から武夫原にかけては律令時代の詫摩郡衙から北に延びる地割の軸線がみられることが推定されていたが、工学部南側の発掘においては、はたして官道の側溝と推定される遺構が検出された。これは白川の船着場とそれに続く、「蚕養（こかい)」の駅に相当する遺構と関係するものであり、「国」印などの出土に示されるように、黒髪南キャンパスが奈良・平安時代の官衙地区の中心であったことを窺わせる。またこの地区では縄文時代早期から後期にかけての時期と古墳時代から平安時代にかけての集落址が多くみられ、さらに弥生時代の甕棺墓地が形成されているなど、熊本市でも有数の遺跡であることが判明したことは、今後の再開発にあたっては注意を喚起する必要があろう。

熊本大学埋蔵文化財調査室が発足して、この５月で満10年になる。この期間発掘調査した数多くの遺跡に関する正式な調査報告は、ようやく最初の２年間のものがこの３月でまとまる運びとなった。例え発掘調査を中断しても、過去の調査報告を作成するには５年が必要となる計算であるが、毎年緊急調査が続く中で、最低10年はこのような緊急調査への取り組みと、正式報告の作成という二重の「業務」の軋轢が継続されることとなる。したがって調査室はどのようにしたら貴重な学術資料としてこれら考古資料を活用するかの隘路に常に立たされているといっても過言ではない。

国立大学の独立行政法人化にむけての取り組みとして、各大学における「中期目標・中期計画」の策定が急がれているが、大学全体として埋蔵文化財をどのように位置付けるのか、大学上層部に何度も働きかけをしたにも拘らず、不明瞭なままに残されていることは調査室を預かる者として大変憂慮に堪えない。同様の問題をもっている岡山大学や大阪大学では、埋蔵文化財調査室を大学全体の「中期目標・中期計画」の中での将来像を明確にしているのに比して、取り組みの遅れが将来に禍根を残さないことを願うばかりである。

埋蔵文化財調査室長
甲元眞之

Summary

In 1985, Kumamoto University planned reconstruction of campus. But it was known that some of campus is designated as buried cultural assets zone. In the fiscal year 1994, Kumamoto University formed the Archaeological investigation committee and the Archaeological Operation Office in haste, and has been excavating the campus sites when the superannuated school buildings were rebuilt since then. We have two main campus sites at another areas. The one is the Kurokami area where is constituted of faculty of science and faculty of Engineering (south area), faculty of Education, faculty of Laws, and faculty of Letters (north area), and locates in Kurokamimachi site. The site is located at the foot of Mt. Tatuta (above 151.6m) on a low terrace (above sea level 18～25m) formed by the Shirakawa River. The site are regarded as an ancient station"Kokai". The other one is the Honjo area where is constituted of School of medicine, college of Medical Science (south area), and Kumamoto University hospital (north area), and belong to Honjo site. The site located on a low terrace (above sea level 12～13m) formed by Shirakawa River, similar to Kurokamimachi site. It is 2km from Kurokamimachi site to Honjo site in a straight line. In the circumstance of Honjo site, there are large ancient settlement sites like Oe site and Shinyashiki site.

The number of investigations in the current year is the following: 4 excavations, 18 presence investigations and 1trial excavation. The main results are the following.

At 0204 excavation spot in the Kurokami site, we excavated the site before the construction of research center. The excavated area is about 2803 square meters. As the result of excavation, we found a large ditch of early modern period, side gutters and some dwellings of ancient times. These side gutters trends from south to north, we regarded them as a part of the ancient government-road, which location of route have been presumed to be in Kurokami campus long time. The fact backs up the existence of Kokai posting-station of ancient period around here. In addition to them, we discovered a cremation burial and many postholes of ancient times. This cremation burial shows that this area was residence place for government official though they were lower officials, not for peasantry.

In connection with this construction of research center, we had to transplant a big wood be in construction area. So we excavated two points to plant. The one is the 0206 excavation spot, we discovered a jar used for burial of Yayoi period at 2.5m point under the surface. We think this jar used for burial is a part of the jar used for burial cemetery was excavated at 9704 spot. It shows there were big cemetery of Yayoi period at the top of the terrace was around here.

The other spot is 0210 spot, we dug 22 trenches. At two of them, we discovered parts of dwelling of ancient period, and at three points we discovered layer containing cultural remains of the end of last stage of Jomon period.

The position of 0203 excavation spot is 50m to the south of 0204 excavation spot, we excavated the site before the construction of the incubation. The excavated area is about 810 square meters. We discovered fields of early modern period at 2.5m point under the surface and a cemetery of modern period in the eastern side of 0203 area. It was made obvious that the cemetery belongs to Kumamoto prison and it was made from Meiji period still Showa period. So we stopped to excavate the cemetery. The result of the disposal of cemetery by trader proved that the cemetery was consisted of 220 burials.

In this way, the main excavation in the current year was carried out in the south of Kurokamimachi site. This area is very important area because there was Kokai posting-station and associated facilities of ancient period as above, so we need to investigate about this area with the fruits of excavations we have ever done. And there is not only structural remains of ancient period but the one of Kohun and Yayoi period in this area, so we have to excavate the site more cautiously in future.

구마모도 대학교는 건물이 낡아서 1985년 부터 새로 지울 계획을 세우고 있었는데, 대학교가 있는 구내지역이 유적 포함지로 지정되어있다는 사실을 알게 되었다. 그 때문에 재건설을 하기 전에 매장문화재의 발굴조사를 위해 급거 조사위원회와 조사실을 편성해, 1994년부터 조사를 해 왔다.

구내지역의 유적은 크게 두 지구로 나누어진다. 하나는 공학부, 이학부(남지구), 교육학부, 법학부, 문학부(북지구)가 자리한 黑髮(쿠로카미)캠파스로, 黑髮町유적의 일부이다. 이 유적은 立田山(다쓰타산)(표고 151.6m)기슭의 저위하안단구(표고 18～25m)상에 위치하며, 고대 "蚕養(코카이)" 의 역전으로 추정되고 있다. 또 하나는 의학부, 의료단기대학(남지구), 대학부속병원(북지구)이 자리한 本荘(혼저)캠퍼스다. 이 지구는 本庄유적의 일부이며, 黑髮유적과 마찬가지로 白川(시라가와)강의 저위하안단구(표고12～13m) 상에 위치한다. 本庄유적은 黑髮유적으로부터 직선거리로 2km 쯤 떨어져 있다. 이 유적과 근접한 곳에 大江(오오에)유적과 新屋敷(신야시키)유적봉의 큰 고대취탁 유적이 있다.

2002년도에 실시한 조사를 살펴보면, 발굴이 4건, 입회가 18건, 그리고 사굴조사가 1건이나 된다. 주요한 발굴조사 결과는 다음과 같다.

0204조사지점은 쿠로카미마치 유적에 속하고 있으며 이번 조사는 총합연구동의 건설을 계기로 시작했다. 조사 면적은 2800㎡이다. 조사 결과 근세 큰 도랑과 고대에 속하는 도로의 도랑이나 움집터 등을 확인할 수 있었다. 이 도랑들은 거의 남북방향에 통하고 있기 때문에 혹시 대학교 내에 있음이 추정된 고대 관도(官道)이 일부일 것으로 생각할 수 있으며 이 근처에 코카이역(蚕養驛)이 있을 가능성을 뒷받침하고 있다. 이 외에 유구로서 고대 화장(火葬)묘와 기동구멍들이 있으며 이 화장묘는 여기가 일반 농민들의 거주한 곳이 아니고 하급 관리라 하더라도 관리가 거주한 곳이었음을 증명하고 있다.

이 공물 건설에 연관하고 건설지 내에 있는 나무를 갈아 심기 위해 새롭게 심을 지점들을 발굴 조사했다. 그 하나인 0206조사지점에서는 지표 아래 2.5m 부분에서 야요이(弥生)시대 독무덤 한 개을 발견했다. 이 독무덤은 이전에 발굴된 9704조사 지점에서 나온 독무덤 묘지의 한 군데의 일부로 생각되며 이 지구 단구 가장자리에는 야요이시대의 묘지가 넓게 전개하고 있었음을 알 수 있었다.

또 하나의 지점은 0210조사지점이며 22개 구동을 파서 그 속의 2개에서 고대 움집터의 일부를, 그리고 3개 구동에서 기반토양 위에 있는 조몬(縄文)시대 후기 말 유물 포함층을 확인했다.

0203조사지점은 0204조사지점의 약 50m남쪽에 위치하고 있으며 이 조사도 연구동 건설을 계기로 한 것이다. 조사 면적은 810㎡이다. 조사 결과로 지표 아래 2.5m에서 근세 밭이랑을 발견했지만 조사 구덩이 동쪽을 중심으로 근대 묘군을 분포하고 있었음이 분명하게 됐다. 조사 도중으로 이 묘지가 명치(明治)시대부터 서화(昭和)까지 영위돼 왔던 쿠마모토 형무소의 묘지인 것이 밝혀졌기 때문에 이 시점으로 조사를 중지했다. 그 후 업자에 의한 처리로 묘수는 모두로 약220개가 됐다.

이와 같이 올해 발굴조사는 쿠러카미마치유적 속에서도 남부를 중심을 행해졌다. 이 지역은 위에서 말한 것과 같이 고대 코카이역을 중심으로 하는 시설들이 존재하는 지역으로 주목받고 있는 지역 때문에 앞으로는 이전에 실시된 조사 성과를 포함해서 자세하고 동시에 정확한 검토가 필요하다고 생각한다. 그리고 이 지역은 고대이외에 고분시대나 야요이시대 유구도 분포하고 있기 때문에 앞으로 조사할 때는 아주 중요한 지역이란 이식 아래서 당해야 된다.

付篇1　2002年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1．熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（H14．1．24～）

（設　置）

第1条　熊本大学（熊本大学医療技術短期大学部を含む。以下「本学」という。）に、熊本大学埋蔵文化財調査委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（任　務）

第2条　委員会は、本学の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する重要事項を調査審議する。

（組　織）

第3条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

(1)　各学部、大学院自然科学研究科、医学部附属病院及び医療技術短期大学部から選出された教授又は助教授各1人

(2)　事務局長

(3)　埋蔵文化財調査室長

(4)　その他委員会が必要と認めた者　若干人

2　前項第1号及び第4号の委員は、学長が委嘱する。。

3　第1項第1号及び第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

4　第1項第1号及び第4号の委員に欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

（委員長）

第4条　委員会に委員長を置き、委員の互選によって定める。

2　委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

3　委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

（議　事）

第5条　委員会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決をすることができない。

2　委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（意見の聴取）

第6条　委員長は、必要があるときは、委員以外の者を出席させ意見を聴くことができる。

（調査室）

第7条　委員会に、埋蔵文化財の発掘調査に関する業務を行うため、埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）を置く。

2　調査室の業務、組織その他必要な事項については、別に定める。

（事　務）

第8条　委員会の事務は、施設部企画課において処理する。

（雑　則）

第9条　この規定が定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附　則

1　この規則は、平成14年1月24日から施行する。

2　この規則施行の際、現に改正前の規則第3条第1項第1号から第4号まで及び第7号の規定により選出されている委員は、改正後の規則第3条第1項第1号の規定により選出されたものとみなす。

3　この規則施行後、最初に選出される第3条第1項第4号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成15年3月31日までとする。

2．熊本大学埋蔵文化財調査室要項

（趣　旨）

第１条　この要項は、熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則第８条第２項の規定に基づき、熊本大学埋蔵文化財調査室（以下「調査室」という。）の業務、組織その他必要な事項について定める。

（業　務）

第２条　調査室は、熊本大学（熊本大学医療技術短期大学部を含む。以下「本学」という。）の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する次の業務を行う。

(1)　実施計画の立案及び実施に関すること。

(2)　出土した埋蔵文化財の整理、保管及び保存に関すること。

(3)　文化庁等に提出する報告書の作成に関すること。

(4)　その他必要な事項

（組　織）

第３条　調査室に室長を置く。

２　室長は、調査室に関する業務を掌理する。

３　調査室に調査員その他必要な職員を置くことができる。

４　調査員は発掘調査に関する業務を行う。

（室長等の任命）

第４条　室長及び調査員は、本学の教官のうちから学長が任命する。

２　学長は、必要がある場合は、学外の者を調査員に委嘱することができる。

（事　務）

第５条　調査室の事務は、関係学部等の協力を得て、施設部企画課において処理する。

（雑　則）

第６条　この要項に定めるもののほか、調査室の運営に必要な事項は、熊本大学埋蔵文化財調査委員会が定める。

附　則

この要項は、平成12年４月１日から実施する。

3．2002年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1　埋蔵文化財調査室組織（2003年３月31日現在）

＜室　長＞	（併・文学部教授）	甲元　眞之
＜調査員＞	（併・文学部助教授）	小畑　弘己
	（併・文学部助手）	大坪　志子
＜事務補佐員＞		坂元　紀乃
＜室内作業員＞（2002年10月～2003年３月）		古賀　敬子
		溜渕　俊子
		林田　恵子
		早田　咲百合

2　埋蔵文化財調査委員会

委員長	北野　　隆	（熊本大学工学部教授）	任期（2001.6.7～2003.3.31）
委　員	木下　尚子	（文学部教授）	（2000.4.1～2003.3.31）
	春田　直紀	（教育学部助教授）	（2001.6.7～2003.3.31）
	大澤　博明	（法学部教授）	（2001.6.7～2003.3.31）
	安仁屋　勝	（理学部教授）	（2000.4.1～2003.3.31）
	小川　　尚	（医学部教授）	（2000.4.1～2003.3.31）
	今村　順茂	（薬学部助教授）	（2000.4.1～2003.3.31）
	土亀　直俊	（附属病院助教授）	（2001.6.7～2003.3.31）
	蔦川　忠久	（医技短大部教授）	（2001.6.7～2003.3.31）
	伊東　重剛	（大学院自然科学研究科助教授）	（2001.6.7～2003.3.31）
	長木　正治	（事務局長）	（2001.7.1～）
	甲元　眞之	（埋蔵文化財調査室長）	（1994.5.16～）

審議事項

2002年７月８日　　第14回埋蔵文化財調査委員会議事録要録確認
2002年度共通経費要求について
2002年度教官流用の申請について
委員長選出
2003年度教官流用の申請について
その他

付篇２　埋蔵文化財調査室2002年度調査・研究活動記録

１．個人活動

【室長】

甲元眞之

・平成13～15年度　文部科学省科学研究補助金　基盤研究（B）「先史・古代九州出土植物遺存体の実証的研究」分担代表者
・平成13・14年度　三菱財団研究補助金「寒帯～冷温帯地域における完新世環境変化への先史人類の適応戦略の研究」研究代表者
・平成14～17年度　文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（A）「琉球列島における農耕社会成立過程に向けた実証的研究」分担研究者
上記に係わる研究・調査・学会発表を実施した。

【調査員】

小畑弘己

・平成14・15年度　文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（C）「極東および環日本海地域における更新世末～完新世の狩猟道具の変遷研究」研究代表者
・平成14年度　財団法人味の素食の文化研究センター第13回食文化研究助成「植物遺存体からみた古代食物と食文化―雑穀の起源と展開―」研究代表者
・平成13～15年度　文部科学省科学研究補助金　基盤研究（B）「先史・古代九州出土植物遺存体の実証的研究」分担研究者
・平成13・14年度　三菱財団研究補助金「寒帯～冷温帯地域における完新世環境変化への先史人類の適応戦略の研究」分担研究者

・平成14～17年度　文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（A）「琉球列島における農耕社会成立過程に向けた実証的研究」分担研究者
上記に係わる研究・調査・学会発表を実施した。

大坪志子

・平成13・14年度　文部科学省科学研究費補助金　若手研究（B）「東アジアにおける玉作りに関する基礎的研究」研究代表者
報告書『東アジアにおける玉作りに関する基礎的研究』
・平成13～15年度　文部科学省科学研究補助金　基盤研究（B）「先史・古代九州出土植物遺存体の実証的研究」分担研究者
上記に係わる研究・調査・報告書作成を行った。

2．調査室活動

考古学研究室と共同で平成15年3月29・30日に『研究集会：九州・極東地域における植物種子研究の現状と課題』を開催した。

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぽう 9
書名	熊本大学埋蔵文化財調査室年報 9
副書名	
巻次	
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査室年報
シリーズ号	9
編著者名	甲元眞之・小畑弘己・大坪志子・坂元紀乃
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査室
所在地	〒860-8555 熊本県熊本市黒髪2-39-1　TEL. 096-342-3832　FAX. 096-342-3832
発行年月日	2003年3月31日

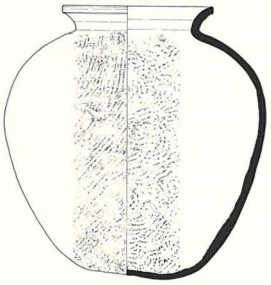
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
くろかみ 黒髪町遺跡 (0206地点)	くまもと 熊本県 熊本市 黒髪	43 201		32° 48′ 34″	130° 43′ 41″	20020520 ～ 20020529	28.0㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
くろかみ 黒髪町遺跡 (0203地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43 201		32° 48′ 31″	130° 43′ 43″	20020230 ～ 20020802	810.0㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
くろかみ 黒髪町遺跡 (0204地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43 201		32° 48′ 33″	130° 43′ 43″	20020612 ～ 20020814	2,803㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
くろかみ 黒髪町遺跡 (0210地点)	熊本県 熊本市 黒髪	43 201		32° 48'	130° 43'	20021001 ～ 20021003, 20021118	61.19㎡	学校敷地内の開発事業に伴う

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
黒髪町遺跡 (0206地点)	散布地	縄文・弥生	溝	甕棺	
黒髪町遺跡 (0203地点)	畑址	近世	畑址		
黒髪町遺跡 (0204地点)	集落址	縄文・古墳 古代	住居址・火葬墓 溝	縄文土器・土師器・ 須恵器	
黒髪町遺跡 (0210地点)	散布地	縄文・古代	住居址	縄文土器・石鏃・ 須恵器・土師器	

熊本大学埋蔵文化財調査室年報 9
— 2002年度—

平成15年 3 月25日　印刷
平成15年 3 月31日　発行

編集兼発行者　熊本大学埋蔵文化財調査室
熊本市黒髪 2 －39－ 1
電話（096）342－3832
印刷所　シモダ印刷株式会社



Published by
Archaeological Operation Center
Kumamoto University
Kumamoto, 2003